

貨與年月日	保管者氏名	返納年月日	備考
明治 年 月 日	巡查 何某 ㊟	明治 年 月 日 ㊟	何署へ轉勤ニ付返納
明治 年 月 日	巡查 何某 ㊟	明治 年 月 日 ㊟	死亡ニ付引揚ク
明治 年 月 日	巡查 何某 ㊟		

### 第五節 願、伺、届

#### ○願届申請取扱規程

(明治四十年一月 京都府告示第二十七號)

警察官署ノ取扱ニ屬スル願届申請ハ自今左ノ通  
取扱ハシム

一 願届申請ニシテ至急ヲ要セサルモノハ巡查部  
長派出所巡查派出所巡查駐在所ニ於テ受理ス  
但金品ヲ添付セシモノハ此限りニアラス

一 左記ノ願届申請ハ書面ヲ要セス口頭ヲ以テ受  
理ス但事件簡單ナルモノハ便宜郵便書又ハ

電話ニヨルモ妨ナシ

イ 諸營業諸工場ノ廢業、休業及營業主、工  
場主、管理者、干與者、雇人、船夫等ノ住  
所、移轉、解雇其他身上異動ニ關スル願届  
申請ノ類

ロ 鑑札、標札、檢査證帳簿類ノ毀損、廢棄、  
檢印、消印、書替、再渡等ニ關スル願届申  
請ノ類

ハ 各種ノ製造場、採收場、貯藏場、汽機、  
汽罐、劇場、興行場、觀物場、寄席、遊戯  
場、湯屋、牛乳榨取所、屠場、火葬場、長

〔京都警〕

〔京都警〕

屋其他檢査ヲ受クヘキ建設物ノ工事落成並  
ニ使用ノ廢止、休止等ニ關スル願、届、申  
請ノ類

ニ 一時ニ止マル道路ノ使用並ニ工事ノ爲メ  
通行止又ハ通行止ノ場所へ車馬曳入レニ關  
スル願、届、申請ノ類

ホ 荷車積荷制限外ノ長サアル物件(制限外  
ノ重量物ヲ除ク)運搬届

ヘ 舟、車體檢査並ニ使用廢止、休止、賣却  
等ニ關スル願、届、申請ノ類

ト 管外獸肉輸入並ニ賣肉種類變更届

チ 煙火打揚届

リ 諸證明願

ヌ 娼妓外出願

ル 貸座敷營業者婦女宿泊ニ關スル届

ヲ 迷子、家出人其他保護願

ワ 紛失物、遺失物、流失物、及拾得物、埋  
藏物、賊捨置品、漂流物、遺失紛失物發見  
ニ關スル届

カ 留置人面會及差入物願

#### 第一類警務 第一章處務、權限

ヨ 監視人病氣不參並ニ死亡逃亡ニ關スル届

タ 盜難届

レ 變死傷、老幼遺棄、並ニ人畜ノ死體發見等  
ニ關スル届、申告ノ類

ソ 墓地火葬場管理者ニ關スル届

ツ 埋火葬認許證檢閱願

子 改葬(傳染病死屍ヲモ含ム)並ニ獸畜死屍  
(獸疫ニ罹リタル死屍ヲモ含ム)發掘ニ關ス  
ル願

ナ 傳染病發生並ニ轉歸届

ラ 傳染病者移轉並ニ死體運搬、火葬、土葬  
等ニ關スル願届

ム 傳染病隔離區域内出入ニ關スル願

ウ 獸疫發生(畜牛猪核ヲ含ム)届

#### ○願届申請取扱手續

(明治四十年一月 訓第二號)

警察署長 警察分署長  
第一條 願届(申請ノ類ヲモ含ム以下做之)ヲ巡  
査部長派出所巡查派出所巡查駐在所ニ於テ受

第一類警務 第一章 處務、權限

理シ並ニ口頭又ハ電話ニ據ルヲ得セシメラレタルハ專ラ人民ノ便宜ト事務ノ簡捷ヲ圖リタルモノナレハ其取扱ヲ簡易敏活ナラシメ願届人ヲシテ時間ヲ徒費セシムル等ノコトアルヘカラス

同時ニ多數ノ願届人アル場合ト雖トモ其取扱粗漫ニ流レ又ハ親切ヲ缺ク等ノコトアルヘカラス

第二條 口頭又ハ電話ニヨル願届ハ其口述ヲ錄取シ書面ニ代フルモノナレハ誤聞誤記等アルトキハ當ニ執務上支障ヲ生スルノミナラス願届人ノ權義ニ至大ノ關係ヲ及ホスモノナルニヨリ能ク其主旨ヲ確メ且ツ必要事項ヲ遺漏セサル様注意スヘシ

第三條 一旦受理シタル願届ニ不備ノ點アルトキハ遺補訂正等ノ爲メ日時ヲ要シ却テ事務ノ滯滞ヲ生スヘキニヨリ署長ハ各願届ノ種別ニ從ヒ具備スヘキ必要事項ヲ舉ケ豫メ一般巡查ニ訓示シ特ニ受付、電話室、巡查部長派出所、巡查派出所、巡查駐在所ニ掲置シ置クヲ要ス

第四條 口頭又ハ電話ヲ以テ受理スヘキ願届ト雖トモ書面ヲ差出シタルモノアルトキハ之レヲ受理シ將來口頭又ハ電話ニ據ルヲ得ヘキ旨説明スヘシ但シ願届人申出頭ノ勞ヲ避ケン爲メ故テ口頭又ハ電話ヲ以テセントスル者アルトキハ強テ口頭又ハ電話ニ據ラシムルノ限リニアラス

第五條 巡查派出所、巡查駐在所ニ於テ至急ノ要シ又ハ金品ヲ添付シタル願届ニ接シタルトキハ書面ニヨルモノハ不備ノ點ナキヤヲ査閱シ口頭ニ係ルモノハ之レヲ錄取シタル上本人ヲシテ本署又ハ巡查部長派出所へ携帶出頭セシムヘシ

第六條 巡查部長派出所ニ於テハ處務細則第十條ノ規定ニ從ヒ其監督區域内ニ屬スル願届ヲ處理スヘシ  
指令用紙ハ豫メ署長印ヲ押シ捺紙數ヲ限リ曆年ノ始ニ之レヲ備付シ使用ノ都度受拂簿ニ登記シ毎月末日ニ其受拂殘高ヲ署長ニ報告スヘシ  
本條ニヨリ受理スヘキ願届ノ種類ハ豫メ署長

〔京都警〕

ヨリ指示シ置クヲ要ス

第七條 巡查部長派出所ニ於テ取扱ヒタル願届ハ便宜確實ノ方法ヲ以テ送致シ署長ノ閱覽ニ供スヘシ

第八條 巡查派出所ニ於テ受理シタル願届ニシテ交代ノ際未了ノモノアルトキハ日誌ニ記載シ當務員ニ引續キ且ツ其事由ヲ遞付簿ニ記載シ署長ノ閱覽ニ供スヘシ

第九條 署長並ニ監督補助者ハ巡查派出所巡查駐在所巡視ノ際願届取扱ノ適否ヲ監査シ不適法又ハ粗漫ノ行爲ナカラシムルヲ要ス

第十條 營業組合又ハ代書業者ニハ此際告示ノ主旨ヲ説示シ置クヲ要ス

願届申請取扱方

〔明治四十年二月 警第四三三號〕

願届申請取扱方ニ付左記ノ廉々御承知置相成度此段及通牒候也

一願、届、申請取扱ニ關スル告示中第一號ハ左記

第一類警務 第一章 處務、權限

〔京都總〕

口頭タルト書面タルトヲ論セス至急ヲ要ヤサルモノ及金品ヲ添付セサルモノハ派出所駐在所等ニテ受理セシムル主意ナルヲ以テ是等受理セシ書類ハ便宜確實ノ方法ニ依リ本署又ハ巡查部長派出所（手續第六條ニヨルモノ）へ送致スヘキモノナリ）假令ハ巡查出署ノ際又ハ幸便ノ際等取纏メ送致スルノ類）故ニ之レカ爲メ特ニ郵便料ヲ増加スル等ノ事ナシ

一 同告示第二號ニ示ス口頭受理ニ關スル願、届、申請ニシテ至急ヲ要スルモノ又ハ金品ヲ添付シタルモノ等ハ駐在所、派出所巡查ニ於テ錄取ノ勞ヲ取ルニ止マリ本人ヲシテ本署又ハ巡查部長派出所等ニ携帶出頭セシムルコト手續第五條ニ示スカ如シ但シ郡部ニ在テハ明治三十三年二月六日保第六四號通牒ニ依ル取扱ハ從前ノ通  
一金品添付セシ願届ヲ派出所、駐在所ニ於テ受理スルコトヲ除外セシハ取扱上間違ヲ生センコトヲ願慮セシニ外ナラス故ニ各署長

三一三

第一類 警務 第一章 處務、權限

ニ於テ確實ナル規定ヲ設ケ壹圓未満ノ拾得金品ノ如キ法令ニ抵觸セサル範圍内ニ於テ便宜上派出所ニ於テ取扱ハシムルハ機宜ノ方法ナリトス此場合ハ特ニ監督方法ノ嚴密ナルヲ要ス

- 一 巡查部長派出所ニ於テハ可成願、伺、申請取扱事項ノ範圍ヲ擴メ以テ人民ノ便宜ヲ圖ルヲ要ス假令ハ舟、車體、鑑札、票札類ノ定期検査ノ如キ受檢者多數ニシテ殊ニ遠距離ナルトキハ豫メ日時ヲ定メ主任者ヲ派遣シテ同派出所内ニ於テ取扱ハシムルカ如キ又ハ常時ノ取扱事務ニ於テモ檢印、烙印等ヲ備付置キ電話ヲ利用シ指揮ヲ受ケ之ヲ取扱ハシムルカ如キ其他類推スヘシ
- 一口頭願、届、受付用紙ハ派出所、駐在所ノ事務ノ繁閑ヲ量リ各巡查ニ豫メ紙數ヲ定メ之ヲ交付シ毎月其取扱タル員數ト殘高トヲ照査シ粗雜ニ流レサル様監督スルヲ要ス
- 一 他人ノ連署ヲ要スルモノ圖面、設計、仕様書、計算書技術ニ關スル意見書、説明書等

- 一 添付ヲ要スルモノ及權利義務ニ關係ヲ及ホス證據書類ノ如キハ口頭ニテ受理スヘカラス
- 一金品拾得、埋藏物發見、漂流金品等ノ届出其他重要ナル願、届、申請ハ本人ニ捺印セシムルヲ原則トス若シ捺印スル能ハサルトキハ其旨附記シ捺印セシムヘシ
- 一口頭願、届受付用紙ニ依ル願、届、申請ハ收受簿ニ登記スルヲ要ス而シテ處理ノ經路及結果ハ相當欄内ニ記入シ置クヘシ
- 一 願、届、申請ノ主意ハ要旨ヲ明確ニ記載スルヲ要ス敬語、敬稱、結文等ヲ記載スルノ要ナシ
- 一 處務細則第十五條末項ニ依ル指令書ヲ郵便ニテ發送スルハ事情止ムヲ得サル場合ニ限ルモノニテ可成確實ナル便宜法ニ依リ送達スヘキモノトス
- 一 告示以外ノ願、届、申請ト雖モ簡單ニシテ取扱上差支ナキモノハ可成之ヲ取扱ハシムルヲ可トス

○諸願伺副本ヲ要セサル件

(明治二十七年一月 京都府公示第五號)

當府廳へ差出ス諸願伺等ハ自今副本ヲ要セス但特ニ規定アルモノハ此限ニアラス

○府廳ニ提出スル願届記載方

(明治四十二年二月 京都府告示第七十三號)

自今當廳ニ提出スル願届書ニ願届人ヲ示表スルニハ法令ニ特別ノ規定アルモノ及當廳ニ於テ特ニ必要ト認メ指示スル場合ノ外其住所氏名ノミヲ記載シ族籍職業年齢及本籍地等ハ之ヲ記載スルニ及ハス

第六節 會議、召集

○警察會議規則

(明治二十年一月 本甲第三號)

第一條 警察署長會ハ一ヶ年三回(三月、七月、十一月)警察部内ニ於テ之ヲ開クモノトス

第二條 警察方面會ハ一ヶ年二回方面内警察署ニ於テ輪番ニ之ヲ開クモノトス其會員ハ(區

第一類 警務 第一章 處務、權限

○警察會議規程

(明治二十年三月 本甲第三號)

第一條 總則

第一條 警察會議ハ警察ノ氣脈ヲ通シ警察上施行ノ便否得失ヲ商議スル爲メ開クモノトス

部)ハ警察署長及部課長郡部ハ警察署長又ハ部課長ノ内一名及分署長トス但方面區域ハ

警察職務細則第一條ニ依ル

第三條 警察部各課長ハ警察署長會ニ列スルモノトス

第四條 警察部各課長及課員ハ警察方面會ニ臨席スルコトアルヘシ

第五條 警察署長會期日ハ其時々警察部ヨリ通報スルモノトス

第六條 警察方面會期日及場所ハ豫メ警察部ニ報告スヘシ

第七條 第二條ノ外臨時方面會ヲ開クヲ要スルコトアルトキハ(警察署長)ノ裁可ヲ得テ開會スルコトヲ得但本條ノ場合ニ於テモ第六條ニ準シ報告スヘシ

第一類 警務 第一章 處務、權限

第二條 警察會議ハ討議會、諮詢會、協議會ノ三種ニ分ツ其議案ニ就キ可否ヲ議スルモノヲ討議會トシ警察上ノ要件ニ就キ會員ノ意見ヲ諮詢スルモノヲ諮詢會トシ事務上ニ就キ協議スルモノヲ協議會トス

第二章 職制

第三條 會長以下職制ヲ定ムルコト左ノ如シ

總會々長 會長ハ警察部長ノ任トス

方面會長 會長ハ開會地警察署長之ヲ掌ル但事故アルトキハ會員中上席ノ者ヲ以テス

幹事 總會ニ於テハ會長ノ見込ヲ以テ會員中ヨリ幹事一名ヲ選定ス會長缺席又ハ事故アルトキハ其職務ヲ代理シ及會議一切ノ事務ヲ幹理ス但自己ノ意見ヲ述ル等總テ他ノ會員ト異ナルコトナシ

第四條 會議ハ午前第九時ニ始メ午後三時ニ終ル但時宜ニ依リ會長之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第五條 會議ノ始終ハ擊拆ヲ以テ之ヲ報ス

第六條 會員ノ席次ハ每抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 開議中ハ會員ノ氏名ヲ唱ヘスシテ番號ヲ唱フヘシ

第八條 出席會員全數ノ過半數ニ充タサルトキハ當日ノ會議ヲ開カサルモノトス

第九條 議題ノ外開議中ニ起リタル總テノ事件ハ會長之ヲ決シ又ハ會議ノ決ヲ取ルモノトス

第十條 會長ハ豫メ議案ヲ會員ニ頒布ス

第十一條 會長ハ書記ヲシテ議案ヲ朗讀セシム若シ疑義アルトキハ主任者若クハ會長ニ質問スヘシ

第十二條 發議セント欲スル者ハ起立シテ會長ヲ呼ビ其許可ヲ受ケ會長ニ向ツテ陳述スヘシ會員直ニ應答スルヲ得ス

第十三條 議事ハ會員起立ノ過半數ニ依テ決ス若シ同數ナルトキハ會長之ヲ決ス

第十四條 會員ハ一議事ニ付兩說ヲ發スルコトヲ得ス若シ前說ヲ非トスルトキハ其取消ヲ得ルト雖已ニ議題トナリタルモノハ會議ニ問ヒ之ヲ決スルモノトス

第十五條 議事ハ左ノ三次ニ區別ス  
第一次會 議案ノ總體ニ付其可否ヲ決ス  
第二次會 議案ノ逐條ニ付其可否ヲ決ス  
第三次會 全案ニ付其可否ヲ決ス

第十六條 修正說ハ第二次會第三次會ニ於テ之ヲ提出スルコトヲ得但第二次會ニ於テ贊成者ナキモノ及第三次會ニ於テ二名以上ノ贊成者ナキモノハ議題トナスコトヲ得ス

第一類 警務 第一章 處務、權限

第十七條 修正說ヲ提出セント欲スル者ハ錄シテ文案トナシテ議長ニ提出シ又ハ議席ニ於テ陳述スルコトヲ得

第十八條 議事ニ付建議アリタルトキハ會長之ヲ決シ或ハ會議ノ決ヲ取ル議題ヲ增加スルノ說ヲ提出スル者アルトキ亦同シ

第十九條 辯論未タ終ラサルモ會長ニ於テ論旨已ニ盡タリト認ムルトキハ辯論ヲ中止スルコトアルヘシ

第二十條 起立ノ數ハ書記之ヲ檢シ其議決ハ會長之ヲ報告ス

第二十一條 一議題ニ付論說數派ニ涉リ可否過半數ヲ得サルトキハ會長ノ意見ヲ以テ委員ヲ選ミ立案セシメ更ニ會議ニ付スルコトアルヘシ

第二十二條 第十條第十一條第十二條及第十九條ハ本會ニ於テモ亦之ヲ適用ス

第二十三條 本會ハ議決ヲ要セスト雖時宜ニ依リ會長參考ノ爲メ起立ヲ命ジ又ハ文案ヲ以テ

第三節 諮詢會

第四節 總會

第五節 會場整理

第六節 總會

第七節 總會

第八節 總會

第九節 總會

第十節 總會

第十一節 總會

第十二節 總會

第十三節 總會

第十四節 總會

第十五節 總會

第十六節 總會

第十七節 總會

第十八節 總會

第十九節 總會

第二十節 總會

第二十一節 總會

第二十二節 總會

第二十三節 總會

第二十四節 總會

第二十五節 總會

第二十六節 總會

第二十七節 總會

第二十八節 總會

第二十九節 總會

第三十節 總會

第三十一節 總會

第三十二節 總會

第三十三節 總會

第一類警務 第一章處務、權限

答ヘシムルコトアルヘシ

第四節 協議會

第二十四條 本會ハ議案ヲ要セスト雖之ヲ提出スルト否トハ會員ノ隨意ニ任ス但時宜ニ依リ會長ヨリ發議者ニ命シ文案ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第二十五條 本會ハ發言自由ナリト雖二人以上同時ニ陳述スルコトヲ許サス

第二十六條 議事ニ付會長意見アルトキハ其席ニ於テ直ニ發言スルコトアルヘシ

第二十七條 議事ハ靜肅ヲ旨トシ總テ議事ヲ妨クルノ舉動アルヘカラス

第二十八條 議事ハ會員漫リニ席ヲ離ルヘカラス

第二十九條 遲參ノ會員ハ會長ノ許可ヲ得テ著席スヘシ

第三十條 議事ハ警察官吏ニ限り會長ノ許可ヲ受ケ傍聽スルコトヲ得

第四章 組合會

第三十一條 議則議件及會場ハ會員ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第三十二條 議決ノ事項ハ其要領ヲ記錄シテ會長ヨリ警察部長ニ具申スヘシ

第三十三條 本會ハ警察ノ事項ニ付意見アルトキハ會長ノ名ヲ以テ警察部長ニ建議スルコトヲ得

第三十四條 警察部員ヲ派遣シ臨會セシムルコトアルモ會員ノ數ニ加ヘサルモノトス但質問ヲ要スルコトアルトキハ會長ノ許可ヲ得テ派出員ニ質問スルコトヲ得

警察方面臨時會ノ件

(明治二十九年四月訓示 第三四號)

警察方面會ハ規定外尙臨時必要アルニ際シ旅費ノ許ス限リハ一年二回各方面警察署ニ於テ輪番之ヲ開クコトヲ得

臨時方面會ヲ開クトキハ開會十日以前ニ當番警察署ヨリ其旨警察部ヘ報告シ又同會ニ於テ決議シタル事件ハ閉會後五日以内ニ其理由ヲ悉シ上

〔京都警〕

申スヘシ

警察方面會ニ隣接警察署長臨會ノ件

(明治二十年三月本甲第三七號)

警察方面會區域ノ義ハ該規則第二條但書ニ從フヘキ筈ノ處假令區域ヲ異ニスルモ其所轄相接スル警察署ノ如キハ自然互ニ關係スル事柄モ可有之ニ付其場合ニ於テハ開會警察署ニ隣接スル地ノ警察署長ニ限り臨時出會スルモ不苦候條該警察署ニ關係ノ事故アルトキハ開會警察署ヨリ豫メ通報スヘシ

警察官非常召集規則

(明治二十七年七月京都府訓令第六十一號)

第一條 非常召集ハ非常事變ニ際シ之ヲ行フモノトス但平時ト雖演習ノ爲メ行フコトアルヘシ

第二條 非常召集ヲ別チテ左ノ二種トス  
一 大召集 二 小召集

第一類警務 第一章處務、權限

〔京都警〕

第三條 大召集ハ各警察署分署ノ總員又ハ其幾部ヲ小召集ハ一署所屬ノ總員又ハ其幾部ヲ召集スルモノトス

第四條 大召集ハ〔警部長〕之ヲ行ヒ小召集ハ署長又ハ分署長之ヲ行フモノトス

第五條 警察署分署ニ於テハ豫メ別紙雛形ニ從ヒ召集票ヲ調製シ警部巡查ノ氏名住所ヲ詳記シ備置クヘシ

第六條 大召集ハ電信電話其他ノ方法ニ依リ署長又ハ分署長ニ令達スルモノトス

第七條 署長分署長ハ大召集ノ命令アリタルトキ又ハ小召集ノ必要アルトキハ豫テ備付アル召集票ニ屯集所及ヒ發令日時ヲ記入シ巡查若クハ急使ヲ以テ送達セシムヘシ但市部警察署ニ於テハ便宜巡查派出所ニ送達シ同所詰員ヲシテ其巡行區内住居ノ署屬員ヘ傳送セシムルコトヲ得

第八條 召集票ノ配付ヲ受ケタル者ハ直ニ票中相當欄内ニ受領時間ヲ記入シ制規ノ服裝ヲ爲シ迅速指定ノ場所ニ參集シ其票ヲ差出シ上官

第一類警務 第一章處務、權限

ノ指揮ヲ待ツヘシ

**第九條** 疾病其他ノ事故ニ依リ召集ニ應スル能ハサル者ハ速ニ其旨届出ツヘシ但疾病者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

**第十條** 召集ニ應スルヲ要セサル者左ノ如シ

- 一 病氣引籠中ノ者
  - 二 許可ヲ受ケ旅行中ノ者
- 第十一條** 署長分署長ハ召集解散後二十四時間内ニ別紙雛形ニ從ヒ其成績ヲ〔警部長〕ニ報告スヘシ

非常召集票

官氏名	住所	屯集所	發令日時	受票日時	到着日時
			日午時分	日午時分	日午時分

一寸五分

三寸九分

明治何年 何月何日 非常召集成績表

何警察署

〔京都警〕

〔京都警〕

發票時間	受票時間	著參時間	距離	官氏名

○巡查教習所受業生召集心得

〔備考〕 市部各署ハ距離ノ記載ヲ要ス

(明治三十一年九月) 教訓 第二號

**第一條** 受業生ハ警察官非常召集規則ニ依ルノ外尙此心得ニヨリ演習ノ爲メ臨時ニ召集ヲ行フコトアルモノトス

**第二條** 召集ヲ分チテ整列召集、遠足召集ノ二

第一類警務 第一章處務、權限

種トス整列召集トハ一定ノ場所ニ召集シ點檢ヲ行ヒ直ニ解散スルヲ云ヒ遠足召集トハ一定ノ場所ニ召集シ遠足勤務ヲ試ムル爲メ教官引卒構外演習ヲ爲スヲ云フ

**第三條** 前條ノ召集ハ三聲ノ吹笛ヲ以テ之ヲ令スルモノトス

**第四條** 受業生ハ召集ノ令アリタルトキハ制裝

第一類警務 第一章 處務、權限

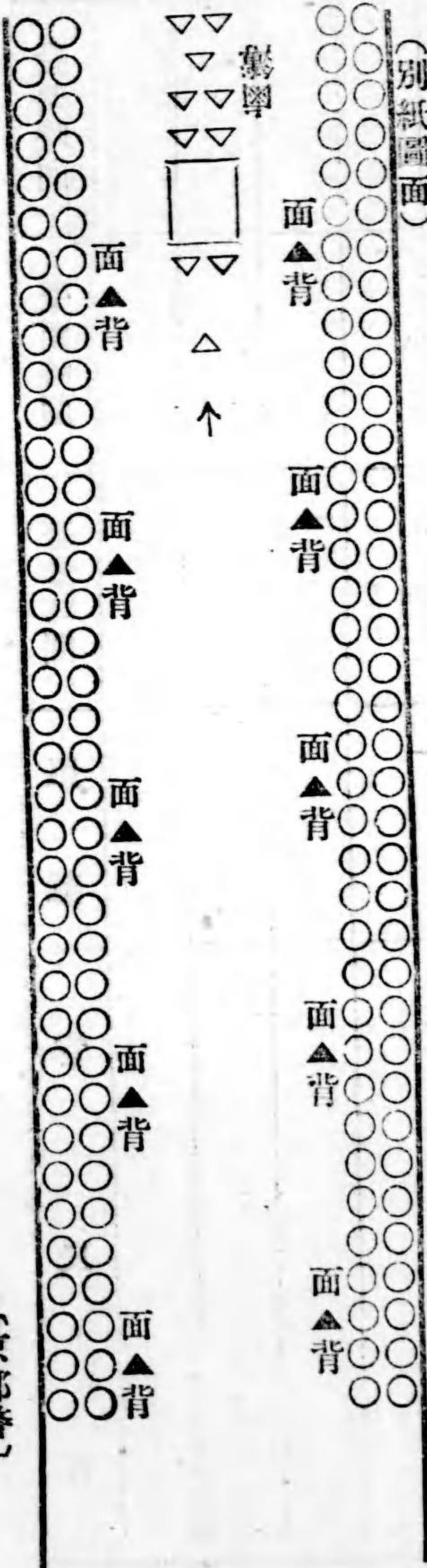
ヲ爲シ迅速其ノ指定ノ場所（場所ハ其都度當  
席ニ揭示ス）ニ參集到著順ニ整列スヘシ  
但場所ノ指定アラサルトキハ出所中ニ在テ  
ハ運動場ニ退所後若クハ休暇日ニ在テハ京  
都府廳前ニ參集スヘシ

第七節 警衛、戶口調査  
○行幸啓警衛心得

（明治三十三年五月）  
（訓示第一四號）

警察官ニシテ警衛ニ從事スルトキハ瞬時ト雖モ

（別紙圖面）



〔京都警〕

警戒ヲ怠ルヘカラスルヲ以テ警察禮式第十四條  
ニ特例ヲ設ケアル儀ニ候處實際ハ禮式ヲ行ヒ爲  
メニ本務ノ警戒ヲ全フセサル向モ有之警衛ノ趣  
旨ニ副ハサル儀ニ候間自今警衛線ニ配置シタル  
警察官ハ總テ禮式ヲ爲サシメス專心警戒ニ從事  
セシメ而シテ現場ニ於テハ警察官ハ公衆ノ前ニ  
於テ別紙圖面ノ如ク側面ノ方向ヲ取り鳳釐其他  
警衛ヲ要スル人ノ進行シ來ル方ニ向ヒ居リ主ト  
シテ視線ヲ公衆ニ注キ通御又ハ通過ノ間際ニ於  
テハ却テ注意ヲ缺クコトナキ様致サルヘシ右其  
筋ノ通牒ニ依リ訓示ス

○○公衆  
▲巡查

警衛心得

- 一 途上警衛ニ配置セラレタル巡查ハ通御ノ  
安全ヲ期スルヲ以テ唯一ノ目的トシ此目的  
以外ニ於テハ假令非常又ハ火災等アルモ上  
官ノ指揮ナキ限りハ其位置ヲ離ルヘカラス
- 二 人ヲ制止スルニ當リテハ謹嚴靜肅ヲ旨ト  
シ大聲宣呼スヘカラス
- 三 拜觀人ハ專テ靜肅ヲ旨トシ通御ニ際シ拍  
手スル等ノコト無之様注意セシムヘシ
- 四 通御時間ニ際スルトキハ左ノ各項ニ從ヒ  
取締ヲ爲スヘシ
  - 一 車馬其他通御ノ障碍トナルヘキモノハ  
他路若クハ路傍ニ避ケシムヘシ
  - 但諸車ハ先發警部ノ來ルニ際シ（一丁）牛  
車ハ通御ノ三十分前他路ニ避ケシムヘシ
  - 二 樓欄厠窓其他高所ニ在テ瞰視スル等都  
テ不敬ニ涉ルヘキ所爲ハ之ヲ制止スヘシ  
但地形ノ傾斜等ニ依リ自然高マリタル場

第一類警務 第一章 處務、權限

〔京都警〕

- 三 所ノ如キハ此ノ限りニアラス
- 三 通行人ハ一時之ヲ止メ拜觀人ハ障碍ト  
ナラサル場所ニ並列セシメ先發警部ノ通過  
ト同時ニ帽笠其他冠物等ハ之ヲ脱シ傘ハ  
之ヲ縮メ敬禮スルコトニ注意セシムヘシ
- 四 檻樓ヲ纏ヒ又ハ異様若クハ見苦シキ風  
體ノモノハ拜觀人ノ最後ニ列セシムヘシ
- 五 學校生徒等監督者ノ下ニ引卒セラル、モ  
ノ及ヒ團體員ニ對シテハ脱帽等ノ注意ヲ爲  
スニ及ハス
- 六 郵便車及ヒ郵便電信ノ配達夫ハ通御ニ妨  
ケナキ限リハ通行セシムヘシ
- 七 鐵道線路警衛巡查ハ豫メ各受持區域ノ拜  
觀ニ對シ第三項及ヒ第四項二號乃至四號ノ  
主旨ヲ通告シ置キ通御ノ五分前更ニ相當ノ  
注意ヲ與フヘシ
- 八 鐵道線路ノ中堀割又ハ築堤等ノ上ニ於テ  
拜觀スル恐アル處ハ充分注意ヲ加フルハ勿  
論豫メ村長及ヒ村内頭立チタル者ニ協議シ  
防制ノ方法ヲ取ラシムヘシ

第一類警務 第一章 處務、權限

三二四

九 途上警衛ニ從事スル巡查ハ絕對ニ禮式ヲ行フヲ要セサルモ警部ハ御車ノミニ對シ警備ニ妨ケナキトキハ禮式ヲ行フヘシ

○行幸啓警衛注意事項

(明治二十八年四月 京都府訓令第七十號)

- 一 物蔭ヨリ透見シ又ハ階上其他高所ニ在リテ拜觀スル等不敬ニ涉ルモノハ制止スヘシ
- 二 郵便車及脚夫ハ鹵簿ニ差支ナキ限り通行セシムヘシ
- 三 帽傘其他冠物ハ之ヲ脱シ又ハ縮メシムヘシ但洋裝ノ婦人ハ脱帽ノ限ニアラス
- 四 外國人敬禮ハ左ノ如シ
  - 歐米人
    - 男子 脱帽
    - 女子 冠帽ノ儘
  - 清國朝鮮國人
    - 男子 冠帽ノ儘
    - 女子 冠帽ヲ用ヒス
  - 土耳其國人

- 男子 清朝朝鮮國人ニ同シ
- 女子 冠帽セサルモ覆面シテ脱セス
- 五 進行ヲ止メタル馬車ト雖馭者ハ必シモ下乗ヲ要セス尤モ要臺ニアルトキハ殊ニ不敬ナキ様注意セシムヘシ
- 六 御通聲ノ際ハ喫烟又ハ雜言ヲ禁スヘシ
- 七 毛布莞蔕ノ著用ヲ禁スヘシ
- 八 裾蹠ヲ禁スヘシ
- 九 首卷鉢卷頰冠ヲ禁スヘシ
- 十 御通聲ノ際ハ姿勢ヲ正シ敬禮セシムヘシ
- 十一 鹵簿ヲ侵シテ通過セントスル者ハ之ヲ支ヘ其他不敬ニ涉ルモノ制止ヲ肯セサルトキハ取押ヘシ
- 十二 前各項ノ取締ハ前發警部ノ通行ヲ期シテ著手スヘシ
- 十三 御道筋ハ清潔ヲ主トシ障害物ヲ除キ拜觀者ノ不敬及混雜ナキ様注意スヘシ
- 十四 牛車馬其鹵簿ノ障害トナルヘキモノハ他路若クハ路傍ニ避ケシムヘシ
- 十五 御見通ノ場所ニ干物又ハ見苦シキ物品

〔京都警〕

ヲ置カシムヘカラス

- 十六 醉狂發狂人其他見苦シキ風體ノ者ハ他ニ避ケシムヘシ
- 十七 御警衛中供奉員ニ對シテハ禮式スルニ及ハス
- 十八 街角ヲ除クノ外道敷ニ拜觀者ヲ併列セシムヘカラス
- 十九 通行人ハ先發警部ノ通行ヲ期シ同時ニ其通行ヲ差止ムヘシ

○行幸啓ノ際途上警衛ニ關スル件

(大正五年八月 訓第一〇九號)

警察署長

行幸啓ノ際途上警衛ニ從事スル警察官吏ハ鹵簿ノ進行ニ相對シ正シク側面ノ方向ヲ取リテ直立シ

第一類警務 第一章 處務、權限

〔京都警〕

一度警衛線ニ配置セラル、ヤ態度或ハ畏縮ニ過キ爲メニ志氣ヲ萎微シ或ハ形式ニ流レテ精神ノ緊張ヲ缺クノ嫌アリ若シ事ニ臨ミ機宜ノ措置ヲ講スル能ハサルカ如キコトアルニ於テハ事體寔ニ容易ナラス自今一層深ク意ヲ此ニ致シ警衛ニ從事スル部下ニ對シテハ配置前懇篤周密ニ訓授シ職任ノ重大ナルヲ自覺セシメ更ニ訓授ノ趣旨徹底セルヤ否ヤヲ警衛警備ニ關スル必須ノ事項ヲ熟知セルヤ否ヤヲ試問シ尙配置後ニ於テハ嚴格ニ各自ノ擔任區域ヲ定メテ責任ヲ明確ナラシメ志氣ヲ振作シテ嚴密警戒ノ任務ニ當ラシメ警衛上遺憾ナキヲ期スヘシ

○行幸啓途上警衛ニ關スル件

(明治三十二年六月 訓第四二號)

行幸啓途上御警衛ニ關シ別紙ノ通訓令相成候ニ付テハ向後右趣旨ニ依リ取締方注意セラルヘシ(別紙)

三二五



第一類警務 第一章 處務、權限

行幸啓途上御警衛ニ關シテハ從來御旗ノ近接スルニ際シ取締巡查ニ於テ拜觀人ニ對シ帽子其他冠物ヲ脱スル様敬禮ノ注意ヲ促シ來リ候處是等ハ今日ニ於テ一般人民ノ既已ニ辨知致シ居ルヘキ筈ニ付不心得ノ輩ニ注意ヲ與フルハ格別一般拜觀人ニ對シ注意ヲ促スノ必要ナカルヘク又高所ニ在リテ御通輦ヲ拜スルカ如キモ其御輦路ヨリ隔絶セル場所又ハ地形上拜觀者ノ位置自然高キニ居ル場合等ハ大低之ヲ差止ムルニ及ハス右ハ素ヨリ各地狀況ヲ別ニシ都鄙其ノ習俗ヲ異ニシ必スシモ齊一ヲ期スル能ハサルヘキヲ以テ彼此斟酌シ寬嚴其度ヲ誤ラサル様取締方注意セラルヘシ

○行幸啓ノ際御通路及停車場取

締ノ件

(明治三十二年五月) (警第二八八號)

行幸啓ノ際取締上ノ儀ニ付別紙之通訓令及通牒有之候ニ付テハ此段及通牒候也

(別紙)

内務省訓第四七八號(明治三十二年五月十二日)

兩陛下竝ニ皇太子殿下行幸啓ノ際取締上十分ノ御注意ヲ要スルハ勿論ニ候得共其レカ爲メ交通ヲ妨ケ人民ニ不便ヲ與フルコトハ御旨意ニ有之間敷候ニ付御通路ノ停車場ニ於ケル取締向ハ別紙ノ通心得ラルヘシ

(別紙)

一御通輦ノ際ハ不敬ニ涉ラサル限リハ成ルヘク通行及拜觀ノ便ヲ與ヘ行通ハ御先驅ニ先ツ警部(御先驅ヨリ凡一二丁前進スルヲ例トス)通過ヲ台圖トシ之ヲ停止スヘシ

一汽車御發著ノ場合ハ通常汽車ナルトキハ乘御ノ際ハ先ツ一般乗客ヲ乗車セシメ御下車ノ際ハ一般乗客ノ下車ヲ停メ御下車ヲ待タシムヘシ但相當ノ距離ヲ保チ雜沓ニ涉ラサル限リハ全ク御通過ナキモ一般乗客ヲ下車セシムヘシ而シテ此場合ニ於テハ警察官ヲ

〔京都警〕

〔京都警〕

キモ場所其他ノ狀況ニヨリ固ヨリ一定致兼候得共凡別紙圖例ニ準シ御取計出成度爲念此段申進候頓首

明治三十二年一月十二日

警保局長

- シテ其先頭ニ在テ不都合ナキ様注意セシムルヲ要ス
- 一御停車ノ際御召車ノ前面ヲ一般乗客ヲシテ通行セシムルモ妨ケナシ但御召車ヨリ相當ノ距離ヲ保チ且雜沓ニ涉ラシメサル様注意スヘシ
- 一ブラットホームノ入口ニケ所以上アル場合ハ一方ヲ御通行ニ充テ他ノ一方ヲ一般乗客ノ通行ニ充ツコトヲ得

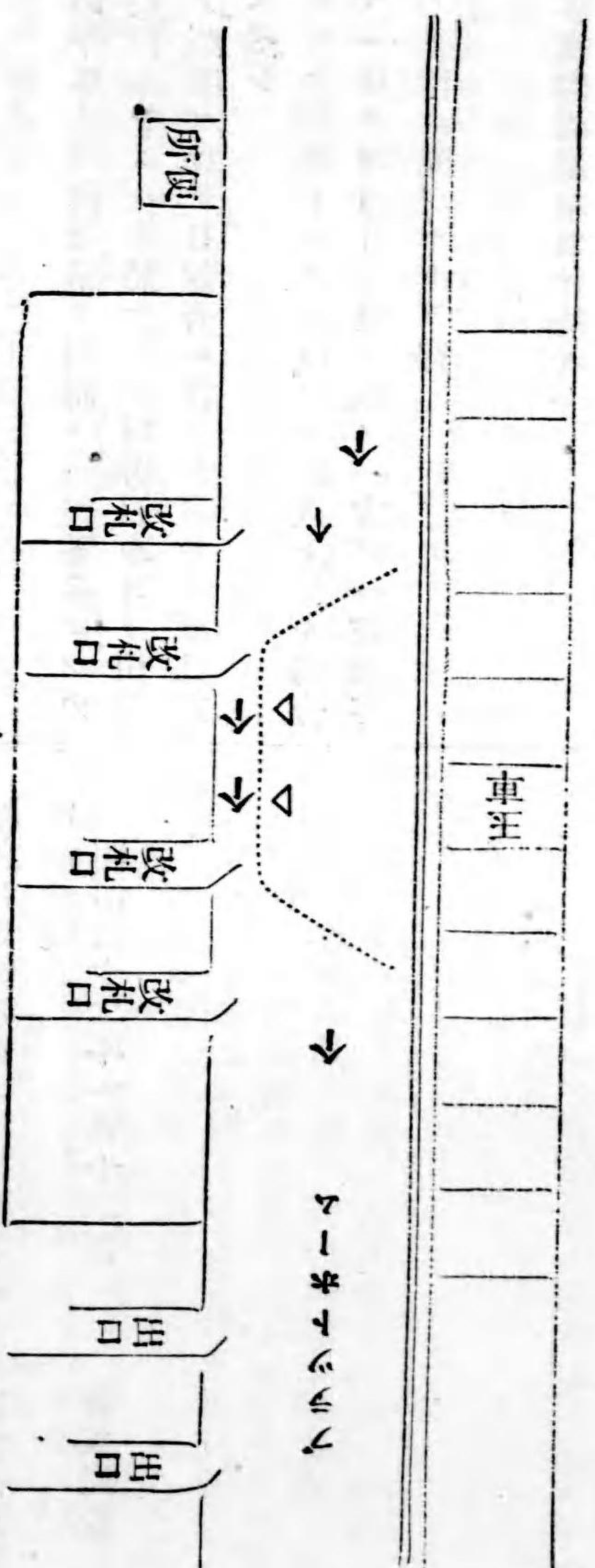
拜啓愈御清榮奉賀候陳者

行幸啓アラセラレ候場合ニ於ケル取締向ニ付テハ御思召ノ程モ有之候趣ヲ以テ宮内大臣ヨリ協議ノ次第モ有之訓令相成候義ニ付交通上成ルヘク利便ヲ與ヘラレ停車場ノ出入ハ勿論御駐車中一般乗客ノ昇降其他ノ用向等モ相當御取締ノ上辨セシメラレ候様致度其扱振ノ如

第一類警務 第一章 處務、權限

例ノ車駐御

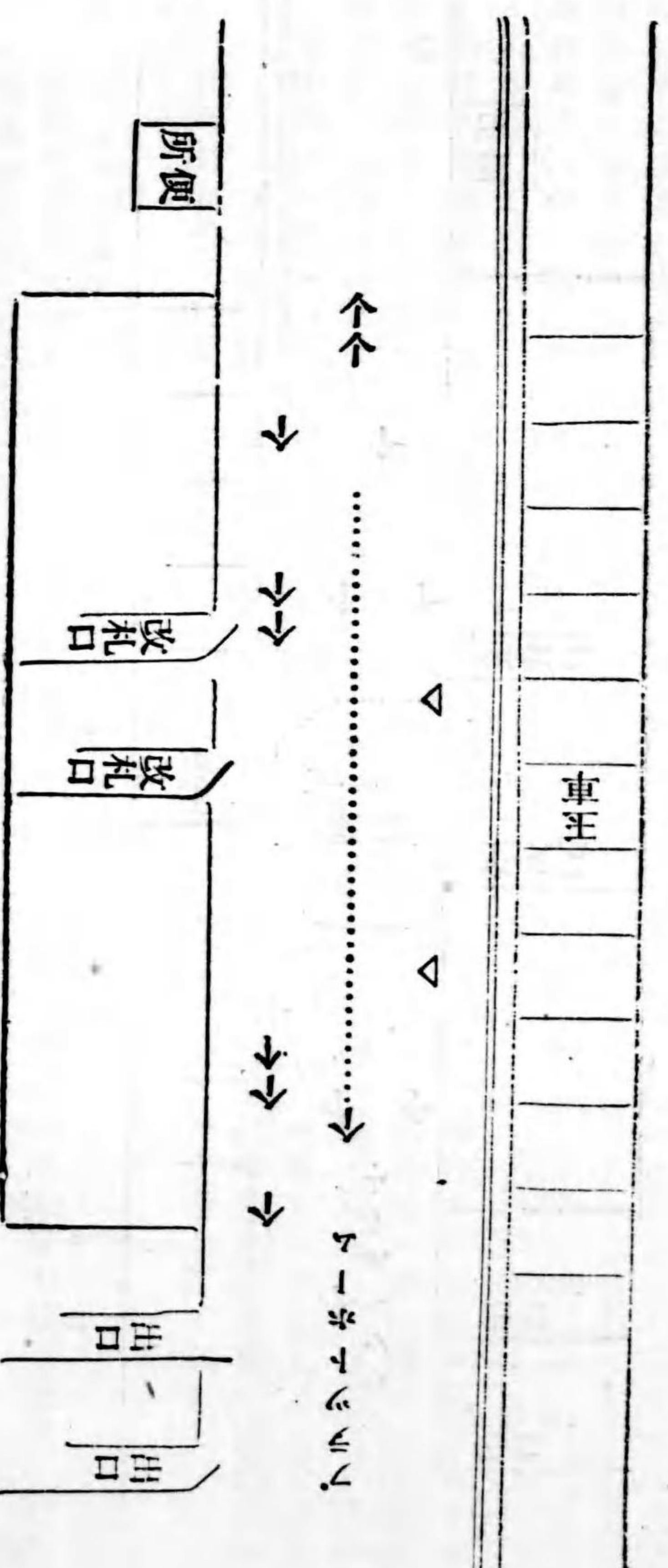
(圖面)  
 凡例  
 △ハ警察官  
 ←ハ一般人民  
 ∴ハ警戒線  
 但ト張リナラズ

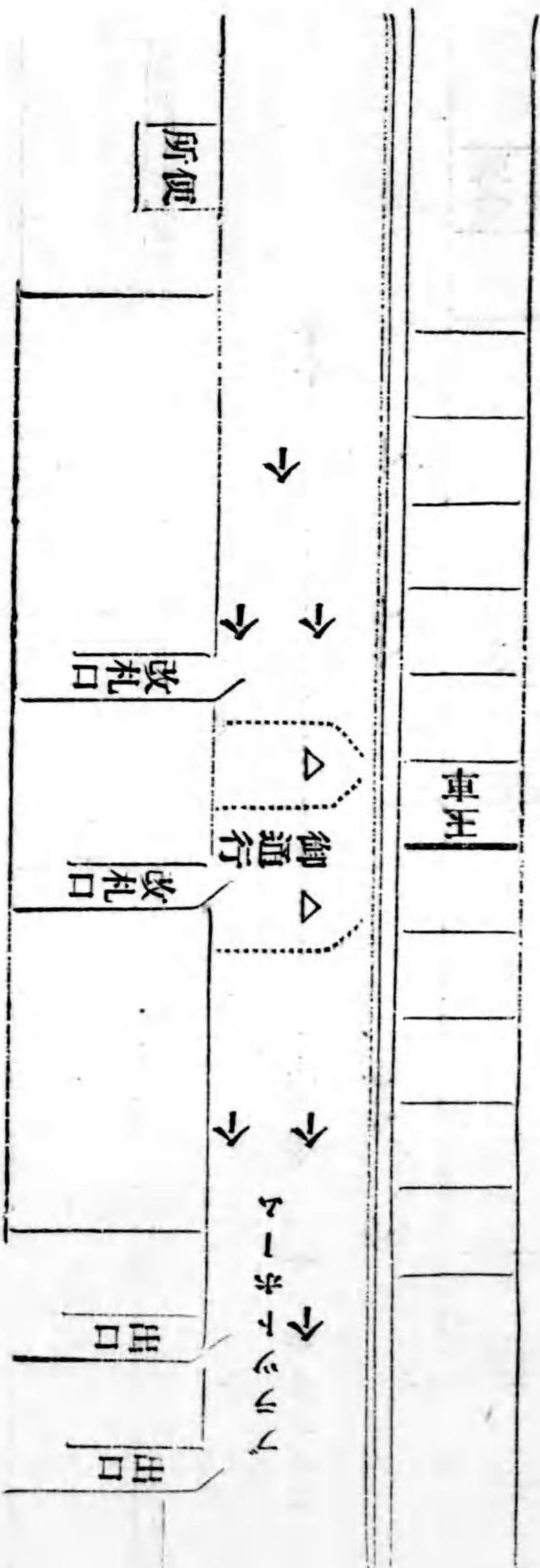


【京都警】

例ノ中行进車汽ノ御乗

【京都警】





〔京都警〕

○宮廷列車停車場ニ停留ノ場合ニ於ケル奉迎送者ノ取扱方

(明治四十一年十一月) 警第二七〇〇號

管内鐵道沿道各署長

宮廷列車停車場ニ停留ノ場合ニ於ケル奉迎送者ノ取扱方ニ付左記ノ通宮内書記官ヨリ通牒有之候條將來右ニ準シ御取扱可有之此段及通牒候也

左記

宮廷列車各驛通過ノ際往々ニシテ混雜ヲ極メ候ニ付自今宮廷列車管内停車場ニ停留ノ場合ニ於テ奉迎送者取扱方左ノ通牒行相成度候  
明治四十一年十一月十六日

宮内書記官 栗原 廣太

京都府知事 大森鍾一殿

左記

一、「ブラットホーム」ニハ拜謁ノ資格ヲ有スル者

(別項参照)ノ外入ルヘカラサルコト

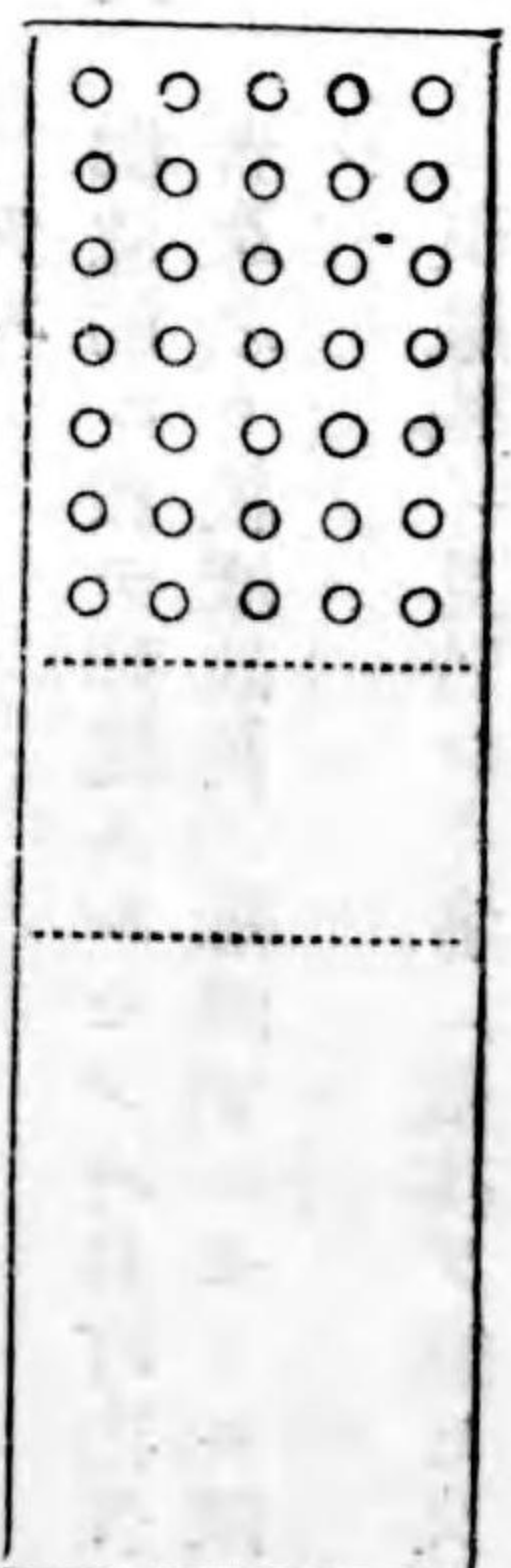
一、前項ノ者ハ宮廷列車中玉車ノ前面ヲ避ケ

第一類警務 第一章處務、權限

〔京都警〕

左ノ如ク整列セシメラル、コト

トイキナヒニ



一、停車時間ノ都合ニテ拜謁ヲ賜フヘキニ依リ自己ノ官氏名又ハ爵位勳氏名ヲ記載シタル名刺一葉ヲ用意シ玉車停留ノ際供奉宮内書記官ニ於テ一々本人ヨリ受領スヘキニ付キ必ス各自ニ於テ手ニスヘキコト  
一、拜謁ヲ賜フヘキ者ハ左ノ如シ  
高等官同待遇  
有爵者  
從六位勳六等以上ノ有位有勳者  
貴衆兩院議員  
市長

第一類警務 第一章 處務、權限

一、前項拜謁ヲ賜フヘキ者ハ男子ニ限り且服  
裝ハ「フロックコート」「シルクハット」タ  
ルヘキコト但シ武官其他特ニ制服アル者  
ハ之ニ相當スル制服ヲ着用スルコト

○御大葬警衛心得

(明治三十年一月  
訓示第二二號)

- 一 警衛ハ注意ヲ主トシ豫防ヲ專トシ不逞ノ徒  
ヲシテ其志ヲ遂クルノ憂隙ナカラシムルヲ  
要ス
- 二 不審ト認ムル者ハ之ヲ誰何シテ其目的所用  
等ヲ確メ尙疑ハシキ者ハ警察署ニ同行スヘ  
シ
- 三 但誰何スル時ハ機敏迅速ナルヘク躊躇シ  
テ機ヲ失スルコトナキヲ要ス
- 四 警衛ニ從事スル者ハ危害迫リタル場合ニ於  
テハ帶劍ヲ以テ之ヲ防ク既ニ晚シ自ラ身體  
ヲ以テ楯ト爲リ其身斃ル、モ職務ノ責ヲ盡  
スヘシ
- 五 人ヲ制止スルニ當テハ謹嚴靜肅ヲ旨トシ大

〔京都警〕

五 聲喧呼スヘカラス  
刀劍、ピストル、仕込杖等ヲ携帯スル者ヲ  
認メタルトキハ本人ニ諭示シ最寄警察署ヘ  
同行スヘシ、  
但官吏公吏議員等ニシテ身元疑ナキ者ハ  
此限ニアラス

六 障子内其他物蔭ヨリ透見シ又ハ楷樓等高所  
ニ在テ拜觀スルモノハ制止スヘシ  
七 拜觀人ハ御道筋ニ在テハ溝蓋ヲ限リ其以内  
ニ横町ニ在テハ街角一間ヲ距リ整列セシム  
ヘシ

八 但道幅三間以下ナル場所及溝蓋ノ堅牢ナ  
ラスト認ムルモノハ其上ニ立タシムヘカ  
ラス

御道筋ニ在テ拜觀スルモノハ其町内住居ノ  
者及之ト親戚故舊ノ縁因アルモノニ限ルヘ  
シ、  
但服裝ノ見苦シキ者(襤褸ヲ纏ヒ又ハ異  
様ノ風體ヲ爲スモノ、類)ハ退去セシム  
ヘシ

〔京都警〕

九 拜觀人ハ渾テ跪坐セシムヘカラス  
十 帽其他冠物ハ之ヲ脱シ傘ハ之ヲ縮メ垂下セ  
シムヘシ

十一 但洋裝ノ婦人ハ脱帽ノ限リニアラス  
外國人ノ敬禮ハ左ノ如シ

歐米國人

男子 脱 帽

女子 冠帽ノ儘

清國朝鮮國人

男子 冠帽ノ儘

女子 冠物ヲ用ヒス

土耳其國人

男子 前同斷

女子 覆面ノ儘

十二 首卷、鉢卷、頬冠、裾卷、前垂、喫煙、  
雜言ヲ爲ス者及毛布莞筵ヲ着用スル者ハ之  
ヲ制止スヘシ

十三 郵便車及脚夫ハ鹵簿ニ差支ナキ限り通行  
セシムヘシ

十四 鹵簿ヲ侵シテ通過セントスル者ハ之ヲ支

第一類警務 第一章 處務、權限

〔京都警〕  
ヘ其他不敬ニ涉ル者ヲ制止シ若シ之ヲ肯セ  
サルトキハ取押ヘ警部又ハ巡查部長ニ引渡  
スヘシ

但外國人ニ係ルトキハ外國人取扱巡查心  
得第十八條乃至第二十條ニ依リ取扱フヘ  
シ

(參考)

第十八條 御通聲ノ節外國人路傍ヲ通行ス  
ルハ妨ケナシト雖若シ道路狹隘ニシテ儀  
仗ニ障碍アル場所ニ於テハ回避スヘキ旨  
懇ニ説諭スヘシ

但公使公使館屬員ノ如キハ自ラ此等ノ禮  
節ヲ心得タルモノナレハ巡查ヨリ指圖カ  
マシキコトヲ爲スハ不敬ニ涉ルコトアリ  
故ニ説諭等ヲ用ユルニ及ハサルコト、心  
得ヘシ

第十九條 前條ノ場合ニ於テ車馬ヲ疾驅ス  
ル者アレハ之ヲ諭シテ徐行セシムルヘシ  
若シ儀仗ニ障碍アル時ハ前條ト同シク懇  
諭スヘシ

第一類警務 第一章 處務、權限

三三四

第二十條 誤テ儀仗ヲ侵シタル者アルトキ

ハ其國號居所ヲ記載セル名刺ヲ受取り之

ヲ放遣シ直ニ警部ニ申報スヘシ

十五 第六項乃至第八項及一般通行止ハ御發棺

(御著館ノ節ハ七條停車場御發棺)時限一時

間前ヨリ著手スヘシ

十六 第九項乃至第十四項ハ先發警部ノ通行ヲ

期シ著手スヘシ

十七 牛車馬其他鹵簿ノ障害ト爲ルヘキモノハ

他路ニ避ケシムヘシ

十八 御道筋見通ノ場所ニ干物又ハ見苦シキ物

品ヲ置カシムヘカラス

十九 前二項ハ御發棺時限二時間前ヨリ著手ス

ヘシ

二十 拜觀人中酒氣ヲ帶フルモノアルトキハ穩

ニ説諭シテ去ラシムルカ又ハ拜觀人中ノ最

後ニ立タシムヘシ

二十一 警衛中供奉員ニ對シテハ禮式ヲ爲スニ

及ハス

○警衛配置ニ關スル事項

〔京都警〕

(大正二年九月)

警訓第一四號

一 警衛從事ノ警察官中往々帽子ノ繩紐ヲ脱シ

居ルモノ リ右ハ必ス掛ケシムルコトニ一

定ノコト

二 汽車沿道其他御道筋配置巡查ノ位置ハ本年

三月訓第三號但書ヲ以テ御大喪警衛心得服

裝服務ノ章第五號ニ依ルコトニ改メタルモ

尙之レニ違フモノアリ即チ右ハ鹵簿又ハ御

召列車進行ノ方向ニ於テ拜觀者ニ對シ三十

度ノ角度ヲ以テ斜面ニ佇立シ專ラ公衆ニ注

目シ御通過ノ後ハ拜觀者ニ對シテ正面ニ復

スヘキモノナルヲ以テ必ス之ニ據ラシムル

コト

三 途上配置ノ巡查中拜觀者並列ノ個所ヨリ數

尺若クハ間餘ヲ離レ御通路ニ佇立スルモノ

アリ舊來ノ道路ニ於テハ一層御通路ヲ狹隘

ナラシムル感アリ且ツ甚々見苦シキ次第ニ

付可成拜觀者ニ接近セシムルコト

鹵簿御通過後ト雖モ後續者通過後相當距離

迄進行スル間ハ必ス拜觀者ヲシテ現位置ヲ

亂サシメサルコトニ注意ノコト

五 沿道配置巡查中時ニ御召車又ハ鹵簿警衛ノ

警察官ニ對シ行禮ヲナスモノアリ警衛從事

中ハ總テ行禮ヲ要セサル旨特ニ配置前懇篤

注意ヲ加ヘ置クコト

六 道路狹隘ノ個所若クハ速度等ノ關係ニヨリ

鹵簿進行中數間ノ間隔ヲ生スルコトアリカ

ル場合ニ於テハ時ニ鹵簿ヲ横切ラントス

ルモノアルヲ以テ特ニ看護者ナキ小兒等ニ

ハ豫メ注目ヲ加ヘ置キ取締ヲナスヘキコ

ト

七 私服巡查ハ拜觀者ノ後方又ハ拜觀者ニ混入

シ一般ノ行動ニ注意スヘキモノナルニ時ニ

拜觀者ノ前面ニ佇立スルモノアリ直ニ以テ

警察官タルヲ覺知セラレ私服職務ノ目的ヲ

達シ得サル而已ナラス甚見苦シキ次第ニ付

豫メ注意ヲ要スヘキコト

○官幣社例祭警衛ノ件

第一類警務 第一章 處務、權限

〔京都警〕

(明治三十一年五月)

廳第一八號

從來官幣社例祭ノ節ハ 勅使内規履行シ來リ候

處爾後相慶シ候條當ニ所轄警察署警部ニ於テ社

頭警衛スヘシ

但加茂兩社男山八幡宮ハ此限ニアラス

○貴顯紳士警衛方

(明治二十八年九月)

警令第一六五號

外國公使其他貴顯ノ七條停車場ヲ通過又來京ニ

際シ緊急警衛ヲ要スルコトアルトキハ直ニ電話

ヲ以テ(鹽小路派出所)ニ通報スヘキニ付其際ハ

必ス同所詰警部、警部在ラサルトキハ巡查部

長、巡查部長在ラサルトキハ上席巡查ニ於テ警

衛シ時機ヲ失セサル様豫テ注意方調授シ置クヘ

○戸口調査規程

(明治四十一年六月)

訓第一三五號

第一條 警察署長、警察分署長ハ管區受持巡查

三三五

第一類 警務 第一章 處務、權限

三三六

ヲシテ所轄内ニ於ケル戸口ヲ調査セシムヘシ

第二條 戸口ハ警察上視察ノ要否如何ニヨリ甲乙ノ二種ニ區別スヘシ

甲 警察上視察ノ要少ナキモノ即チ乙種ニ屬セサルモノ

乙 警察上視察ノ要緊切ナルモノ即チ

- 一 常習的犯罪前科者、惡漢無賴者、恆産ナキ遊食ノ徒、其他犯罪ノ嫌疑アル者
- 二 赤貧者及ヒ各種ノ雜業ニ從事スル者但性行廉直ニシテ視察ノ要緊切ナラサルモノヲ除ク

第三條 警察署、警察分署ニ戸口調査簿(第一號様式)ヲ備ヘ各管區別ニ受持調査ヲシテ保管セシムヘシ

第四條 戸口調査簿ハ刺札式トシ建家順ニ挿入スヘシ刺札ニハ町村字地名番又ハ戸番持家借家ノ區別族稱職業氏名生年月親族關係ノ概要

出住者ハ出住ノ年月出住先來住者ハ本籍及來住ノ年月同異露ノ區別等ヲ記入スヘシ

第五條 戸口調査ハ日出後日没前ニ於テ行フヘシ

シ但夜間公開ノ營業者ハ其營業時間内又晝間常ニ不在ノモノハ就寢前ニ限り家長又ハ本人ノ承諾ヲ得テ之ヲ行フ事ヲ得

第六條 戸口調査ノ際ハ調査簿並ニ加除簿(第二號様式)ヲ携帯シ戸口ノ異動ハ加除簿ニ筆

録シ調査簿加除ノ資料ト爲スヘシ

郡部ニ在テハ所在地以外ノ場所調査ノ際ハ假調査簿(第二號様式)ヲ以テ調査簿ニ代用スルコトヲ得

第七條 戸口調査ハ臨時必要アリト認ムル場合

ノ外左ノ度数ニ依ルヘシ

甲 市及ヒ町 年 十二回

乙 村 年 六回

第八條 前條ノ回数ハ一管区内ノ延戸數ヲ月別ニ按配シ其一ヶ月間ニ調査スヘキ度数及ヒ戸數ヲ豫メ指定シ調査ノ都度一覽表(第三號様式)ニ記載セシムヘシ

新タニ管區受持ヲ命セラレタル際一回並ニ毎年十一月十日後ニ於テ一回管区内全部ヲ通シテ調査セシムヘシ

〔京都警〕

第九條

管區受持巡查缺員病氣引籠其他事故ニ

ヨリ一ヶ月以上調査ヲ爲スコト能ハサル場合

ハ署長ハ組合員又ハ特務巡查ヲシテ代行セシムヘシ

第十條

左ノ場合ハ當該巡查ヲシテ直ニ報告セシムヘシ

- 一 受持巡查ニシテ管区内ノ住民並ニ出入者ノ舉動不審ト認メタルトキ
- 二 受持管区内住民中乙種第一號ニ該當スルモノ他ニ移住シタルトキ(本號ノ報告ハ第四號様式ニ

署長ニ於テ前項第一號ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ相當ノ處置ヲ爲シ第二號ノ報告ヲ受ケタルトキハ移住地ノ所轄署長(所轄内ナルトキハ其管區受持)ヘ通知スヘシ

第十一條

署長ハ戸口調査執行ノ周否ヲ監督シ

尙警部警部補巡查部長ヲシテ毎月實行監督並ニ調査簿ノ査閲ヲ遂ケシムヘシ

第十二條

各調査簿ノ末尾ニハ該簿所載ノ戸口

第一類 警務 第一章 處務、權限

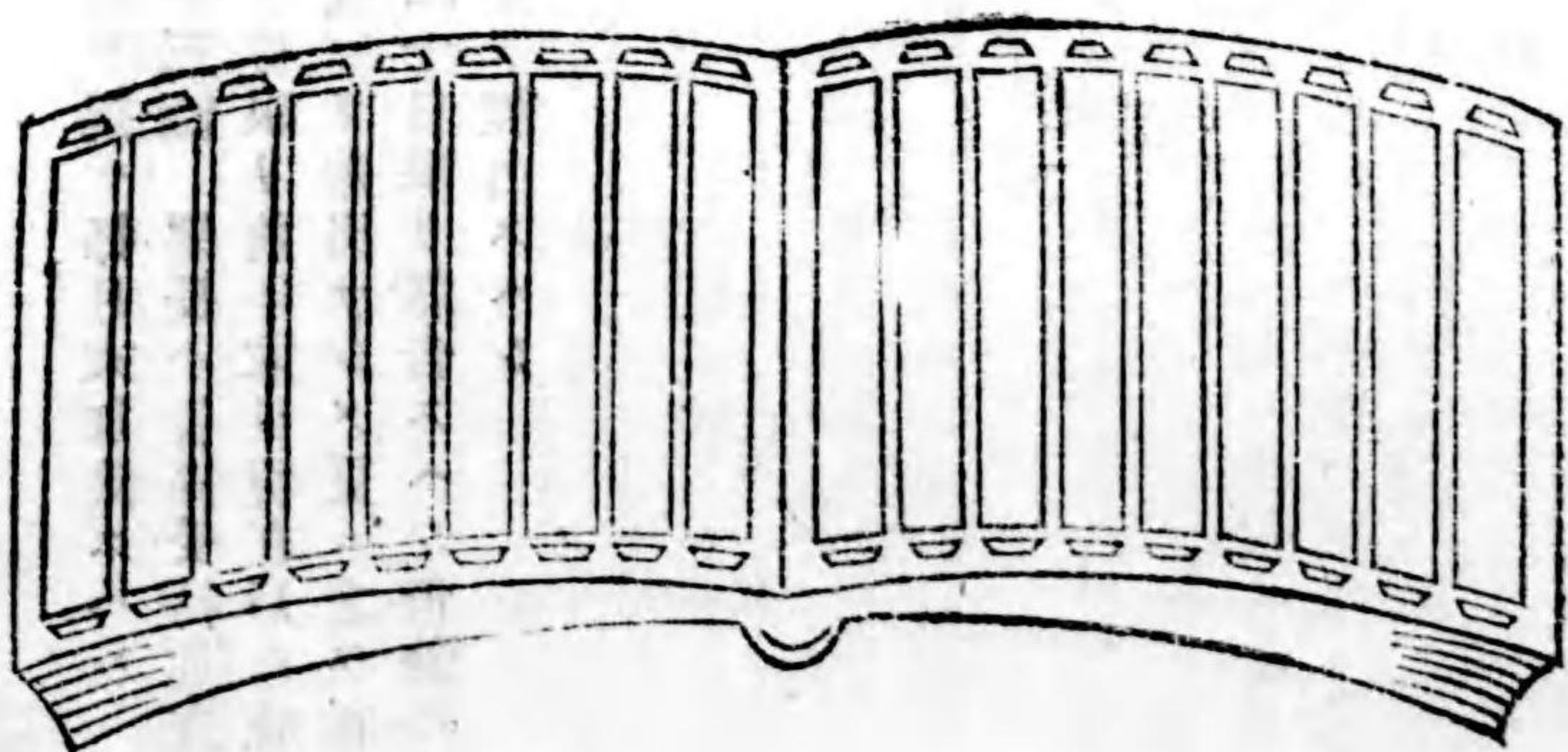
〔京都警〕

數ヲ掲ケ毎月末加除スヘシ

第十三條 署長ハ管區受持巡查ヲシテ毎年一月

十日限り前年末日現在戸口統計表(第五號様式)ヲ差出サシメ更ニ之ヲ審査合表シテ同月

二十日限り報告スヘシ但警察分署長ハ所屬署長ヲ經由スヘシ



〔京都警〕

戸口調査簿内部刺札記載例 乙種ニハ朱ノ圈點ヲ附スヘシ

〔京都警〕

何町村何番戸 持家	族稱職業	何	何年何月生
戸主			何年何月生
父			何年何月生
母	何村何某姉何年何月入嫁		何年何月生
妻	何村何某長女何年何月入嫁		何年何月生
出住養子	何村何某三男何年何月入縁		何年何月生
	何年何月ヨリ何府縣何郡何村へ出住		何年何月生

長男	何年何月生	某
雇人	何村何某二男 何年何月ヨリ雇入	何年何月生
同	何村何某長女 何年何月ヨリ雇入	何年何月生
來住	何府縣何郡何村何番戶族稱職業 何年何月何日ヨリ異郷同居	何年何月生
妻	何村何某養女何年何月入嫁	何年何月生

〔京都警〕

來住	英國人宣教師	何	何年何月調何年位	某
妻			何年何月調何年位	某
子			何年何月生	某
雇人	何郡何町 馬丁		何年何月生	某
同	何市何町 下婢		何年何月生	某

〔京都警〕



市立	何	學	校
校內居住者	何町何番戶族稱	小使	何
妻	何村何某妹何年何月入嫁	何年何月生	某
朱	何町何番戶持家	何年何月生	某

〔京都警〕

戶主	族稱職業	何	何年何月生	某
妻	何村何某二女何月何日入嫁	何年何月生	某	
出住	何年何月ヨリ米領加奈陀へ出稼長男	何年何月生	某	
同	何年何月ヨリ何監獄ニ服役二男	何年何月生	某	
同	何年何月ヨリ何市何學校ニ寄宿長女	何年何月生	某	
同	何年何月ヨリ何師團ニ入營三男	何年何月生	某	

〔京都警〕

第一類警務第一章處務、權限

三四四

同

何年何月失踪宣告叔父

何年何月生 某

何村何番戶空家

何村何番地 家主何町何

某

朱 ● 何村何番地借家

何町何 家主何町何

某

非戶主

族稱職業

何

何年何月生 某

〔京都警〕

何町何番戶何某長女何年何月ヨリ内縁同居

何年何月生 某

〔京都警〕

何年何月末調

本籍在住者 甲 女男

計

乙 女男

計

管内來住 甲 女男

計

乙 女男

計

管外來住 甲 女男

計

乙 女男

計

第一類警務第一章處務、權限

三四五

第一類警務 第一章處務、權限

外國人	甲	女男	計
合計	甲	女男	計
	乙	女男	計
總計			
出管內	出管外	女男	計
出外國	者在營	女男	計
囚在獄	逃亡	女男	計

〔京都警〕

第一類警務 第一章處務、權限

合計	女男	計
現住戶數	乙	甲
建物		計
現住表家	裏家	村
		其他
空家表家	裏家	村
		其他

〔京都警〕

第一類警務 第一章 處務、權限  
第二號樣式 (假調査簿兼用)

戸口調査加除簿						
第番戸						
借持家						
年月日生	年月日生	年月日生	年月日生	年月日生	年月日生	年月日生

三四八

(第三號樣式)

戸口調査一覽表

第番戸						
借持家						
年月日生	年月日生	年月日生	年月日生	年月日生	年月日生	年月日生

(備考) 假調査簿ハ本簿ト同様記載スルモノトス

何町村第 管區

〔京都警〕

〔京都警〕

月別	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一月	十二月
指定	四度	五度	六度	七度	八度	九度	十度	十一度	十二度	十三度	十四度	十五度
調査日	十五日	二十日										
調査戸數	甲 六戸 乙 九戸 至何番戸	甲 六戸 乙 九戸 至何番戸										
調査不能事由	内何番戸何番戸不在ニ付調査不能	内何番戸何番戸不在ニ付調査不能										
調査日	十八日											
調査戸數	乙 十二戸 至何番戸											
調査不能事由												

第一類警務 第一章 處務、權限

三四九

第一類警務 第一章處務、權限

月 (九)		月 (十)			月 (十一)	
八十戸						

〔京都警〕

(第四號様式)

月 (六)	月 (七)	月 (八)

〔京都警〕

乙種異動報告(通知)

明治 年 月 日

巡查 何

某印

原籍地	出生地	現住地	轉住地
族籍	職業	氏名	年齢
士族又ハ平民又ハ何々何業		何 某	何年何月生

第一類警務 第一章處務、權限

第一類警務 第一章 處務、權限

前科	何年何月何日何犯ニヨリ何裁判所ニ於テ何々ニ處セラル
性行舉動及交友	何々
平素注意スヘキ要點	何々
特徴 其他	左ノ目ノ下ニ黒子一ツアリ 何々
備考	
年月日	[何]警察署御中
	[何]警察署

〔第五號様式〕

明治 年 戸口統計表				十二月末日調				戸口統計表			
甲種		種別		別		現住人口		出住者		住者	
女	男	別	女	男	別	現	住	出	住	者	者
		本籍者	管内ヨリ	管外ヨリ	外國人	管內ヨリ	管外ヨリ	在外者	在在者	在在者	在在者
		合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計
		戸數	戸數	戸數	戸數	戸數	戸數	戸數	戸數	戸數	戸數

〔京都警〕

考備	總計		乙種		計	屋	家			計		
	計	女	男	女			男	種別	市町		村	
		空家	住家	表家			裏家		其他			合計

〔京都警〕

戸口統計表記載例

一、本表ハ警察署、警察分署別ニ調製スヘシ

二、現住人口欄「本籍者」ノ部ハ警察所轄内ニ本籍ヲ有シ其在籍地ニ現住ノモノ、來住者「管内ヨリ」ノ部ハ當府管内ニシテ警察所轄外ヨリ、「管外ヨリ」ノ部ハ他府縣ヨリ、外國人ノ部ハ帝國民以外ノ者ニシテ警察所轄内ニ現住シ其實況一時ノ滞在ニアラサルモノハ寄留届ノ有無ニ拘ラス總テ記入スヘシ

三、警察所轄内ニ本籍ヲ有スルモノ在籍地ヲ離レ一時ノ滞在ニアラスシテ同一警察所轄内ニ居住スルモノハ寄留届ノ有無ニ拘ラス現住地ニ於テ本籍者ノ部ニ算入シ在籍地ニ於テハ除外スヘシ

第一類警務 第一章 處務、權限

第一類 警務 第一章 處務、權限

三五四

- 四、出住者ノ欄「管内ヘ」ノ部ハ當府管内ニシテ警察所轄外ヘ、「管外ヘ」ノ部ハ他府縣ヘ出住シ其實況一時ノ滞在ニアラサルモノハ寄留届ノ有無ニ拘ラス總テ記入スヘシ  
在外國ノ部ハ一時ノ旅行ニアラスシテ外國ニ在住スルモノ、在營者ノ部ハ點呼又ハ一時ノ召集等ニアラスシテ陸海軍ニ入營中ノモノ、在獄者ノ部ハ未決ヲ問ハス監獄ニ拘禁中ノモノ、逃亡失踪者ノ部ハ未決失踪ノ宣告ヲ受ケサルモ一年以上行衛不明ノモノハ記入スヘシ
- 五、現住戸數ノ欄ハ本籍者、非本籍者及戸主、非戸主ヲ問ハス總テ其地ニ現住シテ一戸ヲ爲セル數ニヨリ記入スヘシ官署、公舎、社寺、學校、病院、會社等ノ建家内又ハ構内ニ居住スルモノ別ニ一戸ヲ爲セルモノハ亦一戸トシテ記入スヘシ
- 六、住家トハ現住ニ人ノ居住スル家屋ニシテ、「人家」ノ部ニハ純然タル人ノ住家、「其他」ノ部ニハ官署、公舎、社寺、學校、病院、會社等ノ建家内又ハ構内ニ人ノ居住スルモノヲ云フ之等ノ人ノ居住シ得ヘキ家屋ニシテ一時無住ノモノハ「空家」ノ部ニ記入スヘシ
- 七、備考欄ニハ前年トノ比較増減等ニ付其原因トシテ見ルヘキ事項ヲ記載スヘシ

○戸口調査規程取扱方

(明治四十一年六月 警第一五六四號)

今般戸口調査規程改正相成候ニ就テハ左記ノ通り取扱相成度此段及通牒候也  
一戸口調査簿ハ携帶ノ便ト簿册ノ保存ヲ圖リ厚サ凡ソ二寸ヲ度トシタルヲ以テ今後調製スル

〔京都警〕

一受持巡查ニ於テ甲乙ノ種別疑義ニ涉ルモノハ事情審査ノ上署長之ヲ決定スヘシ  
一刺札ノ記事中親屬關係ノ如キハ今後發生セシモノハ漏ナク記入セシメ已往ノ分ハ漸次調査セシムルヲ要ス

〔京都警〕

毎ニ別ニ一簿册ヲ設ケ保存シ置クヲ要ス  
一實行監督ハ巡查部長ヲシテ或ハ各家ニ付カシメ或ハ同伴シテ執行ノ適否ヲ檢シ或ハ「戸籍役場」ニ就キ出生死亡數ヲ取調ヘ調査簿ト對照セシムル等機宜ノ方法ヲ以テ督勵スヘシ而シテ其成績ハ毎月報告セシムルヲ要ス

○戸口調査上視察簿調製ノ件

(明治三十二年八月 訓第四四號)

本年七月内務省令第三十二號宿泊届其他ノ件中外國人登録簿取扱ニ關シテハ訓令第五百一十一號ヲ以テ訓令シタリ尙戸口調査等ニ關シテハ左ノ通心得ラルヘシ

一戸口調査ハ從來全ク便宜ノ取扱ニ屬シ之ヲ強行スルノ途ナカリシヲ以テ省令第九條ノ規定ヲ見ルニ至レリト雖モ戸口調査ノ目的ハ元ト實際ノ視察ヲ爲スニ在リテ徒ニ形式ニ拘ルヘキモノニアラス又之カ爲メ人民ニ其煩ヲ感セシムルコトアルヘカラス  
一戸口調査ニ關スル届出ヲ怠ル者アルコトヲ

三五五

第一類 警務 第一章 處務、權限

- ノ上可成記入セシムルヲ要ス但入籍後年久シク爲メニ記事分明ナラサルモノハ從來ノ儘差置クモ妨ケナシ殊ニ外國人ハ言語其他ノ關係上彼此事情ノ疏通セサルヨリ往々誤解シ易ク且年齢ヲ問ハル、ヲ厭フモノナルニヨリ緻密ノ調査ヲ遂ケントセハ却テ不快ノ念ヲ起スコトナキヲ保セス依テ可成本人ニ直接セス附近者等ニ就キ大要ノ調査ニ止メ些細ニ涉ラサルヲ可トス
- 一刺札記事ノ正確ヲ期スル爲メ必要ト認メタルトキハ「戸籍吏」ト協議ヲ遂ケ戸籍簿ト對照セシムル等便宜手段ヲ執ルヘシ
- 一各種學校寄宿生、孤兒院生ノ如キ類ハ其所在地ニ於テ一般記載例ニ從ヒ外國人又ハ管ノ内外ニヨリ區別シ來住者ノ部ヘ記入スヘシ
- 一在營者、在獄囚ノ如キハ出住者ノ部ヘ記入スルモ陸海軍營又ハ監獄所在地ニ於テハ來住者中ヘ記入セサルモノトス
- 一全戸出住者ノ刺札ハ直ニ棄却セス他日必要ノ場合アルヘキヲ以テ一町村(又ハ一受持管區)

第一類警務 第一章 處務、權限

發見スルモ其正當ノ事由アリト認ムルモノハ可成將來ヲ訓誨スルニ止メ親篤ノ取扱ヲ爲スヘシ

一 警察署警察分署ニハ別紙用式ノ視察簿ヲ用ヘ置キ取締上注意スヘキ事項ヲ可成詳密ニ記載スルヲ要ス

(用紙半紙)

國籍 又ハ原籍	現住所	國籍 又ハ原籍	現住所
外國ニ於ケル住所	年月日住	外國ニ於ケル住所	年月日住
前居住所	職業	前居住所	職業
轉住地	其他性質	轉住地	其他性質
外國ニ於ケル住所	現住所	外國ニ於ケル住所	現住所
前居住所	年月日住	前居住所	年月日住
轉住地	其他性質	轉住地	其他性質
國籍 又ハ原籍	現住所	國籍 又ハ原籍	現住所
外國ニ於ケル住所	年月日住	外國ニ於ケル住所	年月日住
前居住所	職業	前居住所	職業
轉住地	其他性質	轉住地	其他性質
國籍 又ハ原籍	現住所	國籍 又ハ原籍	現住所
外國ニ於ケル住所	年月日住	外國ニ於ケル住所	年月日住
前居住所	職業	前居住所	職業
轉住地	其他性質	轉住地	其他性質

(例) 性質陰險強慾、常ニ故買ヲ爲ス、竊盜、詐欺、何々ノ嫌疑アリ、何々ト往來セリ、何々ノ前件アリ、犯罪嫌疑ノ事實、平素注意スヘキ要點ヲ詳掲スヘシ

〔京都警〕

〔京都警〕

- 一 本簿ハ警察署警察分署ニ備ヘ置クノ外各受持巡查ニ於テモ備ヘ置キ常ニ視察ノ用ニ供スヘキモノトス
- 一 外國人ノ分ハ口取ヲ設ケ區別スヘシ
- 一 本簿ハ祕書トシテ取扱フヘシ
- 一 本簿ハ特ニ視察ヲ要スル者ニ限り調製スルモノトス

○ 戸口視察簿記入心得

(明治三十二年十月 訓示第一七號)

本年八月二十五日內訓第四十四號ヲ以テ規定セラレタル視察簿ニ記載スヘキ種類別紙ノ通心得

但本簿ハ巡查派出所同駐在所ニモ備ヘ置クヘシ

(別紙)

- 一 曾テ重罪ノ刑ニ處セラレタル者及其嫌疑者
- 二 曾テ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者(處犯輕微ナル者及ヒ改悛ノ情アルモノハ除ク)

第一類警務 第一章 處務、權限

- 一 暴行ヲ爲ス癖アル者
- 二 物ニ激シ易ク動モスレハ發狂ノ氣味アル者
- 三 博徒
- 四 資本薄弱ナル請負者
- 五 勞働者ノ親分株ト稱セラル、者
- 六 潛リ代言及代書業者
- 七 高利貸及其類似ノ者
- 八 婦女ヲ欺瞞誘拐シテ醜業ニ陥レシムルノ嫌疑アル者
- 九 空相場師ト認ムヘキ者
- 十 俄ニ資産ヲ作り其原因不審ノ者
- 十一 俄ニ資産ヲ失ヒ自活ノ途ヲ得サル者
- 十二 俄ニ資産ヲ失ヒ自活ノ途ヲ得サル者
- 十三 原籍經歷等不確明ニシテ舉動怪ムヘキ者
- 十四 原籍經歷等不確明ニシテ舉動怪ムヘキ者



假住者

十五 香具師ノ類

### 第八節 巡閱、監督

○巡閱官巡閱ノ際差出スヘキ調書 (明治四十一年十月) (訓第二一二號)

- 一 巡閱官ヘ差出スヘキ書類
- 一 署長以下署員名簿
- 一 所轄内戸口調書
- 一 犯罪件数並ニ同發見件数調書
- 一 警察犯處分件数調書
- 一 懲役禁錮拘留並ニ勞役場留置人員調書
- 一 行政事故調書
- 一 集會ノ種類及度數調書
- 一 新聞及雜誌調書
- 一 政社及社交團體調書
- 一 作心召集成績表 前回巡閱後ニ行ヒタルモノニ限ル

- 一 文書收發並ニ口頭願届受理件数調書
- 一 傳染病患者調書
- 一 精神病患者調書
- 一 取締營業者其他現在數調書
- 一 保管金品其他現在高調書
- 一 來年度ニ於テ廳舎修繕並ニ模様換ヲ要スト認ムル箇所調書
- 一 以上ノ取調書中累年ノ様式ヲ示シタルモノハ巡閱カ六月三十日以前ナルトキハ前年ト前々年分ヲ取調ヘ記入シ巡閱カ七月一日以後ナル時ハ前年分ト其年一月ヨリ巡閱日ノ前月中迄ヲ取調ヘ記入スルモノトス
- 一 巡閱官ノ一覽ニ供スヘキ書類
- 一 所轄内地圖
- 一 警察廳舍圖
- 一 電話線路圖
- 一 沿革錄
- 一 名所舊跡錄

〔京都警〕

署長以下署員名簿

(用紙美濃以下倣之)

〔京都警〕

拜命年月	事別	俸給	功位	官名氏	名	貫籍	生年月
明 年 月 著 長	五 級	從七位 功七級	警 視 何	某	何 縣	明 治 年 月	
	七 級	勳八等	警 部 何	某	何 府		
	外 勤 貳拾圓	同	巡 査 部 長 何	某	何 縣		
	庶 務 拾八圓		同 何	某	平 民		
	何 所		巡 査 何	某			
			船 長 何	某			
			屠 手 何	某			

所轄内戸數人口調書

第一類警務 第一章 處務、權限





勞役場留置	合計		拘留		禁錮	
	何年	何年	何年	何年	何年	何年

本調書ハ警察署分署ノ留置場ニ拘禁又ハ留置セシ數ノミヲ記入スヘシ

行政事故件數調書

種別	何年	何年	何年	何年	何年
行政執行法ニヨル戒告件數					

〔京都警〕

〔京都警〕

代執行件數	行政檢束人員	密賣淫檢徴人員	營業停止人員	營業禁止人員	檢視人員	難船救護件數	人家火災度數

以上ハ例示ニ過キス稍大ナル事故ハ列記スルヲ要ス些末ノ事故ハ記載スルニ及ハス

集會ノ種類及度數調書

種別	何年度	何年	何年	何年度
政談集會				

第一類警務 第一章 處務、權限

非	計
政	
談	
集	
會	

新聞及雜誌調書

名	稱	機	關	一	回	發	行	部	數

政社及社交團體調書

名	稱	創	設	年	月	日	會	員

第一類警務 第一章 處務、權限

第一類警務 第一章 處務、權限

三六八

公設消防組人員器具數調查書

組名	部數	人員	纏	唧	筒	何々	何々	何々
何消防組								
何消防組								
何消防組								

〔京都警〕

非常召集成績表

明治二十七年七月訓令第六一號ニヨル

計									

〔京都警〕

文書發受並ニ口頭願届受理件數調査書


第一類警務 第一章 處務、權限

三六九

第一類事務 第一章處務、權限

種別	收	受	發	送
官公署往復書				
人民願屆書				
口頭願屆				
計				

本調書ハ前年中取扱ヒタル件數ヲ記入スヘシ  
 收受ノ往復書トハ官公署ヨリ受ケタル往復照會書ニ限り記入ス訓令訓示巡查ノ報告其他一切ノ  
 文書ヲ除ク  
 發送ノ往復トハ其署ヨリ他ノ官公署ヘ發送シタル上申報告往復照會書ニ限り記入ス其他ノ文書  
 ヲ除ク  
 人民届中宿泊ニ關スル届ヲ除ク

八種傳染病取調書

種別	何年		何年	
	全	治	全	治
虎列拉				
計				

精神病患者調書

種別	病院監置者數		私宅監置者數	非監置者數	計
	男	女			
管內人					
管外人					
計					

第一類事務 第一章處務、權限

計	取締ニ關スル營業者其他現在數調書
古物商	質屋
旅人宿	料理屋
飲食店	藥種商
製藥者	鍼灸術營業者
貨座敷	藝妓
娼妓	乘合馬車
營業自動車	營業人力車
營業自轉車	劇場
寄席	汽鐘ヲ使用スル製造場
屠場	獸乳搾取所
傳染病院	隔離病舎
特種部落敷	同上戸口
假出獄者	刑ノ執行猶豫者
刑ノ執行停止者	感化保護院入院者
尙重要ナルモノハ列記スルヲ要ス但些末ノモノハ掲記スルニ及ハス	
保管金品其他現在調	

一 保管金現在額	一 保管品現在點數
一 講習費現在額	一 徵收額保管方法ヲ附記ス
一 署員貯金現在額	一 署員貯金現在額
但管理方法ヲ附記ス	但管理方法ヲ附記ス
重要事故報告	重要事故報告
明治何年何月何日何年度御巡閱相受ケ候以後ニ於テ所轄内ニ於テ發生セシ事故ノ重大ナルモノ左ニ報告致候	明治何年何月何日何年度御巡閱相受ケ候以後ニ於テ所轄内ニ於テ發生セシ事故ノ重大ナルモノ左ニ報告致候
一 何々ノ件	一 何々ノ件
何々ニ付何々ノ處置ヲ爲セリ	何々ニ付何々ノ處置ヲ爲セリ
一 何々ノ件	一 何々ノ件
何々ノ理由ニヨリ何々	何々ノ理由ニヨリ何々
右報告候也	右報告候也
廳舎修繕竝ニ模様變ヲ要スル箇所調書來年度ニ於テ廳舎修繕模様變ヲ要スト認ムル箇所左ノ如シ	廳舎修繕竝ニ模様變ヲ要スル箇所調書來年度ニ於テ廳舎修繕模様變ヲ要スト認ムル箇所左ノ如シ

〔京都警〕

一 何々 必要ノ實況ヲ茲ニ併記スヘシ

〔京都警〕

○監督官指示簿備付ノ件

(明治四十三年五月 訓第二二號)

巡查出張所巡查部長派出所巡查派出所巡查駐在所ニ監督官指示簿ヲ備付シ監督官巡視ノ際執行務ニ付注意ヲ與ヘ若クハ指示スヘキ事項(一)身上スルモノ(二)ハ細大洩サス記載シ監督ノ周到ヲ期セラルヘシ

○警察部巡視規程

(明治二十七年十二月 京都府訓令第百二十八號)

第一條 (第四部)ニ巡視員ヲ置キ警務課及保安課員ヲ以テ之ニ充ツ  
第二條 巡視員ハ(第四部長)ノ指揮ヲ受ケ警察署警察分署ニ於ケル紀律ノ張弛服務ノ勤惰處務ノ整否及法律命令實施ノ狀況ヲ視察スルモ  
第一類 警務 第一章 處務、權限

ノトス其概目左ノ如シ

- 一 警邏及其監督
  - 二 姿勢服裝及禮式
  - 三 訓授及點檢
  - 四 警衛及警備
  - 五 人民ノ接遇
  - 六 營業風俗及街路ノ取締
  - 七 水火ノ消防
  - 八 衛生上ノ監査
- 第三條 視察中規則ニ違背シ擱キ難キ所爲ヲ認メタルトキハ直ニ注意ヲ與フヘシ
- 第四條 巡視員ハ巡視ノ事項ニ付時々主務課長ニ協議スヘシ
- 第五條 巡視員視察ノ狀況ハ事ノ大小ニ依リ(警部長)ニ復命シ又ハ主務課長ヘ告知スヘシ
- 第六條 巡視員ハ日誌ヲ製シ巡視中ノ事項ヲ漏ナク記載スヘシ

○警察部巡視員勤務規程

(明治三十二年十一月 訓示第二一號)



〔第四部〕各課

明治二十七年十二月訓令第一二八號第四部巡視規程ニヨリ巡視員ヲ命セラレタルモノノ巡視ハ郡部ニアリテハ其都度命令ヲ受ケ市内ハ通常一週日間ニ二署以上巡視スヘシ

但夜間數時間ニ渉ル巡視ヲ爲シタルトキハ課長ノ認可ヲ受ケ過勤時間ノ二分一以内遲出又ハ早退ヲ爲スコトヲ得

○ 巡查部長巡視報告簿備付ノ件

(明治三十三年七月) 訓示第四〇號

巡查部長ノ巡視ハ巡查ノ巡回勤務ヲ查察スルニ重キヲ置キ其他ヲ顧ミサル如キ形跡アルハ監督ノ要ヲ得タルモノニアラス監督ハ外ニアリテハ執行行為ノ適否内ニアリテハ身上ニ關スル查察ノ如キ最モ重要ナルモノトス故ニ署長ニ於テハ常ニ克ク監督ノ本領ヲ示シ報告簿ヲ備ヘ置キ一々其狀況ヲ報告セシメ倍々執行事務ノ改良ヲ期圖スルト共ニ考査ノ材料ニ供シ以テ監督ノ本旨

ヲ貫徹スルコトニ努メラルヘシ

第九節 點檢、訓授、操練

○ 巡查點檢及訓授施行規程

(明治三十五年七月) 京都府訓令第五十五號

第一條 巡查點檢規則第十九條第一項ノ巡查ニ對スル通常點檢ハ毎日勤務時間開始三十分乃至一時間前同條第二項ノ巡查ニ對スル通常ハ點檢訓授開始前ニ之ヲ行フヘシ

第二條 巡查點檢規則第三十六條第一項ノ臨時點檢ハ警察署長分署長適宜日時ヲ定メ之ヲ行フヘシ

駐在所其他遠隔ノ地ニ在勤スル巡查ニ對スル臨時點檢ハ同條第二項ニ據ル外訓授ノ爲メ召集スル際之ヲ携帶セシメ通常點檢ト同時ニ施行スルコトヲ得

〔京都警〕

第三條

訓授ハ毎日通常點檢ヲ終リタル後之ヲ爲スヘシ但駐在所其他遠隔ノ地ニ在勤スル巡查ニ對シテハ毎月二回以上警察署分署ニ召集シテ之ヲ爲スヘシ

第四條

訓授ノ爲メ駐在所其他遠隔ノ地ニ在勤スル巡查ヲ召集スルトキハ一組合員ノ半數ヲ隔番ニ召集シ其召集ノ日時ハ毎回之ヲ指定スヘシ

第五條

訓授ハ訓授例別表記載ノ條件其他緊要ノ事項ニ就キ實務ヲ習熟セシムルヲ目的トシ兼テ職務ニ關スル智識ノ啓發、紀律ノ振肅、氣節ノ砥勵ヲ努ムヘシ

第六條

前條ニ據リ訓授シタル事項ニ付テハ時々應問ヲ試ミ其他實務及法令ノ解釋應用等ニ就キ適切ナル問題ヲ選ヒ臨時又ハ豫メ宿題ヲ與ヘテ應問ヲ試ムヘシ

第七條

警察署長分署長ハ別紙様式ノ訓授簿ヲ

第一類 警務 第一章 處務、權限

〔京都警〕

備置キ訓授ノ都度左ノ事項ヲ記入シ訓授者之ニ署名捺印スヘシ

一 訓授ノ件名及其要旨

二 應問ヲ試ミタルトキハ其問題及應答ノ要旨

三 應問ニ對シ訓授者解決ヲ與ヘタルトキハ其要旨

四 被訓授者ノ人員

五 訓授ノ時間

已ムヲ得サル事故ニ由リ訓授ヲ缺キ其他例規ニ反スル場合ニ於テハ其ノ理由ヲ訓授簿ニ記入シ置クヘシ

第八條 訓授簿ハ警察署長分署長ニ於テ秘密簿冊トシテ取扱フヘシ第六條ニ依リ宿題ヲ與ヘテ筆記ノ答案ヲ徵シタルトキハ警察署長分署長之ヲ批判シ其答案ハ別ニ之ヲ保存スヘシ

第九條 警察署長分署長ハ訓授シタル事項ニシテ重要ト認ムルモノハ被訓授者ヲシテ其要旨ヲ錄取セシムヘシ

半數召集ノ場合ニ於テ訓授ノ事項急ニ周知ヲ

第一類警務 第一章處務、權限

三七六

要スルトキハ當日不召集ノ巡查ニ對シテハ訓  
授ノ要旨ヲ筆記シテ送付スヘシ  
第十條 內勤、特務、刑事專務其他特別ノ勤務  
ニ服スル巡查ニ對シテハ時宜ニ依リ第一條第  
三條ノ點檢及訓授ヲ缺クコトヲ得

附則

第十一條 明治三十年十月訓令第二百三號巡查  
點檢及訓授規則ハ之ヲ廢止ス  
(別紙)(用紙半紙野紙)

月 日 (曜) 時 分 間 自 時 分

(甲部又ハ) 巡查 何 名 (巡查部長ヲ  
乙部等) (モ包含ス)

一 何々之件  
何々、何々、何々、

問 何々、何々、何々、

答 (何某巡查) 何々、何々、何々、  
答 (何某巡查) 何々、何々、何々、  
解 何々、何々、何々、

備考 何々、何々、何々、(朱書ノコト) 官 氏 名 印

○巡查點檢規則ニ關スル件

(明治四十三年八月)  
(警第三五三七號)

各署長

巡查點檢規則第二十三條同第二十四條中ニ於ケ  
ル疑義ニ付別紙ノ通警保局長ヨリ通牒有之候條  
此段及通牒候也

左記

(甲號)

高知縣知事照會(明治四十三年八月五日)  
(警發第二二九號)

巡查點檢規則第二十三條ニ於テ刀身ノ検査了  
リ「休メ」ノ號令アリテ更ニ第二十四條ノ檢  
査ヲ行フ場合「氣ヲ附ケ」ノ號令ナク又第二  
十四條ノ検査了リタルトキ列員手套ヲ著スル  
際「休メ」ノ號令無之候處右ハ殊更ニ記載ナ  
キモ當然號令スヘキモノト解釋シ差支無之義  
ニ候哉何分ノ御回報煩度此段及照會候也

〔京都警〕

(乙號)

警保局長回答(明治四十三年八月十六日)  
内務省警高第一二號ノ内  
警保局長

本月五日付警發第二二九號巡查點檢ニ關シ御  
照會ノ趣了承右ハ御申越ノ通りニテ可然被存  
候此段及回答候也

○巡查點檢拔刀動作ニ關スル件

(大正五年七月)  
(警第三四五二號)

警察署

巡查點檢規則第二十一條ニ據ル拔刀動作ノ際從  
來ハ拔ケノ豫令ニテ左手ヲ以テ鞘ノ第一環上部  
ヲ握リ右手ニテ刀柄ヲ握ルト同時ニ鯉口ニ注目  
スルコトニ取扱ハレ居候處右ハ點檢規則ニ何等  
制定ナキ而已ナラス事理ニ反スル次第ニ付自今  
鯉口ニ注目セサルコトニ一定相成度候。

○點檢禮式細目

(明治四十一年八月)  
(京都府訓令第十七號)

第一類警務 第一章處務、權限

〔京都警〕

點檢及禮式ハ規則ノ定ムル所ニ依ルノ外尙左ノ  
細目ヲ遵守スヘキモノトス

一 號令中「進メ」トアルハ「オイ」ト詰メ其他ハ  
文字通りニ號令スヘシ

一 指揮官集レノ令ヲ下シタルトキハ巡查ハ駈  
足ニテ集合シ相當ノ間隔ヲ取り整列スヘシ

一 列ノ整頓ヲ爲ス際左翼員數名ハ先ツ左翼  
導ニ準ヒ出入ヲ整へ後チ右ニ準フヘキモノ  
トス

一 指揮官ヨリ點檢官へ人員ヲ報告スルニハ嚮  
導及ヒ押伍ヲモ合セ「總員何名」ト報告スヘ  
シ

一 刀身検査ノ爲メ奇數又ハ偶數員ヲ前進セシ  
ムル際ニハ兩翼嚮導モ前進シテ規準ヲ示ス

ヘシ此ノトキ嚮導ト隣員トノ間隔ヲ取ラシ  
ムルニハ「嚮導一步開ケ」ノ令ヲ下シ列ニ復

セシムルニハ「嚮導詰メ」ノ令ヲ下スヘシ若  
シ左右嚮導ノ何レカ一方ノミ開カシムルニ

ハ「右(左)翼嚮導一步右(左)」ト令ヲ下シ列  
ニ復セシムルニハ「右(左)翼嚮導詰メ」ト令

ニ復セシムルニハ「右(左)翼嚮導詰メ」ト令

三七七

第一類 警務 第一章 處務、權限

- 一 刀身検査終レハ「休メ」ノ令ヲ下ス此トキ列員ハ迅速ニ手套ヲ脱シ刀緒ニ狭ムヘシ指揮官ハ手套ノ處置終ルヲ見計リ「氣ヲ付ケ」ノ令ヲ下シ手帖以下ノ點檢ヲ令スヘシ
- 一 手帖ハ鉛筆ヲ挿シタル側ヲ前方ニスヘシ兩翼嚮導ハ列員ノ掌ノ出入高低ヲ注意シ一線上ニアラシムヘシ（警笛捕繩共倣之）點檢官ノ點檢終ラハ列員ハ手帖ヲ閉チ其背部ヲ左ニシ納メノ令ヲ待ツヘシ
- 一 嚮導巡查部長ナルトキハ携帶品ノ點檢ヲナス巡查ナルトキハ點檢ヲナスヘシ
- 一 點檢後禮式ノ演習ヲ爲スニハ「休メ」ノ令ヲ下シ手套ヲ著用セシムヘシ
- 一 室外ノ最敬禮及巡查カ上官ニ對スル敬禮ノ場合ハ一旦歩行ヲ停止シタル上右（左）又ハ半ハ右（左）向ヲナシ行禮ノ上更ニ其反對ニ左（右）又ハ半ハ左（右）向ヲナシ左足ヨリ歩行ヲ始ムヘシ
- 一 拜謁ノ際御室ノ出口ニ於テ三タヒ最敬禮ヲ

ナス爲メ右回轉ヲナスニハ行進中ナルヲ以テ「廻レ右ヘ止レ」ノ舉動ニヨルヘシ

**○警察操練法**（明治四十四年三月）  
訓第六一號

第一章 總則

- 第一、操練ノ目的ハ巡查ヲシテ嚴正ナル紀律及秩序ヲ維持シ整然運動セシムルニ在リ故ニ平素ノ訓練ハ此特有ナル性質ヲ養成スルヲ以テ主眼トス
- 第二、警察署長ハ本法ヲ遵守シテ其部下ヲ訓練スヘシ
- 第三、平素ノ操練ニ於テハ署長（不在ノトキハ警部又ハ上席警部補）躬ヲ指揮官トナリ訓練スヘシ
- 第三、最初ノ教授ニ當リ感染スル過失ハ常ニ固著シテ途ニ之ヲ矯正スルコトヲ得サルニ至ルモノナレハ瑣末ノ事タリトモ決シテ忽略ニ附スヘカラス
- 第四、指揮官ハ簡明適切ノ言語ヲ以テ諸運動ノ作法ヲ説明シ而シテ諸動作ハ躬ヲ行フテ模範

〔京都警〕

〔京都警〕

- トナリ列員ヲシテ自ラ之レニ倣ハシメ止ヲ得サルモノニ非サレハ手ヲ下シテ其姿勢ヲ正スカ如キコトナキヲ要ス
- 第五、同一ナル運動ヲ長ク續行スルトキハ巡查ノ精神及身體ヲ倦勞セシム故ニ時々運動ヲ變更シ又其時間方法ハ宜シク適當ニ定ムヘシ
- 第六、號令ニ二種アリ一ヲ豫令ト云ヒ一ヲ動令ト云フ豫令ハ明瞭ニ長ク動令ハ活潑ニ短ク發シ唱スヘシ又豫令ト動令トノ間ニハ適當ノ時間ヲ存スヘシ號令活潑ナルトキハ從テ動作ヲ活潑ニス故ニ號令ハ常ニ同一ノ方法及活音ヲ以テ下サ、ルヘカラス
- 第七、臨時召集又ハ祭典會葬其他儀式ノ場合ニ於テ隊伍ヲ編成シタルトキハ必ス操練法ノ要領ヲ適用スヘシ
- 第二章 各個教練
- △直立不動ノ姿勢
- 第八、號令  
「氣を著け」  
此號令ニテ列員ハ不動ノ姿勢ヲ取ル其法左ノ

第一類 警務 第一章 處務、權限

- 如シ
- 兩踵ヲ一線上ニ揃ヘ足尖ヲ矩形ヨリモ少シク狭ク（兩足尖ノ間隔ハ足裏ノ長サヲ以テ度トス）開キ兩膝ハ凝ラサスシテ之ヲ伸シ上體ハ正シク腰ノ上ニ落チ付ケ且ツ少シク前ニ傾ケ兩肩ヲ稍々後ニ引キ一様ニ之ヲ下ケ兩臂ハ自然ニ垂レ掌ヲ股ニ接シ指ハ輕ク伸ハシテ之ヲ竝ヘ中指ヲ袴ノ縫目ニ當テ頭ハ正シク眞直ニ保チ兩眼ハ遠ク前面ノ一點ヲ直視ス
- （注意）兩足ヲ正シク置クコトハ甚々緊要ナリ何トナレハ之ニ依テ上體ノ姿勢ヲ保ツコトヲ得若シ兩足ノ位置不正ナルトキハ從テ肩ノ位置ヲ傾クルモノナレハナリ又眼球ヲ回轉セス口ヲ開カス腹ヲ出サス心中他事ヲ思ハス意氣活潑且嚴肅ノ容姿ヲ保持スヘシ
- 第九、休憩ヲナサシムルニハ左ノ號令ヲ下ス  
「休め」  
此號令ニテ列員ハ右足ハ其儘ニシテ左足ヲ足

第一類 警務 第一章 處務、權限

裏ノ長サ程其方向ニ出シ姿勢ニ意ヲ留ムルコトナク休憩ス若シ右足ヲ休メント欲セハ正シク左足ヲ舊位置ニ復シ左足ヲ休メタル如クス如何ナル場合ト雖モ兩足同時ニ舊位ヲ離シ又ハ談話スルコトヲ得ス

但シ不了解ノコトハ指揮官ニ對シ靜カニ質問スルコトヲ得但シ此場合ニハ必ス第八ノ姿勢ニ復シ之ヲ爲スヘシ

△轉回

右(左)向及半右(左)向 第十、號令

「右(左)向け……………右(左)」

左足尖ト右足トヲ少シク上ケ左踵ニテ環ノ四分ノ一(九十度)丈ケ右(左)ニ廻リ右踵ヲ左踵ニ著ケテ同線上ニ揃フ

第十一、號令

「半右(左)向け……………右(左)」

左足尖ト右足トヲ少シク上ケ左踵ニテ環ノ八分ノ一(四十五度)丈ケ右(左)ニ廻リ右踵ヲ左踵ニ著ケテ同線上ニ揃フ

右轉回

第十二、號令

「廻れ……………右」

右足ヲ其方向ニ引キ足尖ヲ左踵ニ接シ兩足尖ヲ少シク上ケ脚ヲ屈ムルコトナク兩踵ニテ後ニ廻リ次ニ右踵ヲ左踵ニ引キ付ク

注意

此動作ノ熟練セサルトキハ之ヲ三動作ニ分解シ教練スルヲ最モ便ナリトス即チ(一)ノ舉動ニテ左足踵ニ體ヲ託シ同時ニ右足ヲ其方向ニ引キ足尖ヲ僅カニ左踵ニ接シ(二)ノ舉動ニテ兩足尖ヲ少シク上ケ脚ヲ屈ムルコトナク兩踵ニテ後ニ廻リ(三)ノ舉動ニテ右踵ヲ左踵ニ引キ付ク

△行進

速歩

第十三、速歩ニ於ケル一步ノ長サハ踵ヨリ踵迄ヲ二尺五寸其速度ハ一分間ニ百十四歩トス

號令

「前へ……………進め」

〔京都警〕

〔京都警〕

豫令ニテ刀柄ヲ前ニシ輕ク刀鞘ヲ押ヘ動令ニテ左股ヲ上ケ脚ヲ前ニ出シ足尖ハ僅カニ外ニ向ケ上體ヲ少シク前ニ傾ケ右足ヨリ二尺五寸ノ所ニ脚ヲ伸シツ、故ラニ土面ヲ敲クコトナク踏ミ著ケ同時ニ脚ヲ地面ノ方ニ壓シテ伸シ全ク體ノ重ミヲ踏ミ著ケタル足ノ上ニ移ヌ左足ヲ踏ミ著ケルト同時ニ右足ヲ地ヨリ離シ左脚ニ就テ示セシト同法ニテ右脚ヲ前ニ出シ同距離ノ所ニ踏ミ著ケテ行進ヲ續ケ兩足ヲ交又スルコトナク膝ハ必要ヨリ高ク上クルコトナク兩肩ヲ廻スコトナク頭ヲ眞直ニ保チ兩臂ハ自然ニ振ル

(注意)列員未熟ナルトキハ指揮官ハ「一、

二」ノ舉動ヲ與ヘ「一」左足「二」右足ヲ地ニ著クルモノトス故ニ始メニ定規ノ歩ノ長サニ慣習セシムルヲ勉メ全ク其動作ニ慣習シタルトキハ漸々歩調ヲ早メ遂ニ一分時ニ百十四歩ノ調子ヲ取ルニ至ラシムヘシ特ニ注意スヘキハ第一體ノ重ミヲ正シク前ナ

第一類 警務 第一章 處務、權限

ル足ニ移ヌ事第二身體ノ重ミヲ容易ニ前足ニ移シ得ル爲メ直ニ後ナル足ノ踵ヲ上ケシムル事第三頭ヲ眞直ニ保チ體ハ決シテ左右ニ偏傾セシメサル事之ナリ而シテ歩ノ長サト速サトニ熟練セシ時ハ歩々分解シテ教フルコトナク唯「一、二」ノ舉動ヲ與ヘ行進セシムルコトニ習熟セシムヘシ

第十四、號令

「分隊一止れ」

後ナル足ヲ前ナル足ニ引著ケテ止マル

退歩

第十五、退歩ハ小距離ニ用ユルモノニシテ其速度ハ速歩ニ同シ

號令

「後へ……………進め」

速ニ左足ヲ後方ニ踵ヲ伸シ足ノ角度ヲ變スルコトナク右足ヨリ約半歩(一尺二寸五分)ノ所ニ退キ次ニ右足ニテモ同動作ヲナシ續テ退却

「分隊 止れ」  
前ナル足ヲ後ナル足ニ引キ著ケテ止マル

駢歩

第十六、駢歩ニ於ケル一步ノ長サハ二尺八寸トシ其速度ハ一分時間ニ約百七十歩トス

號令

「駢歩 進め」

豫令ニテ右手ヲ握リ腰ノ高サニ上ケ肘ヲ後ロニシ左手ヲ以テ劍ノ柄ヲ握リ鎗ヲ後ロニシ體ノ重ミヲ右足ニ移ス  
動令ニテ左足ヲ前ニ出ス其法ハ脚ヲ少シク屈メ僅カニ膝ヲ上ケ足尖ヨリ下シテ右足ヨリ二尺八寸ノ所ニ踏ミ付ク次ニ左足ト同法ヲ以テ右足ヲ前ニ出シ常ニ體ノ重ミヲ踏ミ著ケタル足ニ移シ兩肘ヲ自然ニ振動シテ行進ス

「分隊 止れ」

二歩前進シタル後チ速歩ト同法ニ依リ停止シ兩手ヲ下ス

〔注意〕駢歩中ハ口ヲ閉テ鼻ニテ呼吸スルヲ

緊要トス然ラサレハ疲勞甚タ大ナリ止レハ最初四舉動ニテ之ヲ行ヒ停止セシムヘシ

步調ヲ取ラサル行進

第十七、此行進方ハ行進ヲ容易ナラシムル爲メ用ユルモノトス行進シアルトキ左ノ號令ヲ下ス

「步調……………止め」

正規ク歩法ヲ守ルコトナク速歩ノ步調ト速度ニテ姿勢ヲ崩スコトナク行進ス

再ヒ正規ノ歩法ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「步調……………取れ」

「途步……………進め」

此ノ令ニテ列員步調ヲ取ルコトナク容姿ニ著意セス小聲ニテ談話ヲナスヲ得行進中ハ通行人ノ妨害ヲ避クル爲メ右側ヲ行進スルモノトス再ヒ齊一ナル步調ニ「定規ノ列間距離」復スルニハ左ノ號令ヲ下ス  
「速歩……………進め」

〔京都警〕

駢歩ニ移ラントスルトキニハ左ノ號令ヲ下ス

「駢歩……………進め」

第十八、足踏ヲナサシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「足踏……………進め」

進ムコトナクシテ少シク膝ヲ屈メ交々兩足ヲ踏ミ著ケテ調子ヲ取ル更ニ行進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス  
動令ハ通常左足ノ地ニ著カントスルトキ下スモノトス

「前……………進め」

左足ヨリ踏ミ出シ續テ行進ス

踏ミ替へ

第十九、行進シアルトキ左ノ號令ヲ下ス

「踏ミ替へ……………進め」

上ケタル足ヲ前ニ踏ミ著ケ後ナル足ヲ踏ミ著ケタル足ノ後ニ引著クルト同時ニ前ニ踏ミ著ケタル足ヨリ行進ス

第二十、號令

「右(左)向け前……………進め」

第一類警務 第一章 處務、權限

〔京都警〕

左(右)足ヲ前ニ踏ミ著ケ其足尖ニテ體ヲ右

(左)方ニ向ケ右(左)足ヨリ新方向ニ行進ス

第二十一、斜行進ヲナサシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「斜に(右)左……………進め」

左(右)足ヲ前ニ踏ミ著ケ其足尖ニテ體ヲ半右(左)方ニ向ケ右(左)足ヨリ新方向ニ行進ス

停止間ヨリ直チニ斜行進ヲナスニハ先ツ半右(左)向ヲナシ左足ヨリ新方向ニ行進ス  
直行進ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「斜右(左)……………進め」

斜行進ヲナスト同法ヲ以テ直行進ニ復ス

第二十二、行進間右轉回ヲナサシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「廻れ右前……………進め」或ハ「廻れ右へ止れ」

左足ヲ前ニ踏ミ著ケ其足尖ニテ後ロニ廻リ右足ヲ左足ニ引キ著ケ其儘止リ或ハ更ニ左足ヨリ行進ス此場合ニ於ル動令ハ通常右足ノ地ニ著カントスルトキ下スモノトス

第一類警務 第一章 處務、權限

第二十三、第十九乃至第二十二ハ駈歩ニモナスコトヲ得

第三章 密集教練

第二十四、各個教練ヲ終リタル後小隊教練ニ移ル爲メ若干ノ列員ヲ以テ一列或ハ分隊ニ編成シ小隊ノ一部トシテ第一章ヲ施行ス但號令中小隊ノ語ヲ分隊ニ換フ小隊教練ハ第一列正面ト第二列正面トニ關セス右翼先頭ト左翼先頭トニ拘ハラス運動スルコトヲ得而シテ常ニ確實且ツ整正ナルヲ要ス

第二十五、停止間ニ於テ隊形及方向ヲ變換スルトキハ歩度ヲ伸ハシ之レヲ行ヒ行進間ニ在テハ駈歩ヲ用ヒ共ニ步調ヲ取ルヲ要セス前後ノ列間ヲ距離ト云ヒ列員相互ノ間ヲ間隔ト云フ

第二十六、指揮官ハ教練間適當ト認ムル處ニ占位スルヲ得

△小隊ノ編成

第二十七、號令

「集れ……………」

此號令ニテ列員ハ靜肅且速ニ指揮官ノ前五、六歩ノ處ニ集リ之ニ面ス首伍ハ指揮官ト齊等ニ位置スヘシ指揮官ハ列員身幹ノ順序ニ從ヒ二尺四寸(前列ノ背ヨリ)ノ距離ヲ離テ二列ニ編成シ其前後ニ立タル二人ヲ一伍ト云フ各伍中其長大ナル列員ヲ第一列ニ置ク小隊ノ列員奇數ナルトキハ左翼ノ第二列ヲ缺ク之ヲ缺伍ト云フ各列員ノ間隔ハ右手ノ拇指ヲ後ロニシ其他ノ四指ヲ前ニシ之ヲ腕骨ノ上部ニ當テ臂ヲ側方ニ張り己レノ右肘ヲ以テ輕ク隣列員ノ左肘ニ觸ル、ヲ度トシ之ヲ以テ總テ整頓ノ基礎トス

小隊ノ各伍ハ第一列正面ニ在リテ右ヨリ左ニ番號ヲ附ス列員番號ノ稱呼ハ最右翼ニ在ル者頭ヲ少シク左ヘ向ケ同時ニ短聲活音ニテ「一」ト唱ヘ直チニ正面ニ復シ以下同法ヲ以テ全列ニ及フモノトス小隊ノ兩翼第一列ニ二名ノ警部補又ハ巡查部長ヲ置ク其右翼ニ在ルモノヲ右翼嚮導ト謂ヒ其左翼ニ在ル者ヲ左翼嚮導ト

〔京都警〕

謂フ其他ノ警部補又ハ巡查部長ハ第二列ヨリ二步後方ニ位置ス之ヲ押伍ト謂フ指揮官ハ小隊ノ編成畢リタルトキ「氣を著け」ノ號令ヲ下シ列員姿勢ヲ取ルヲ見テ更ニ「番號」ト令ス

△整頓

第二十八、整頓ヲナサシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「嚮導(何步)前へ」

此ノ號令ニテ兩翼嚮導ハ示サレタル步數ヲ速歩ニテ前進ス指揮官ハ直チニ駈歩ニテ右嚮導ノ右側二步ノ所ニ立チ兩翼嚮導ヲ一線上ニ位置セシム列員整頓ノ基準線ヲ作ルモノトス

「右……………準へ」

準ヘノ動令ニテ列員ハ(何步)前進シ最後ノ一歩ヲ縮メ少シク整頓線ノ後方ニ止マリ次ニ頭ヲ右(左)ニ廻シ胸ヲ屈ムルコトナク小歩ニテ靜カニ整頓線ニ著ク但後列及押伍列ニ在ルモノハ正シク前列員ニ重リ距離ヲ取り右(左)ノ方ニ整頓ス

右翼嚮導ハ直ニ整頓ノ基準ヲ定ムル爲メ反對

第一類警務 第一章 處務、權限

〔京都警〕

翼ノ嚮導ヲ目標トシ先ツ己ニ近キ二、三列員ノ位置ヲ正シ要スレハ逐次ニ整頓ヲ正ス反對翼ノ嚮導ハ己ニ近キ二、三列員ノ位置ヲ正シ以テ整頓ヲ補助ス

「直れ」ノ號令ニテ

列員ハ頭ヲ正面ニ復シ指揮官ハ駈歩ニテ右翼嚮導ノ右側二步ノ處ニ立チ其整頓ヲ檢シ必要アレハ何番後何番前ト正スヘク而シテ後列ヲ正ス場合ニハ必ラス後列何番ト呼フヘシ其位置ニ於テ整頓セシムルニハ單ニ「右(左)へ準へ」ノ「直れ」ノ號令ヲ下ス

△開列及閉列

第二十九、號令

「後列閉め……………進め」

「進め」ノ號令ニテ後列ハ前進シテ舊位ニ復シ正シク前列員ニ重ナル

△小隊ノ背面向

第三十、號令

「廻れ……………右」

「右」ノ號令ニテ小隊ハ背面向ニ向キ缺伍及嚮導

第一類警務 第一章處務、權限

ハ後列タリシ第二列ニ就ク

第三十一、停止又ハ行進セルトキ押後列ヲ後方ニ移スニ左ノ號令ヲ下ス

「押伍後」

各押伍ハ駈歩ヲ取り最近ノ翼ヲ經テ後列ノ後方ニ至リ舊位ニ對ス

△橫隊ノ直行進

第三十二、行進ハ常ニ右方ニ嚮導ヲ取ル若シ左方ニ取ルトキハ特ニ指揮官行進目標ヲ右(左)翼嚮導ニ示シテ後左ノ號令ヲ下ス

「前」……………進め

次ニ要スレハ左ノ號令ヲ下ス

「嚮導左」

小隊ハ一齊ニ行進ヲ起シ嚮導ニ準フテ正面ト直角ニ行進シ嚮導ハ列員ニ關スルコトナク正シク成規ノ步調ト速度トヲ保チ目標ニ向ツテ前進ス各列員ハ嚮導ノ方ニ整頓スル爲メ頭ヲ轉スルコトナク常ニ隣列員ニ注意スルヲ要ス然レトモ一般ニ整頓ハ步調及速度ノ齊一ナルト間隔ノ保存トニ依リテ保持シ得ルモノトス

〔京都警〕

第三十三、行進中嚮導ヲ他翼ニ取ルヲ要スルト

キハ「嚮導右(左)」ノ號令ヲ下ス

第三十四、背面行進ヲ爲サシムルニハ第三十五ニ從テ小隊ヲ背面ニ向カシメ第三十七ニ從テ行進セシム

第三十五、直行進ニアリテ列員ノ遵守スヘキ規則左ノ如シ

嚮導ハ何レノ方ニ在ルモ列員ハ常ニ頭ヲ正シク保ツヘキコト

整頓翼ヨリ押シ來ルトキハ之ニ從ヒ反對ノ方

ヨリ押來ルトキハ之ニ抵抗スヘキコト整頓線

ヨリ進ミ或ハ後レ又ハ間隔ヲ失ヒタルトキハ

漸次ニ整頓線ニ就クヘキコト若シ歩ノ違フト

キハ速ニ嚮導ノ方ナル隣列員ノ歩ニ準フヘキ

コト

△斜行進

第三十六、號令

「斜右(左)」……………進め

斜行進ノ方向ハ正面ト四十五度ノ角度ヲ爲スヲ要ス

〔京都警〕

斜行進ニアリテ各列員ノ位置正シキトキハ其肩互ニ平行シ右(左)斜行進ニアリテハ右列員ノ右(左)肩其右(左)隣列員ノ左(右)肩ノ後ロニアルモノトス各列員ハ常斜行スル方ニ整頓ス

直行進ニ復シタルトキ要スレハ「嚮導右(左)」ノ號令ヲ下ス

第三十七、再ヒ直行進ニ復スルニハ左ノ號令ヲ下ス

「斜に右(左)」……………進め

駈歩

第三十八、列員直行進及斜行進ニ熟スルトキハ駈歩ヲ以テ此運動ヲ行ハシムヘシ

第三十九、小隊ヲ停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「小隊」……………止め

小隊ハ停止シ列員各自ニ嚮導ノ方ニ整頓ス側面向キニ在リテハ動クコトナシ

△行進間ノ背面向

第四十、小隊行進中ノ止ムルコトナク背面向

第一類警務 第一章處務、權限

第一類警務 第一章處務、權限

第一類警務 第一章處務、權限

第一類警務 第一章處務、權限

進ヲ行ハシムルニハ第二十三ニ準シテ施行シ要スレハ「嚮導左」ノ號令ヲ下ス

背面向ヲ爲スト同時ニ停止セシムルニハ第二十二ニ準シテ施行シ列員ハ各自ニ嚮導ノ方ニ整頓ス

△退歩

第四十一、退歩ハ第十五ニ從テ施行シ要スレハ

嚮導左ノ號令ヲ下ス

△方向變換

第四十二、號令

「右(左)に向を換へ」……………進め

停止間ニアリテハ右(左)翼嚮導右(左)向ヲ爲

シ各列員ハ半右(左)向ヲ爲シ步度ヲ伸ハシ捷

路ヲ經テ逐次新整頓線ニ到テ停止シ其右(左)

隣列員ノ方ニ整頓線ニ到テ停止シ其右(左)隣

列員ノ方ニ整頓ス

行進ニアリテハ(右)左翼嚮導ハ右(左)向ヲ爲

シ總テ行進シ各列員ハ上ノ方法ニ準シ駈歩ヲ

以テ新線ニ就キ右(左)隣列員ニ準フテ行進ス

此時要スレハ嚮導ヲ示ス

第一類警務 第一章處務、權限

第四十三、小角度ノ方向變換ヲ行フニハ方向ヲ變換スヘキ方ニアル翼嚮導ニ新目標ヲ示シ第四十二ニ從テ施行ス  
行進間方向變換ノ角度微少ナルトキ「目標右(左)」ノ號令ヲ下ス嚮導ハ新目標ニ向テ行進シ各列員ハ步度ヲ伸縮シ新線ニ就ク

△側面行進

第四十四、號令

「右(左)向け……………右(左)」

「前……………進め」

右(左)ノ號令ニテ小隊ハ右(左)向ヲナセハ偶數員(奇數員)ハ奇數員(偶數員)ノ右(左)ニ出テ伍ヲ組ミ四列員相併ヒ側面向トナリ輕ク肘ヲ接シ前列員ニ正シク重ナリ伍頭ノ方ニ整頓ス兩翼嚮導及押伍ハ其位置ニ在リテ右(左)向ヲナス「進め」ノ號令ニテ其儘行進ス小隊ヲシテ伍ヲ重復スルコトナク側面行進ヲ行ハシムルコトヲ得此場合ニ於テハ號令ノ前ニ「其儘」ノ通告ヲ與フ

△側面行進間伍ノ分解及重復

第四十五、伍々分解スルニハ左ノ號令ヲ下ス

「伍々別れ……………進め」

各列重復シタル列員ハ步ヲ縮メテ已レノ位置ニ入り後列員ハ其前列員ノ方ニ整頓ス

第四十六、伍ヲ重復スルニハ左ノ號令ヲ下ス

「伍々併せ……………進め」

第四十四ニ準シテ伍ヲ重復ス

第四十七、停止或ハ行進セルトキ左ノ號令ヲ下ス

「伍々左(右)……………進め」

此ノ號令ニテ先頭伍ハ小ナル環形ヲ步ミ停止間ニアリテハ前進ヲ起スト同時ニ以上ノ動作ヲナシ旋回軸ニアル列員ハ最初ノ步數ヲ縮メ外翼ニアル列員ハ正規ノ步調ヲ以テ行進シ常ニ旋回軸ノ方ニ整頓シツ、左(右)ニ方向ヲ換ヘ續テ行進ス各伍ハ其前ノ伍ト同所ニ至リ同法ヲ以テ換フ

△停止及正面向

第四十八、小隊ヲ停止セシムルニハ左ノ號令ヲ

「京都警」

「小隊止れ」

「左(右)向け……………左(右)」

此號令ニテ小隊ハ動クコトナク左(右)ノ號令ニテ左(右)向キ伍ヲ解キ各自ニ嚮導ノ方ニ整頓ス

小隊ヲ停止シ直チニ正面ニ向ハシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「左(右)向け……………止れ」

△行進間右(左)向

第四十九、行進間右(左)向ヲナサシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「右(左)向け前……………進め」

各伍ハ右(左)向ヲナシ重復又ハ分解ス

小隊直行進ニアルトキ要スレハ「嚮導左」ノ號令ヲ下ス

第五十、駈歩ヲ以テスル諸動作ノ要領ハ速步行進ニ異ルコトナシ

△隊形變換

第五十一、停止或ハ行進セル側面縱隊ヲ橫隊ニ

第一類警務 第一章處務、權限

移ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「左(右)へ併び……………進め」

先頭ニ在ル嚮導ハ動カサルカ或ハ續キテ行進シ各列ハ伍ヲ解キ右(左)肩ヲ前ニ出シ步度ヲ伸ハシ或ハ駈歩ニテ捷路ヲ經テ逐次ニ新線ニ就キ右(左)隣列員ニ整頓スルカ或ハ之ニ準フテ行進ス

第五十二、橫隊ニ在テ行進セル小隊ヲ同方向ニ

側面縱隊ニ移スニハ左ノ號令ヲ下ス

「右(左)向け伍々右(左)……………進め」

第四十四及第四十七ニ準シテ施行ス

二列ヨリ一列ニ及一列ヨリ二列ニ移ル

第五十三、停止或ハ行進セルトキ二列ヨリ一列

ニ移ラシムルニハ基準伍(通常中央伍)ヲ示シ

テ左ノ號令ヲ下ス

「一列に……………進め」

停止間ハ基準伍ハ動カス其他ノ諸伍ハ左右向ヲナシ所要ノ間隔ノ點マテ進ミ正面ニ復シ後列員ハ前列員ノ左ニ出テ各自基準方ヘ整頓ス



第一類警務 第一章處務、權限

但シ基準伍ニ近キ左右二三番ノ列員ハ横歩ニテ所要ノ間隔ヲ取ルモ妨ケナシ  
行進間ハ基準伍ハ其儘續キテ行進シ其他ノ諸伍ノ前列ハ左右ニ斜行進ヲシテ所要ノ間隔ヲ開キ直行進ヲナシ後列員ハ斜行進ヲナシ前列員ノ左ニ出テ基準伍ニ準ヒ行進ス二列ニ復スルニ基準員ヲ示シテ左ノ號令ヲ下ス  
「二列に……進め」  
一列ニ移ルト反對ノ順序ヲ以テ二列ニ移ル

△間隔ノ開閉

第五十四、間隔ヲ開閉セシムルニハ基準伍ヲ示シタル後左ノ號令ヲ下ス  
「何歩に開け……進め」

此號令ニテ右(左)向キヲナシ示サレタル間隔ヲ取りタル後正面ニ復シ基準伍ノ方ニ整頓ス  
「右へ……進め」  
「直れ」  
整頓ノ要領ニ準ス

△集合解散

第五十五、集合解散ヲナサシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

「集れ」

此號令ニテ第二十七ニ準ス

「解れ……進め」

此號令ニテ敬禮ヲ行ヒタル後解散ス

△環列或ハ半環列

第五十六、横隊ニアルトキ環列或ハ半環列ヲ作ルニハ中央ニ基準(何番基準)ヲ示シテ左ノ號令ヲ下ス  
「環列作れ……進め」  
「半環列作れ……進め」

示サレタル基準伍(員)ハ動カス他ノ列員ハ基準ノ方ニ準ヒ兩翼ヨリ進ミ中央ニ近ツクニ隨

ヒ漸次小歩ヲ踏ミ兩翼ノ間隔約四歩ヲ距リ環列線ニ到リ停止シテ指揮官ヲ包圍シ各自ニ整頓ス嚮導ハ環列線ヲ正シク取り列員ノ整頓ヲ

正ス押伍列ハ指揮官ノ後方ニ一列ニ整頓ス半環列ハ只半圓形ヲ畫クヲ異ナリトス

第五十七、横隊ニ復スルニハ左ノ號令ヲ下ス  
「故へ復れ……進め」

基準伍(員)ハ動カス其他ノ列員ハ右轉回ヲ爲  
「京都警」

シ前法ノ反對ニテ横隊線ニ至リ停止シ同時ニ右轉回ヲ爲シ中央ニ準フテ各自ニ整頓ス押伍列ハ横隊ニ復スルノ後最近翼ヲ經テ定位ニ復ス

△附則

第五十八、本法中(進め)ノ號令ヲ(オイ)ト單稱ス

第十節 信號、注意

○警察官吏警笛信號法並受信者心得

(明治四十年七月 訓第一〇四號)

第一條 警笛信號ハ三度以上發聲スヘキモノトス但障礙ニ依リ不可能ノ場合又ハ近距離ニシテ其必要ヲ認メサルトキハ此限ニアラス

第二條 受信者ハ發聲度數ノ多少ニ拘ハラズ直ニ之レニ應スヘキモノトス

第三條 警笛信號ヲ分チテ常時非常ノ二種トシ常時信號ハ當該受信者ノミ之レニ應シ非常信

第一類警務 第一章處務、權限

(京都警)

號ハ官ノ上下ヲ問ハス受信セシ總テノ警察官吏之レニ應スヘキモノトス

第四條 常時警笛信號法左ノ如シ

集合信號 短一聲 長一聲 多衆巡查ニ集合ヲ命スルトキニ用ユ

受信巡查ハ驅足ニテ發聲者ノ面前ニ參集スルモノトス

解散信號 長一聲短一聲處々ニ配置又ハ散在セシ巡查ニ解散又ハ警戒ノ解除ヲ

命令スルトキニ用ユ

呼寄セ信號 上官ニ對スルモノ短二聲長一聲同班以下ニ對スルモノ長一聲短二聲用務アル上官又ハ同班以下視界内ニアルモ自己ハ現位置ヲ離ル、能ハサルトキ又ハ之レニ追及スル能ハサルトキニ用ユ

第五條 非常警笛信號法左ノ如シ

求援信號 長一聲短三聲求援ノ必要アルトキニ用ユ

受信者ハ驅足ニテ現場ニ參集スルモノトス

○警笛信號法ニ關スル件

第一類 警務 第一章 處務、權限

(明治四十年七月 警第二〇七〇號)

警察官吏警備信號法並ニ受信者心得第四條當時 集合信號ト巡查點檢規則第十二條ノ場合ニ於ケル 集合信號ニ付テハ其何レニ依ルヘキモノナル ヤ伺出ノ向有之候處右ハ近來他ニ類似ノ吹笛ヲ ナスモノ漸次増加ノ傾向ヲ呈シ以テ警備ト鑑別 スルニ困難ナルヨリ今回信號ヲ一定セラレタル 趣意ニ有之候ニ付假令點檢ノ場合ト雖該信號法 ニ依リ可然モノニ候間爲念此段及通牒候也

警察信號報告例

(明治四十一年八月 京都府訓令第五十四號)

一 信號ハ洪水等ノ爲メ交通杜絶シ通信ノ便ナキ 場合ニ於テ警察事故ノ報告ニ用ユルモノトス  
 一 信號報告ハ豫定ノ場所ニ信號旗ヲ掲揚スルニ 依リテ之ヲ行フ  
 但其場所ハ警察官署長ニ於テ撰定シ警察部 ニ通知スヘシ  
 一 信號旗ヲ分ツテ發信旗受信旗ノ二種トス

一 發信旗ハ綿布類ヲ以テ作り竿頭ニ掲クルモノ トス其符合後記ノ如シ  
 一 信號報告ヲ受ケタルトキハ受信旗ヲ豫定ノ場 所ニ樹テ置クヘシ  
 但發信旗ヲ撤回シタル後ニ非ラサレハ受信 旗ヲ取下クルコトヲ得ス  
 一 受信旗ニハ幅一尺長サ六尺ノ赤色綿布ヲ以テ 作りタル旗ヲ用ユヘシ  
 一 夜間ハ點燈ヲ以テ信號旗ニ替ユ  
 一 關係警察官署ハ信號受授ノ場所ヲ協定シ且其 場所ヲ警察部ニ通報スヘシ  
 一 警察官署ハ本例ニ定ムルモノ、外信號規定ヲ 設クルコトヲ得  
 前項ニ依リ規定ヲ設ケタルトキハ知事ニ報告 スヘシ



堤防決潰ノ虞アリ 救護ヲ望ム

〔京都警〕

尺二方



溺死者多シ 悲惨ヲ極ム

〔京都警〕

尺二方



人家流失ノ虞アリ 救護ヲ望ム

同



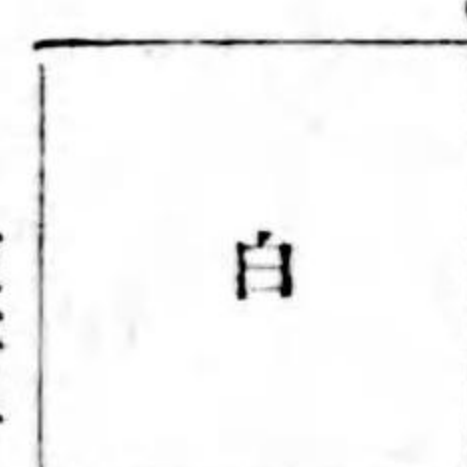
負傷者多シ 悲惨ヲ極ム

尺二方



人家流失多シ 悲惨ヲ極ム

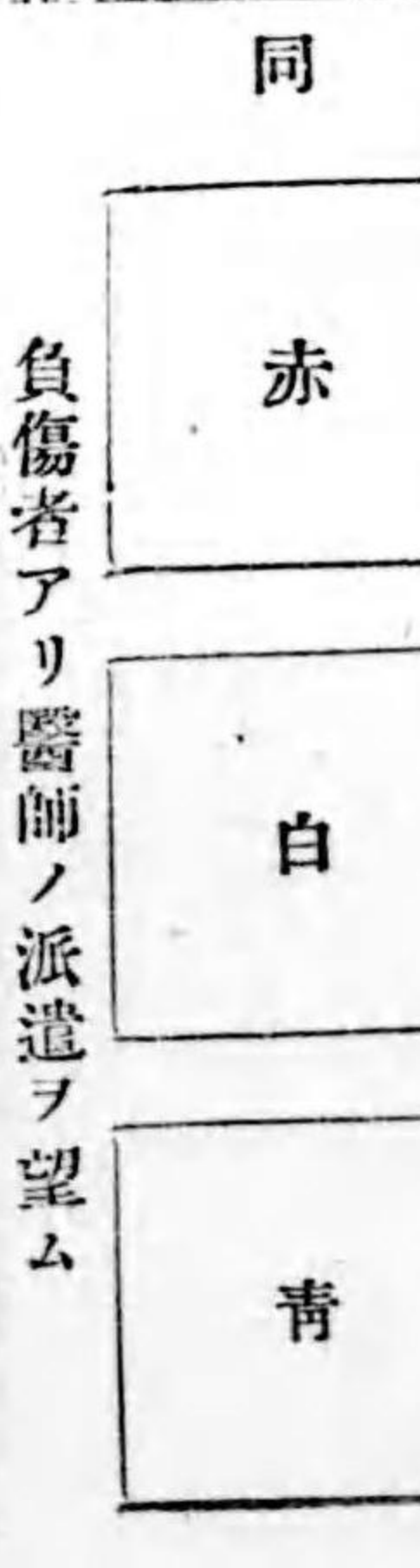
同



被害者飢ユ糧食ノ送付ヲ求ム

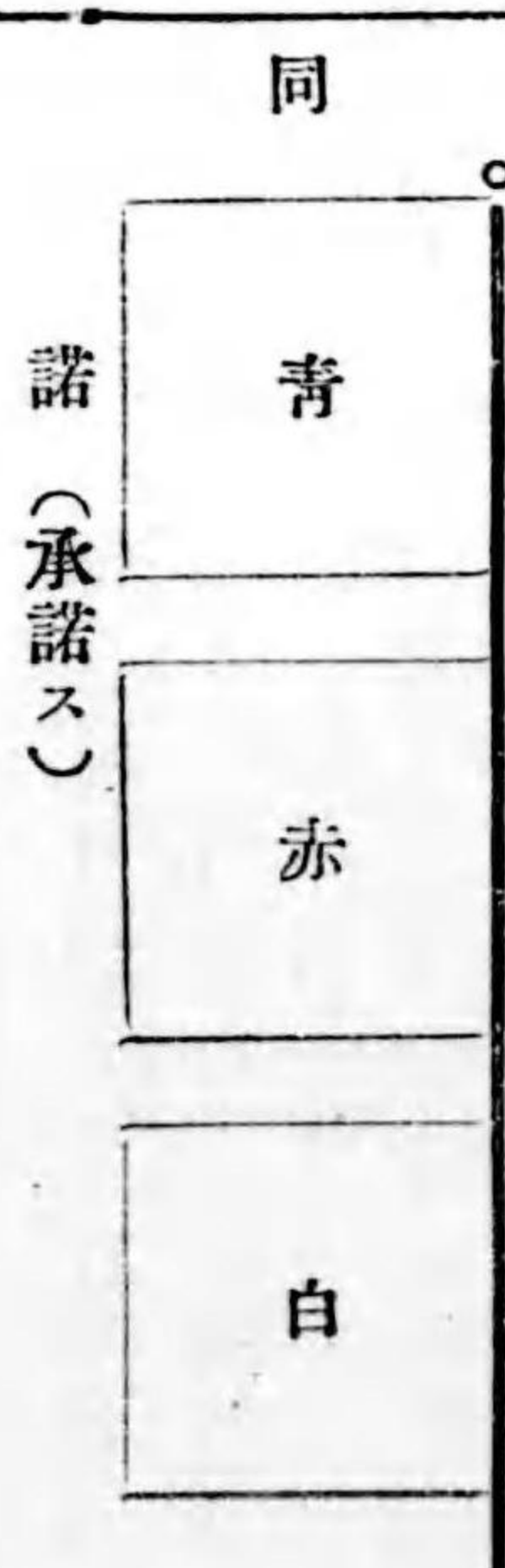
三九三

第一類 警務 第一章 處務、權限



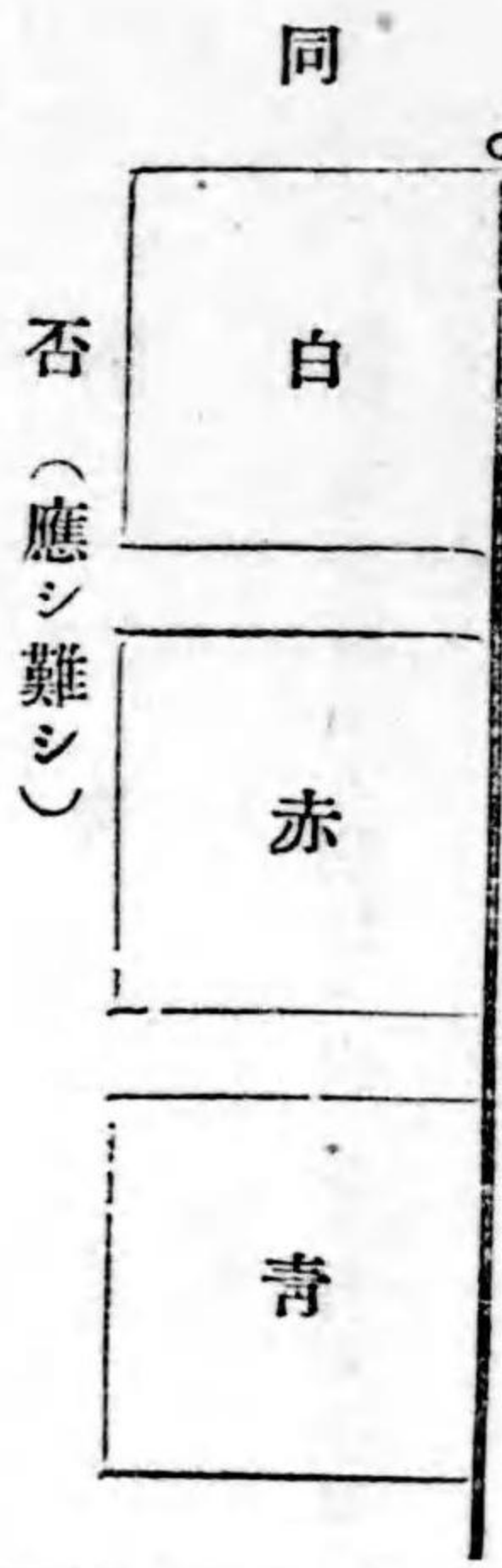
貴署巡查數名ノ應援ヲ求ム其旨署長ニ  
迅報ヲ乞フ

第一類警務 第一章 處務、權限



洪水減退セルモ救護十分ナラス應援ヲ  
求ム

〔京都警〕



○信號旗製作方

(明治四十三年八月)  
(警第三三一六號)

各署長

今回警察信號法制定相成候ニ就テハ信號旗ノ寸法ハ左記ノ通り製作相成度此段及通牒候也

長曲尺四寸

長曲尺六分

柄ノ太サハ適宜

長曲尺一尺三寸

長曲尺一尺三寸

〔京都警〕

○特別注意内規

(明治三十三年十月)  
(保訓示第四四號)

警察上注意スヘキモノ千緒萬端豫メ一定シ難ク其發生スルヤ時處ヲ擇ハス故ニ警察ノ實務ニ當ルモノハ常ニ注意留心シ之レカ執行ハ苟モ間然アルヘカラサルハ勿論ナリト雖モ尙ホ一層ノ注意ヲ喚起シ警察ノ周到ヲ期センカタメ別紙之通特別注意内規ヲ設定宜シク部下ニ訓授シ寬嚴其度ニ從ヒ又濫リニ苛察ニ陥ラサル様注意スヘシ

〔京都警〕

(別紙)

- 第一項 本規定ノ趣旨ハ普通警察上ノ注意ヲ取締ヲ周到ナラシメ兼テ各署均一ノ執行ヲ期スルニアリ
- 第二項 注意事項ハ大別シテ五項トシ執行ノ日時項目ハ〔警部長〕ヨリ前日中ニ之レヲ署長ニ指定訓示スルモノトス
- 第三項 署長前項ノ訓示ヲ受ケタルトキハ翌朝點檢ノ際一般部下ニ訓授スヘシ
- 第四項 指定執行ニ係ル事故ハ左記雛形ニ準シ其成蹟ヲ調査シ翌日報告スヘシ

明治三十三年 特別注意件數報告表

何警察署

件名	件數	說諭ニ止メタル件數	告發シタル件數	計
一 御肖像ヲ不敬ニ涉ル場所ニ掲ケ又ハ陳列シ若クハ虎ノ販賣スルコト	一八		六	二四
二 菊御紋章ヲ看板ニ表出シ又ハ商品ニ畫キ其他濫用スルコト	一二		三	一五
三 店頭先へ商品薪炭其他ノ物件ヲ排列又ハ突キ出スコト	一五		五	二〇

第一類警務 第一章 處務・權限

合計	四	五	六	四	五	一四	五九
----	---	---	---	---	---	----	----

件名ノ欄ハ其件目ヲ詳記セサルモ適宜省略シ單ニ一二三ノ符號ニ止ムルモ差支ナシ統計ノ際彼是混記セサル様注意ノコト

第一號

街路取締

- 一 御肖像ヲ不敬ニ渉ル場所ニ掲ケ又ハ陳列シ若クハ露店ニ於テ販賣スルコト
- 一 菊御紋章ヲ看板ニ表出シ又ハ商品ニ畫キ其他濫用スルコト
- 一 店舗其他邸宅前ノ道敷へ商品薪炭木石荷車其他ノ物件ヲ排列又ハ突キ出スコト
- 一 允許ヲ請ケスシテ街路取締規則第六條ノ所爲ヲナスコト
- 一 街路ニ沿タル場所ニ竹木ヲ立テ置キ強固ナル

〔京都警〕

- 一 纏束ヲナサス又ハ薪炭其他ノ物件ヲ堆積シテ堅牢ノ裝置ヲ爲サ、ル事
- 一 街路ニ於テ荷造リ其他ノ作業ヲナスコト
- 一 諸車牛馬ヲ牽キ雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上等ヲ疾驅シ又ハ駐止シ或ハ道路ニ横タユルコト
- 一 牛馬諸車ヲ濫リニ疾驅又ハ竝ヒ曳キ及車ヲ後押シノミニテ運轉スルコト
- 一 路上ニ於テ紙鳶ヲ揚ケ獨樂ヲ廻シ羽子手球ヲ弄シ其他遊戯ヲナシ通行ノ妨害ヲナスコト
- 一 外國人ニ追從又ハ其周邊ニ娯集スルコト

〔京都警〕

- 一 商品ノ販賣又ハ諸廣告ノ爲メ演述其他ノ方法ヲ以テ人ヲ群集セシメ通行ヲ妨害スルコト
- 一 車馬止メ其他通行ニ制限アル場所ニ立入又ハ通行スルコト
- 一 街路ノ掃除又ハ塵芥鳥獸ノ死屍其他汚物ノ取除ヲ怠ルコト
- 一 路上ノ撒水又ハ雪除ケヲ怠ルコト
- 一 路上ニ汚水ヲ散布シ又ハ瓦礫塵芥鳥獸ノ死屍ヲ投棄シ其他街路ヲ不潔ナラシムルコト
- 一 制限ニ違背シ糞尿ノ汲取り又ハ運搬ヲナスコト
- 一 街路ニ於テ袒裼裸體其他醜體ヲ露ハスコト

第二號

營業人力車

- 一 免許ヲ受ケス輓子ヲナシタルモノ
- 一 無検査又ハ定期検査ヲ受ケサル人力車ヲ使用スルコト
- 一 鑑札又ハ規則及賃錢表ヲ携帯セサルコト
- 一 定期検査ヲ受ケサル輓子鑑札ニテ營業スルコト

第一類警務 第一章處務、權限

- 一 身上竝ニ住所其他鑑札面ニ異同ヲ生シ又ハ鑑札ヲ汚損遺失シ書換又ハ再下附ヲ請ケサルコト
- 一 免許鑑札ヲ貸與シ又ハ車體検査證ヲ轉用シ若クハ記載ノ事項ヲ改竄スルコト
- 一 車體ノ構造制限ニ違フ或ハ成規ノ付屬品ヲ備ヘス又ハ破損汚染等ノ車體付屬品ヲ使用スルコト
- 一 輓子就業中服裝ノ制限ニ背キ又ハ破損汚染シタルモノヲ著用スルコト
- 一 駐車場外ニ客待ヲナシ又ハ空車ヲ輓キ路上ニ停立徘徊スルコト
- 一 客待中車ヲ路傍ニ片寄セス又ハ楫棒ヲ往來ニ向ケ通行ノ妨害ヲ爲スコト
- 一 行人ニ對シ強テ乘車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲナスコト
- 一 認可外ノ賃錢ヲ請求スルコト
- 一 汚穢物又ハ車體外ニ張出シ通行ノ妨害トナル物若クハ傳染病患者ヲ乗載スルコト
- 一 車ヲ竝ヘ輓キ又ハ濫リニ疾驅シ通行ノ妨害ヲ

第一類警務 第一章處務、權限

ナスコト

- 一 通行及避讓法ノ規定ニ違背スルコト
- 一 街角橋上其他通行ノ妨害トナル處ニ於テ客ヲ昇降セシムルコト
- 一 駐車場ニ於テ賭奕ヲナシ又ハ喧騒シ或ハ道路ヲ汚損スルコト
- 一 駐車場外ニ車ヲ置クコト

第三號

荷車及牛馬車

- 一 荷車ニ所有者ノ住所氏名ヲ荷臺ノ見易キ處ニ明記セサルコト
- 一 車ヲ竝ヘ輓キ又ハ後押シノマ、運轉スルコト
- 一 途上避讓法ニ違背スル事
- 一 車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲スコト
- 一 牛馬ヲ繫クコトヲ緩ニシテ行人ノ妨害ヲ爲スコト
- 一 夜中燈火ナクシテ車ヲ輓キ又ハ牛馬ヲ牽クコト
- 一 通行ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ荷物ヲ積載シ又ハ荷卸スルコト

四〇〇

- 一 竹木其他末口尖リタル物件ヲ運搬スルニ末口ヲ纏束セサルコト
- 一 橋上街角其他通行ノ妨害トナル場處ニ牛馬車ヲ駐止スルコト
- 一 牛馬ヲ虐使スルコト
- 一 荷車積荷ノ制限ヲ超過スル事
- 一 群集ノ場所ニ濫リニ牛馬ヲ引キ入ル、コト
- 一 積荷ノ墜落漏出又ハ飛散スヘキ虞アルモノヲ運搬スルニ適當ノ装置ヲ爲サ、ル事

第四號

- 一 塵芥屎尿汚物等ヲ運搬スル容器ニシテ臭氣ノ發散汚物ノ漏出ルモノヲ使用スルコト
- 一 其儘飲食ニ供スヘキ物品ノ覆蓋ヲ爲サ、ルモノ
- 一 腐敗未熟ノ飲食物ヲ販賣シ殊ニ清涼飲料水營業者ニ於テ傳染性ノ疾患アルモノヲ本業ニ從事セシムルコト
- 一 獸肉販賣者ニシテ獸肉ノ塵芥及蚊蠅ヲ防クヘキ設備ヲ爲サ、ルコト
- 一 街路ノ公共便所ノ掃除ヲ怠ルコト

〔京都警〕

第五號

- 一 乞丐強賣者其他浮浪者ヲ驅除スルコト
- 一 路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲スコト

○巡查注意申報心得

〔明治十二年六月〕

〔無號〕

- 第一條** 凡ソ警察ノ職務ハ現ニ著手スルモノノ探偵スルモノ、外各自意ヲ注キ異常ノ事ヲ見聞スレハ其儘ヲ申報スルトキハ其裨益少シトセシテ注意申報ノ起ル所以ナリ日常篤ク注意シテ一々申報スルヲ要ス尤モ歸省旅行中ト雖深ク意ヲ用ヒテ申報スヘシ
- 第二條** 各警察署ハ所屬巡查ヨリ差出シタル申報ノ條件規則上ニ係リ一般ニ關係アルモノ若クハ事ノ重大ナルモノハ其廉々警察署長ニ於テ拔萃ノ上本部長ニ進達シ其署長ノ權限内ニ於テ係ルモノハ相當處分シ別ニ進達ニ及ハス
- 第三條** 注意ト探索トハ趣意異ナルヲ以テ是ヲ混同スヘカラス況ヤ此申報ナル者ハ恰モ密報ト稱スヘキニ似タレハ則チ事主物件等ニ差響

第一類警務 第一章處務、權限

〔京都警〕

- カサルヲ以テ緊要トス
- 第四條** 此申報ヲ爲スニ或ハ迅速ヲ要スル事ハ直ニ上官ニ申告スルコトヲ得ヘシ尤モ其都合ニ依リ郵便等ヲ以テ差出スモ勝手タルヘシ
- 第五條** 申報書ハ自ら見聞スル所ノ事實ヲ悉ク書檢印シテ決シテ履書スルヲ得ス
- 第六條** 隱密迅速ヲ要スル事件ニ於テ第四條ノ手續ヲ爲スハ勿論直チニ上官ニ面述スルモ妨ナシ
- 第七條** 處刑決放ノ者ハ刑法上ニ於テモ監視スヘキ筈ノ理アレハ平日注意シテ其舉動ヲ觀察シ苟モ異狀變態ヲ見聞セハ特ニ迅速ニ申報スヘシ
- 第九條** 注意申報スヘキ事件ヲ此ニ掲載シ著目ノ便ヲ計ラント欲スレトモ多端ニシテ枚舉スルニ違アラサルヲ以テ安寧ニ關スル事交際ニ關スル事風俗ニ關スル事衛生ニ關スル事等其概目ヲ左ニ掲ク

第一 安寧ニ關スルトハ例ヘハ

四〇一

第一類 警務 第一章 處務 權限

一天皇ノ身體及皇族ニ對スル事

一内亂ニ關スル事

一各府縣ノ動靜景況

一諸集會並ニ演說

一學校及說教場又ハ私塾

一往來通信ニ關スル事

一難溢人

一官吏ノ職務ヲ行フニ關スル事

第二 交際ニ關スルトハ例ヘハ

一戸籍上ニ關スル事

一動産不動産所有物件ヨリ起ル紛議ニ關スル事

一人ノ住所ニ關スル事

一一般ノ信用ニ關スル事

一諸般ノ營業

一免狀鑑札及保證狀

一公選ノ投票ニ關スル事

第三 風俗ニ關スルトハ例ヘハ

一浪遊及浪費ノ者

一賣淫及猥褻ノ所行

一劇場寄席

一棄子

一孝子義僕

一奇特人

一衛生ニ關スルトハ例ヘハ

一飲食物及賣藥

一微毒検査

一諸病及傳染病

一飲料水ノ汚濁

一道路往來ノ不潔

一屠肉場

一家畜飼方

第十條 前條各項ニ於テ注意ノ事件ヲ揭クト雖

固ヨリ其一班ニ過キサレハ他ハ各員ノ廣ク心ヲ用ヒ篤ク意ヲ注カンコトヲ要ス

〔京都警〕

○孝子節婦義僕申報方

〔明治十六年十二月 本甲第一八五號〕

孝子節婦義僕等其德行ヲ賞スルハ治民上最モ缺クヘカラサルモノニシテ則チ褒章條例ノ制定アル所以ナリ而シテ其德行者上申ノ義ハ從來注意申報ノ設ケアルヲ以テ各署ニ於テモ其申告ヲ怠ラサルハ勿論ト雖近頃諸新聞紙上ニ於テ前德行者ヲ掲載スルモノ尠カラス右ハ固ヨリ輕々ニ看過スヘカラサルニ付以來右新聞紙上ニ散見スルトキハ其德行所轄ノ警察署又ハ分署ニ於テ事實探偵ノ上其行爲詳細上申スヘシ

○隣府縣聯合通報概則

〔明治十七年四月 本甲第七六號〕

隣府縣聯合通報概則左ノ通相設ク  
但シ聯合ノ義ハ接壤警察署長互ニ照會ノ上相定メ届出ヘシ

第一條 氣脈ヲ通シ警防ヲ嚴ニスル爲メ接壤警

第一類 警務 第一章 處務 權限

〔京都警〕

察署又ハ分署ニ於テ左ノ事項ヲ互ニ通報スルモノトス

一 強盜放火殺人又ハ重大ノ竊盜及詐欺等ニシテ被告人ノ踪跡不分明

二 禁錮以上ニ該ルヘキモノ及賭博犯人留置中逃走

三 被盜品ノ特別ナル印アルモノ

第二條 前條ノ事項ニシテ就縛及自首等ハ猶ホ之ヲ通報スルモノトス

第三條 通報事項ハ可成冗ヲ去リ要領ヲ摘記スルモノトス

第四條 本則ニ掲ケサル事項ニシテ實際必要ト見認ムルモノハ互ニ通報スルコトヲ得

○事變其 揭示事項

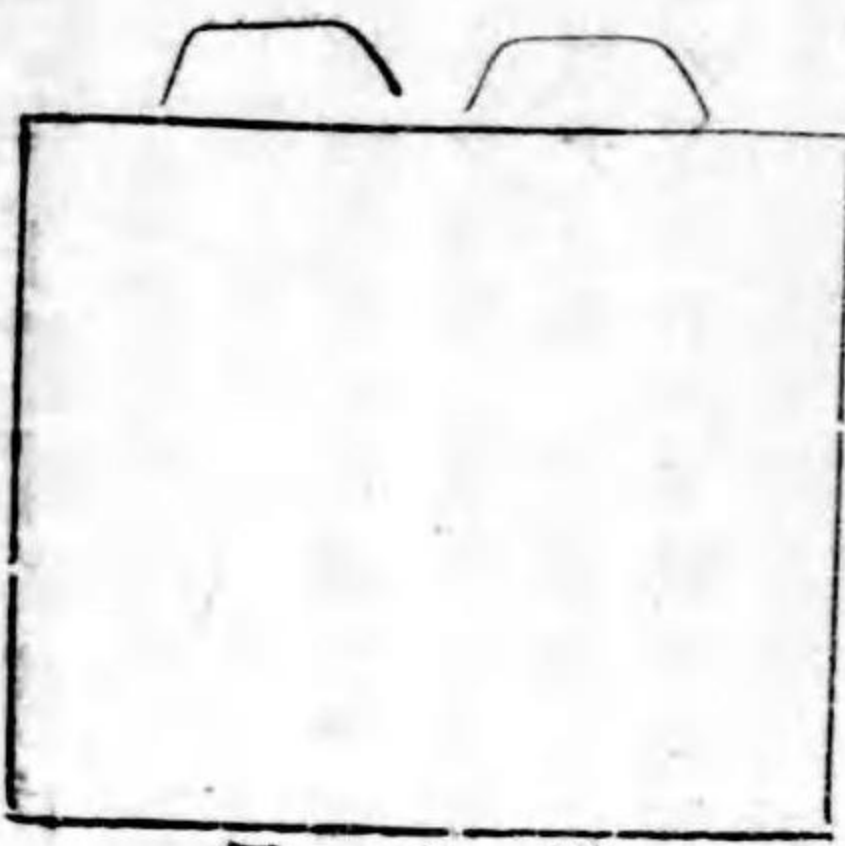
〔明治二十八年三月 京都府訓令第五號〕

市内ニ生スル左ノ事故ハ互ニ通報シ各警察署ハ勿論其所屬巡查派出所前ニ揭示スヘシ

第一類 警務 第一章 處務、權限

通報方ハ警察署間ハ電話巡查派出所ヘハ巡查部長巡視其他ノ便ニ依ルヘシ

- 一 水火災アルトキ
  - 二 變死人アルトキ(住所氏名不明ニ限ル)
  - 三 迷子アルトキ
  - 四 現金及價格五圓以上ト認ムヘキ物品ノ拾得物アルトキ
- 但印形其他重要ノ物品ハ價格五圓以下ト雖本項ノ手續ヲナスヘシ
- 揭示黒版式  
豎一尺



横二尺

黒版ハ巡查派出所ニ限之ヲ用ヒ警察署ハ在來ノ揭示場ニ揭示スヘシ

黒版ハ各署經費ノ内ヲ以テ新調スヘシ

黒版記載例  
水、火災 (白書以下同シ)

何月何日午前「後」何時鳴川澎漲何地堤防缺壞セリ又ハ何々往來止

何月何日午前「後」何時何町通何町上ル何某ヨリ出火

變死人  
何月何日午前「後」何町通何町南入何町ニ於テ何歳位ノ男「女」一人倒死「殺害」シアルヲ發見セリ

何寺ニ假埋葬又ハ何々特徴及被服ノ模様概略ヲ記ス

迷子  
何月何日午前「後」何時何町通何町上ル所ニ於テ何歳位ノ男「女」一人行路ニ迷ヒ居ルヲ以テ何區役所ニ引渡セリ其被服ノ模様及特徴等略記ス

拾物  
何月何日午前「後」何時金何圓(何々在)何々印形(中ノ儘)何々印形

〔京都警〕

一個金剛時計一個拾上ケ何警察署ニ領置シア

揭示日限ハ凡ソ五日間トス事故多クシテ書載ノ餘面ナキトキハ此限ニアラス

第十一節 統計、報告

○統計報告事務取扱規程

(明治三十八年四月 應訓第三四號)

第一條 統計及報告材料ハ各擔任者ニ於テ精確ニ調査シ時期ニ後レサルコトヲ努ムヘシ

第二條 統計係員及統計主任ハ互ニ協力シテ事務ヲ處理スヘシ

第三條 統計主任ハ其課又ハ係ニ屬スル統計及報告材料ヲ調査シ課長及部長ヲ經テ期限内ニ統計係ヘ送附スヘシ

第四條 統計主任ハ統計及報告材料ノ確實ヲ證スル爲メ一表毎ニ捺印スヘシ

第五條 統計主任事故アルトキハ課長ハ臨時代理者ヲ設クヘシ

第一類 警務 第一章 處務、權限

〔京都警〕

第六條 統計係ニ於テ新ニ統計及報告材料ヲ蒐集スル必要ヲ生シタルトキハ關係ノ部課ニ合議スヘシ

各部課ニ於テ主務事項ニ關シ特ニ統計及報告材料トナルヘキモノヲ蒐集セントスルトキハ統計係ニ合議スヘシ

第七條 各部課ニ於テ統計及報告材料トナルヘキ事項ノ調査ヲ爲シタルトキ及他ヨリ統計及報告材料トナルヘキ文書ヲ受ケタルトキハ其欄外ニ「統計材料」ノ印ヲ捺シ之ヲ統計係ヘ送附スヘシ

統計係前項ノ文書ヲ受ケタルトキハ直ニ調査ヲ了シ之ヲ還附スヘシ

第八條 本規程中課トアルハ知事官房、課長トアルハ知事官房首席屬ニ準用ス

○京都府統計講習會規程

(明治三十七年四月 京都府訓令第三十五號)

第一條 京都府統計事務ノ改良發達ヲ圖ル爲メ

四〇五



第一類警務 第一章處務、權限

每年一回統計講習會ヲ開ク

第二條 統計講習會ハ内務部長之ヲ掌理シ〔第一課長〕及統計係員會務ニ從事ス

第三條 統計講習會ノ講師ハ統計學者ヲ招聘シ又ハ府ノ官吏ヲシテ之ニ從事セシム

第四條 統計講習會ノ講習科目ハ左ノ如シ  
内外統計史 統計ノ理論及方法 人口統計 國勢調査法 經濟統計 教化統計 教育統計 犯罪統計 製表實地心得

第五條 統計講習會ノ講習生ハ府廳、警察署、郡市區役所、府市立學校（小學校ヲ除ク）圖書館、測候所、水産講習所、農事試驗場ニ於ケ

自殺者（用紙美濃以下同シ）

被殺傷

番號	月日	場所	原因	關係	未遂既遂ノ別	住所	職業	氏名	年齢

〔京都警〕

ル統計事務主任者ニ就キ選定ス

第六條 統計講習會ノ講習人員講習會場及講習期間ハ毎回別ニ之ヲ定ム

第七條 統計講習會ハ講習ノ終リニ於テ試験ヲ行ヒ其成績ニ依リ講習證書ヲ授與ス試験ノ成績ハ講習生ヲ派遣シタル各廳長ニ之ヲ報告ス

警察統計材料簿樣式

（明治四十四年十二月 訓第二六二號）

警察統計材料簿樣式別紙ノ通相定メ明治四十五年一月ヨリ實施ス

警察署

〔京都警〕

災害死傷

番號	月日	場所	種別	原因	未遂既遂ノ別	住所	職業	氏名	年齢

番號	月日	場所	種別	原因	住所	職業	氏名	年齢

山林田野火災

番號	月日	場所	原因	所有別	種別	焼失反別	被害價格	住所	所有者

未成年者喫煙禁止法違反者處分ノ結果

第一類警務 第一章處務、權限

第一類警務 第一章 處務、權限

番號	月日	場所	區分		說諭ニ止メタル者	住所	職業	氏名	年齢
			罰金又ハ科料	沒收器具					

本表說諭ニ止メタルモノハ警察署ニ於テナシタルモノノミヲ記入スヘシ  
遺失紛失物其他

番號	月日	種別	貨幣	古金銀穀		類衣		類反		物雜		品動	物	氏名	摘要
				個數	價格	個數	價格	個數	價格	個數	價格				

統計編纂上物品動物等名稱ノ判明ヲ要スルモノハ適宜摘要欄ニ記載シ置クヘシ  
鐵道事故

番號	月日時	場所	事故別	列車	原因	因	運轉手損害死傷及氏名	處分	顛末	備考

〔京都警〕

電車事故

番號	月日時	場所	事故別	電車號	原因	因	損害死傷及車掌運轉手氏名	處分	顛末	取扱	巡查

〔京都警〕

難船

番號	月日	船種別	遭難場所	遭難事由	乗組人員	船主ノ住	溺死	行方不明	負傷	上陸	摘要

不定期船及軍艦入出港

番號	月日	艦船種別	艦船名	噸	數	入港場所	事由	滯港	艦船長氏名	摘要

第一類警務 第一章 處務、權限

第一類警務 第一章處務、權限

檢證處分

番號	月日	事件別	場所	當該官氏名	被害者 住所氏名	備考

令狀執行

番號	執行年月日	令狀種類	罪名	執行巡查氏名	發付年月日	發付裁判所名	備考

警察醫事

番號	月日	種別	醫師名	摘要

棄兒

〔京都警〕 行旅病人死亡人

番號	發見月日	男女別	年齡	生死別	場所	發見者氏名	處分摘要

行旅病人死亡人

番號	月日	場所	病人死亡人別	同伴者員數	引渡先	原籍氏名	年齡

營業禁停止

番號	月日	營業別	禁停止別	停止期間	住所氏名	理由摘要

森林火入許可

第一類警務 第一章處務、權限

第一類警務 第一章處務、權限

番號	許可月日	場所	所段	別	火入理由	火入期日	住出願者 所氏名

火災 (半面ニ二件記入ノ見込)

番號	月日	火元住所氏名
出火時 鎮火ノ間	失火原因 放火不審火 雷火ノ別	燒失軒數 燒失建坪 燒失被害 所帶數 燒失被害概價 燒失被害概價 備考

燒失建物棟數其他内譯

建物 構造 別	火元		建物 構造 別	火元	
	全燒	延燒		全燒	延燒

(京都警)

一、直ニ消止ノ場合ハ備考欄ニ其旨記入スヘシ  
 二、燒失建物棟數内譯建物欄ニハ住宅土藏納屋官衙學校等ノ別ヲ記シ構造別ニハ土藏石藏煉瓦造木造瓦葺板葺茅葺ニ階建平屋等ノ別ヲ記入シ末項ニ全燒半燒棟數ノ合計ヲナスヘシ

(京精警)

月次	陸海軍衙	大審院	監獄	他府縣	管內	其他	市郡人民其他	計	口頭受 願一屆
一月									
二月									
合計									

文書發送件數

月次	陸海軍衙	大審院	監獄	他府縣	管內	其他	市郡人民其他	計
一月								

第一類警務 第一章處務、權限

第一類警務 第一章處務、權限

電話取扱件数	
合計	二月

月別	收			受			合計		發			送		合計	
	管	内	管	管	外	管	外	管	内	管	外	管	外		
警察電話															
公衆電話															
警察電話															
公衆電話															
合計															
二月															
一月															
合計															

止宿件数及人員

月別	管内		管外		外國人		合計	累計
	男	女	男	女	男	女		
件数								
二月								
一月								
合計								

〔京都警〕

〔京都警〕

國名	外國人止宿人員國名				合計
	男	女	男	女	
一月					
二月					
三月					
四月					
五月					
六月					
七月					
八月					
九月					
十月					
十一月					
十二月					
合計					

救		行政雜件ノ一		計
強盜ニ罹ラントセシ	護	強盜ニ罹ラントセシ	人	
一月				
二月				
三月				
四月				
五月				
六月				
七月				
八月				
九月				
十月				
十一月				
十二月				
合計				

第一類警務 第一章處務、權限





第一類警務第一章處務、權限

種別	月別	同			同			者 採		
		代價	販賣高	搾乳高	代價	販賣高	搾乳高	代價	販賣高	搾乳高
一月										
二月										
三月										
四月										
五月										
六月										
七月										
八月										
九月										
十月										
十一月										
十二月										
合計										

〔京都警〕

種別	月別	何々	傳染病家立番	傳染病患者死者 其他汚物護送	火藥護送	囚人護送	合計
一月							
二月							
三月							
四月							
五月							
六月							
七月							
八月							
九月							
十月							
十一月							
十二月							
合計							

〔京都警〕

第一類警務第一章處務、權限



累計

種別	月別	臨檢												
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
營業取締														
興行														
精神病者														
要視察人														
變死人														
盜難														
船舶検査														
汽鐘検査														
家宅捜査														

〔京都警〕

〔京都警〕

何々														
合計														
累計														

船舶検査汽鐘検査ノ如キハ船舶汽鐘ノ検査トシテ臨檢シタル度数ヲ記入スルモノニシテ乗船場取締汽鐘設置ノ製造場臨檢ノ如キ本項ニ計上スヘカラス

○警察統計材料日計表ノ件

(明治四十四年十二月)  
訓示第五六號

今般訓令第二六一號ヲ以テ警察統計材料簿様式相定メラレ候ニ付テハ之レカ正確ヲ期スル爲メ更ニ左式ノ日計表ヲ設ケ日々取扱タル件数ハ漏

第一類警務 第一章處務、權限

ナク記入シ一ヶ月ノ計數ヲ材料簿ニ計上セシメ尙進テ材料原數ノ採集果シテ適實ナリヤ或ハ統計上最モ忌ムヘキ空想推測等ノ數字ヲ描山スルモノナキヤ綿密監査ヲ遂ケ苟クモ之レニ類スルモノ若クハ平素取扱上誠意ヲ缺キ怠慢粗漏ノモノアルニ於テハ嚴重戒飭ヲ加ヘ一般部下ヲシテ









第一類警務 第一章 處務、權限

同	應署、役所、役場水火災	同
同	司法及警察	
即	聯合府縣警察會議閉議事ノ要項	警察部
同	警察署分署ノ移轉	同
同	警察區畫變更	同
同	出火、通常民家ハ五戸以上但死傷アルカ又ハ官舎學校病院等ハ戸數ニ拘ハラズ	同
同	消防組ニ關スル重要ノ事項	同
年	警察事故	同
同	警察上ノ景況	同
衛生		
即	傳染病發熄	警察部
周	傳染病患者及死亡	同

〔京都警〕

即	製氷雪及飲水試驗	同
同	鑛泉試驗	同
同	地方衛生會閉議事要領及委員	同
同	病院ノ重ナル施術	同
同	公私立病院ノ開廢	同
同	奇病	同
同	中毒	同
同	清潔法	同
同	避病院ノ開閉	同
同	賣藥禁止	同
同	飲食物溝渠家屋等ニ係ル衛生事項	同
年	種痘	同

〔京都警〕

第一類警務 第一章 處務、權限

年	報	公立病院及驅黴院患者	同
同	同	醫師產婆針灸術業者ノ數	同
同	同	傳染病及地方病患者死者ノ數	同
月	報	牛羊屠殺及牛羊乳搾高同營業人	同
通 運			
即	報	難破船	警 察 部
雜			
即	報	風水害	警 察 部
同	同	落雷	同
同	同	土地壞裂並山崩	同
同	同	早魃	同

〔京都警〕

○警察報告例 (明治二十五年十二月)

〔警本第一八四號〕

警察報告例別紙ノ通更正ス

但シ暴風雨強震等アリタルトキ又ハ重大ナル

モノハ即時電話又ハ電信ヲ以テ報告ス可シ

凡 例

第一條 報告ヲ別テ左ノ三種トス

即 報

月 報

年 報

第二條 即報ハ即時、月報ハ毎月、年報ハ毎年

間取扱ヒタル事項ヲ報告スヘシ

第三條 年報ハ總テ例目ニ指定シタル日マテニ

發送スヘシ

但例目中報告事故無之モノアルトキハ其旨

報告スヘシ

第四條 表中ノ員數ハ數字ヲ用ヒ金員ハ厘位、

數量ハ合位、反別ハ歩位、量目ハ匁位ニ止メ

千位、百萬圓位ニ「」ヲ付シ其他ハ傍ニ町貫

等ノ文字ヲ記シ雜品ノ員數ハ一束一把一樽一

第一類警務 第一章 處務 權限

〔京都警〕

第一條 一俵一箱一籠等ヲ各一箇トシ又細小ナルモ

ノハ一種ヲ一箇トナシ書類ハ幾種アルモ一箇

ト記載スヘシ

第五條 報告表ハ各別ニ統合スルモノナルヲ以

テ二表聯載スヘカラス

第六條 様式ニハ横線ノミヲ示スト雖進達ノ表

ニハ縦線ヲ加ヘ且事項ナキ欄ニハ縦線ヲ填寫

スヘシ

第七條 報告中前期報告ニ對シ著シキ増減アル

モノハ表尾ニ其事由ヲ掲載スヘシ

第八條 報告ハ添書ヲ要セス表題ノ下又ハ紙尾

等一表毎ニ適宜署名スヘシ

但年報ハ日録ヲ附スヘシ

第九條 今後更ニ發スル所ノ達訓令等ニテ期限

ヲ定メ報告ヲ要スル旨ヲ記載シタルトキハ其

報告ノ種類ニヨリ此例目中ニ追加シタルモノ

ト看做スヘシ

警察報告例目

即 報

第一 變死及負傷 (二十三年十二月警本第

第一類 警務 第一章 處務、權限

- 第一類 警務 第一章 處務、權限
- 四六四號
- 第二 棄兒及遺棄ノ死屍(第一表)
- 第三 火災(二十三年十二月警本第四六四號)
- 第四 田野山林ノ火災
- 第五 天災地變(第二表)
- 第六 難船(第三表)
- 第七 強盜及價格百圓以上ノ盜難(第四表)
- 第八 重罪犯及其犯人竝價格百圓以上ノ賊盜犯捕獲(第五表)
- 第九 警察上拔群ノ功勞者又ハ負傷者ノ事實
- 第十 傳染病(十四年九月甲第一七六號)
- 第十一 官吏ノ犯罪(十七年四月本甲第八三號)
- 第十二 郵便事務ニ從事スル者ノ犯罪(十七年十二月本甲第二六二號)
- 第十三 神職僧侶ノ犯罪(二十二年三月警本第一七號)
- 第十四 警察官非常召集及其演習(二十三年

- 六月警本第二〇〇號)
- 第十五 皇族及大臣ノ護衛(同年十二月警本第四六四號)
- 第十六 本邦沿岸ニ於ケル艦船ノ危難(二十四年一月警本第一〇號)
- 第十七 官文書官印又ハ官ノ檢印アル物品ノ盜難又ハ紛失遺失
- 第十八 銃砲火藥類ノ盜難又ハ紛失遺失
- 第十九 其他報告ノ必要ト認ムル件
- 第一 監督巡視回数月報(三十年十月訓令二〇三號)
- 第二 盜難及其發見(大正五年一月警第一四六一號)
- 第三 犯罪件數及檢舉人員(四十二年三月訓第五號)
- 第四 拘留科料處分ノ結果報告方ノ件(四十二年一月訓令第二號)
- 第一 自殺所爲別(四十二年三月訓第五號)

〔京都警〕

- 一月二十日
- 第二 被殺傷原由別(同上) 同上
- 第三 災害死傷原由別(同上) 同上
- 第四 棄兒年齡別(同上) 同上
- 第五 行政雜件(同上) 同上
- 第六 自殺者ノ住所及緣事上ノ關係(同上) 同上
- 第七 假出獄及假出場(同上) 同上
- 第八 自殺者ノ年齡及因由(同上) 同上
- 第九 火災(第十五表) 同上
- 第十 火災原因(二十三年十二月警本第四六四號) 同上
- 第十一 山林田野ノ火災(第十六表) 同上
- 第十二 難船(第十七表) 同上
- 第十三 止宿人員數(二十三年十二月警本第四六四號) 同上
- 第十四 部内景況(二十九年一月訓示第一一號) 同上

第一類 警務 第一章 處務、權限

- 第十五 戶口統計表 同上
- 第十六 巡查受持管區(第十八表) 同上
- 第十七 外國人現住戶口(第十九表) 同上
- 第十八 電話度數 同上
- 第十九 警察醫事(第二十三表) 同上
- 第二十 警護及臨檢(第二十六表) 同上
- 第二十一 船舶出入(二十三年十二月警本第四六四號) 同上
- 第二十二 盜難物(第二十七表) 同上
- 第二十三 盜難物發見(第二十八表) 同上
- 第二十四 遺失及紛失物捨置品逸走物埋藏物(第二十九表) 同上
- 第二十五 告訴告發(第三十表) 同上
- 第二十六 令狀執行(第三十一表) 同上
- 第二十七 檢事ヘ送致セシ犯罪人員數(第三十二表) 同上



- 第一類 警務 第一章 處務、權限
- 第二十八 警察犯即決事件年表(四十一年十月訓第二一七號) 同 上
- 第二十九 留置人員數(第三十三表) 同 上
- 第三十 興行ノ種類及其度數(第三十四表) 同 上
- 第三十一 警察取締ノ營業者(第三十五表) 同 上
- 第三十二 製造場(第三十六表) 同 上
- 第三十三 營業人力車馬車及通船(第三十七表) 同 上
- 第三十四 營業停止及禁止(第三十八表) 同 上
- 第三十五 貸座敷娼妓員數(二十三年十二月警本第四六四號) 同 上
- 第三十六 遊客數及費消金高(第三十九表) 同 上
- 第三十七 一般人民ノ銃砲賣買讓渡(十九年七月本甲第一七九號) 同 上
- 第三十八 免許商ノ銃砲賣買(同) 同 上
- 第三十九 免許商ノ火藥類賣買(同) 同 上
- 第四十 外國人ト賣買シタル銃砲火藥類ノ員數(同) 同 上
- 第四十一 刑ノ執行猶豫ヲ受ケタル人員(第四十表)(四二年七月警第一五〇八號) 同 上
- 第四十二 行政執行處分調(第四十一表) 同 上
- 第四十三 質屋取締法及古物商取締法ニ依ル徵收物件調(第四十二表) 同 上
- 第四十四 拘留科料刑即決調(第四十三表) 同 上
- 第四十五 文書收受及發送件數(第四十四表) 同 上
- 第四十六 未成年者喫烟禁止(第四十五表) 同 上
- 第四十七 密賣淫人員及健康診斷結果取調表(第四十六表) 同 上

四三八

一月十日

一月二十日

一月三十一日

一月二十日

一月十日

一月二十日

〔京都警〕

〔京都警〕

第一表

棄兒(又ハ)遺棄ノ死屍		月日時	場所	生死及性
年	景	狀	死	男又ハ女
齡	健康、瀕死、何々	嬰死、死後ノ經過又ハ腐爛等	生	男又ハ女



第一類警務 第一章 處務、權限

街	燈		煙
	公設	私設	
神社境内ニアル神官ノ家宅ハ通常家屋ヘ人民ノ寺院ニ借地住スル者アルモ寺院ヘ民家ヲ官廳トスレハ官廳ヘ記スル等ハ之ヲ除ク可シ			
橋梁ハ農業ノ爲メ架スルモノ等ハ之ヲ掲ク可シ			
樹木ノ顛倒ハ周圍三尺以上ノモノヲ掲ク可シ			
船舶ノ被害並ニ死者ハ各報告ノ例規アルモノトス			
本表ハ變災ノ概況ヲ急報スルノ外變災ヨリ一週内ニ報告ス可シ			

川	人
量水	
名	
常水	
増水最高	

〔京都警〕

第三表

月日時	場所	原因	船舶種類	總噸數又ハ積石	船舶名	遭難及救護ノ景況	死者及行方知レサル者ノ住所氏名	沈没シタルトキハ其地位及狀況ノ詳細
	何郡村字何々何里沖合又	颶風又ハ何船ニ衝突等	汽船帆和船(航海船、小)	西船、浮漁船等、積石數			死者、負傷者又ハ行方知レサル者ヲ區別ス可シ	
	船長ノ氏名	乗組人員	乗客人員	定繁場	寄著シタル場			

〔京都警〕

第一類警務 第一章 處務、權限

第一類警務 第一章處務、權限  
第四表

月日時	場所	被害者ノ住所 同氏名 殺サレシ者ノ 住所氏名年齢 傷セラレシ者 ノ住所氏名年 齡	捕拿犯人ノ住 所氏名	捕獲者ノ住所 身分氏名	被害ノ景況	強盜又ハ價格百圓以上ノ盜難(窃盜、掏摸、詐欺)何々	盜難物ノ種類	個數又ハ數量	價格
	區郡町村字何某号宅又ハ道路等	危篤、生命ニ害ナキ者、又ハ輕傷ヲ區別スヘシ			刀劍又ハ短銃ヲ以テ脅迫シ又ハ被害者外何名ヲ縛シ又ハ何々土藏ヲ切破リ、 家宅ニ忍入り又ハ田野ノ產物ヲ盜マレタル等	盜難物ノ種類	穀類 衣類 反物 貨物 雜品		

〔京都警〕

第五表

月日時	場所	罪名
		重罪犯(アリタ)(又ハ)重罪犯及價格百圓以上ノ盜賊犯捕獲

一現場捕獲ノ盜賊犯ハ本表ニ記入スヘカラス

犯罪ノ概狀  
何貨幣偽造又ハ變造行使又ハ何某ヲ謀殺シ又ハ何某方ヨリ何百圓以上ノ物品ヲ盜取シタル等又重罪犯ノ捕獲ニシテ十人以上共謀シタルモノト認ムルトキハ其旨ヲ記載スヘシ

〔京都警〕

第一類警務 第一章處務、權限

第十表 第一類警務 第一章處務、權限

明治 年 月 日		何警察署			
名稱	職名	署長		部	
		定期回数	實際回数	定期回数	實際回数
署所在地					
何々巡查派出所					
何々巡查駐在所					
、	、				
、	、				
、	、				
、	、				
合計					

備考 (署長)(警部)(巡查部長)(二名以上ノ署ニアリテハノ中一名ハ)何日間「病氣」(賜暇)  
(出張)(本月何日著任)(本月何日拜命)何々ニ付定規ノ巡視ヲ缺ク(回数ハ全部一周ヲ  
云フ)一回ニ充ツサルモノハ其度數ヲ朱ニテ傍記スヘシ)

〔京都警〕

〔京都警〕

發送期日翌月十日

盜難及其發見		大正 年 月		警察署名	
種別	拾圓未満	拾圓以上		合計	
		發見	被害	發見	被害
強盜ニ遭ヒシ	家				
竊盜ニ遭ヒシ	家				
拘摸ニ遭ヒシ	人				
詐欺恐喝ニ遭ヒシ	人				
財物ヲ偽造又ハ變造ノ貨ヲ受取	人				
合計					

第一類警務 第一章處務、權限

第一類警務 第一章處務、權限

未 遂	

- 一 強盜ニ遭ヒシ家ノ欄ニハ住家、船ノ欄ニハ航行又ハ碇泊中ニ在テ強盜ニ遭ヒタル數ヲ記入シ、人ノ欄ニハ途上等ニテ財物ヲ強奪セラレシ人即チ追刺ニ遭ヒシ數ヲ記入スヘシ
- 二 竊盜ニ遭ヒシ家、屋内ノ欄ニハ住家、屋外ノ欄ニハ田野山林牧場等ノ產物其他屋外ニ置キタル財物ヲ盜マレシ數ヲ記シ船ノ欄ニハ船中ニ於テ財物ヲ盜マレシ數ヲ記入シ人ノ欄ニハ店頭、停車場、汽車内、又ハ湯屋等ニテ財物ヲ盜マレシ人ヲ記入スヘシ
- 三 拘摸ニ遭ヒシ人ノ欄ニハ何レノ場所ヲ問ハス財物ヲ拘取セラレシ數ヲ記入スヘシ
- 四 財物ヲ横領セラレシ人ノ欄ニハ刑法第二百五十二條第二百五十三條等ニ於ケル事柄ニシテ横領ノ所爲ニ係ル事實ヲ記入スヘシ
- 五 盜難ハ其署所轄内ニ於ケル被害件數ヲ揭ケ發見ハ所轄内ノ被害ナルト所轄外又ハ管外ノ被害タルトヲ問ハス其署ノ手ニテ發見シタル兇行度數ヲ揭ケ又所轄内ニ於ケル被害ト雖モ他署ニテ檢舉シタルモノハ發見欄ニ記入スヘカラス
- 六 贓品ノ全部ヲ發見シタルトキト雖モ犯人ヲ檢舉セサルトキハ發見欄ニ記入スヘカラス
- 七 前月以前ノ犯罪ヲ檢舉シタルトキハ發見シタル月ニ計上スヘシ

〔京都警〕

- 八 森林法違犯中樹木盜伐又ハ森林ノ產物竊取等ニ係ルモノハ被害及發見トモ屋外欄ニ記入スヘシ
- 九 銀行又ハ郵便局等ヨリ偽造變造ノ貨幣發見ノ旨届出テタルトキノ如キハ偽造又ハ變造ノ貨幣ヲ受取り届出シ人ノ欄ニ記入スヘシ
- 十 外國人ニ係ル事實アルトキハ本表ニ準シ國籍別ニ調製スヘシ

〔京都警〕

發送期日翌月十日

報 月	罪	狀	犯罪件數及檢舉人員 (明治何年何月)								警察署名			
			犯罪檢舉件數	現行犯	准現行犯	非現行犯	自首		合計					
	逃 走 罪			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
	騷 擾 罪													
	放 火 罪 (次ノ二項ヲ除ク)													
	火ヲ放テ人ノ住居建造物汽車電車等ヲ燒燬シタル者													
	瓦斯電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流失セシメ又遮斷シ因テ人ヲ死ニ致ス													

第一類警務 第一章處務、權限

失火ノ罪  
 往來ヲ妨害スル罪(次項ヲ除ク)  
 前項ノ罪ヲ犯シ人ヲ死ニ致ス  
 飲料水ニ關スル罪(次項ヲ除ク)  
 前項ノ罪ヲ犯シ人ヲ死ニ致ス  
 遺貨偽造ノ罪  
 有價證券偽造ノ罪  
 猥褻姦淫罪(次ノ四項ヲ除ク)  
 暴行脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫ス  
 十三歳未満ノ婦女ヲ姦淫ス  
 心神喪失シ若シクハ抗拒不能ニシメハ心神喪失ヲシメ若シクハ抗拒不能ナラシメ姦淫ス  
 姦淫人ヲ死ニ致ス

〔京都警〕

刑 法

賭博及ヒ富籤ニ關スル罪  
 瀆職ノ罪(次項ヲ除ク)  
 前項ノ罪ヲ犯シ人ヲ死ニ致ス  
 殺人ノ罪(次ノ二項ヲ除ク)  
 人ヲ殺ス  
 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺ス  
 傷害ノ罪(次項ヲ除ク)  
 前項ノ罪ヲ犯シ人ヲ死ニ致ス  
 過失傷害ノ罪(次項ヲ除ク)  
 前項ノ罪ヲ犯シ人ヲ死ニ致ス  
 墮胎ノ罪(次項ヲ除ク)  
 前項ノ罪ヲ犯シ人ヲ死ニ致ス  
 遺棄ノ罪(次項ヲ除ク)

〔京都警〕

第一類警務 第一章處務、權限

第一類警務 第一章處務、權限

前項ノ罪ヲ犯シ人ヲ死ニ致ス  
 逮捕及監禁ノ罪(次ノ項ヲ除ク)  
 前項ノ罪ヲ犯シ人ヲ死ニ致ス  
 略取及誘拐ノ罪(次ノ二項ヲ除ク)  
 帝國外ニ移送ノ目的ヲ以テ人ヲ略取誘拐ス  
 同上ノ目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若シクハ被賣者ヲ帝國外ニ移送ス  
 竊ノ罪  
 強盜ノ罪(次ノ四項ヲ除ク)  
 強盜人ヲ傷ス  
 強盜人ヲ死ニ致ス  
 強盜婦女ヲ強姦ス  
 強盜婦女ヲ強姦死ニ致ス

〔京都警〕

詐欺及恐喝ノ罪  
 横領ノ罪  
 毀棄及隠匿ノ罪(次ノ項ヲ除ク)  
 前項ノ罪ヲ犯シ人ヲ死ニ致ス  
 其  
 陸軍刑法  
 海軍刑法  
 刑法以外罰金以上ノ諸犯則  
 森林法(竊盜)  
 何何何  
 何何何  
 何何何  
 計  
 (刑犯法及諸則)

〔京都警〕

第一類警務 第一章處務、權限







第一類警務 第一章處務、權限  
 一棄テアリシ幼兒ニシテ他殺ノ痕跡アルトキハ棄兒年齢別表ニ記入セスシテ本表中相當ノ項ヘ記入ス可シ

發送期日一月二十日

原 因	死		傷	
	男	女	男	女
洪水				
海嘯				
難船				
火災				
震災				
積雪ニ壓セラレ又ハ凍テ				
土石崩壊				
樹木顛倒又ハ潰屋等ニテ				
計				
計				

災害死傷原由別 (明治何年)

警察署名

〔京都警〕

第一類警務 第一章處務、權限	其 他	途 中 發 病 シ テ	過 失 ニ 因 リ	鑛 業 上		犬 熊 毒 蛇	大 熊 毒 蛇
				坑 外	坑 内		
			汽 車 ニ テ	瓦 斯 爆 發 シ	何 々		
			電 車 ニ テ	火 藥 類 爆 發	何 々		
			自 働 車 ニ テ	何 々	何 々		
			其 他	何 々	何 々		
				何 々	何 々		
				何 々	何 々		
				何 々	何 々		
				何 々	何 々		
				何 々	何 々		
				何 々	何 々		

〔京都警〕

第一類警務 第一章處務、權限

不詳	計	
合	計	

一警察上ニ係ル者モ本表ニ記入ス可シ  
一本表ニハ天災又ハ自己ノ過失等意外ノ出来事ニ起因シテ死傷ニ至リタルモノヲ記入ス可シ  
一死セントセシ欄ニハ救護ノ效ニ因リ死傷ヲ免レタルモノヲ記入ス可シ

發送期日一月二十日

棄兒年齢別 (明治何年)

警察署名

報年	年	齡		計
		男	女	
一月以上三月未満		生存シアリシ者	死亡シアリシ者	
三月以上六月未満		男	男	
六月以上一年未満		女	女	
一年以上二年未満		男	男	
		女	女	

[京都警]

二年以上三年未満  
三年以上  
不詳

合	計

死屍、死胎ヲ遺棄シタルモノハ本表ニ記入スヘカラス

發送期日一月二十日

[京都警]

報年			事故名	件數
強盗ニ罹ラントセシ	窃盗ニ罹ラントセシ	拘獲ニ罹ラントセシ		

行政雜件 (明治何年)

警察署名

第一類警務 第一章處務、權限

第一類警務 第一章處務、權限

安寧	爆炸物及銃砲火藥類	煙火打揚	威銃	度量衡	出版物	土木工事入札	土木工事ノ鑛業等ノ勞働者	寄附金募集	路傍廣告	幼者養育者	職工募集者	工場死者	害蟲驅除
通貨及證券模造	狩獵	森林原野堤防	暴行者、喧嘩口論取鎮	舉動怪シキ者取糺計	風俗	貸座敷敷	娼妓及藝妓	藝妓娼妓紹介業	形像	劇場興行	觀物場遊技場	無免許托鉢	
富籤類似	未成年者喫烟計	管業	石電氣鐵道油	電氣燈	其他電氣事業	製命保險業者	講義會	案內業	案內業	古物商人			

〔京都警〕

質屋	宿屋	雇屋	湯屋	理髮業	彫刻業	運送業	同業	料理店待合茶屋席	雜貨店茶屋	牛馬商業	交通	鐵道
人口入	人力及橋	自轉車	自轉車	乘馬	河港汽船	和船及通船	船宿屋ノ給付	道路其他教示	衛生	傳染病豫防	汽船檢疫	道路
汚物掃除法	尿運搬	鼯鼠捕	私立病院及公私立精神病院	醫師及獸醫	產婆及看護婦	鍼灸術業	按摩按腹	入齒々拔、口中治療、接骨	藥劑師、藥種商、製藥者、賣藥	獸畜馬疫	肉販賣	獸畜馬疫

〔京都警〕

第一類警務 第一章處務、權限

第一類警務 第一章處務、權限

飲食物器具	1 邸宅、建造物、船舶ニ潛伏	8 申込ナキ出版物配付又ハ廣告料ヲ求ム
飲食物其他物品取締	2 密淫賣又ハ媒合容止	9 祭事、祝儀又ハ其行列ニ惡戯妨害
飲食物防腐劑	3 住居、生業ナク徘徊ス	10 老幼、不具、病者、死屍、死胎ヲ申告ス死屍、死胎ノ現場ヲ變更ス
有害性著色料	4 面會強請強談威迫	11 交通ノ場所ニ喧噪、横臥、泥酔、徘徊
清涼飲料水	二條	12 車馬、舟筏其他ノ物件ヲ置キ又ハ交通妨害
人工甘味質	1 合力、強請、物品押賣	13 危險場所ニ點燈、豫防ノ裝置ヲナサス
氷雪營業	2 乞丐ヲ爲シ又ハ爲サシム	14 劇場、寄席、公衆會同ノ場所妨害
牛乳營業	3 寄附強請、強テ物品入場券等配付	15 雜沓ノ場所ニ混雜ヲ増ス
警察官署へ死亡者届出	4 入札妨害、落札人ニ配當強請	16 流言浮説又ハ虛報ヲ爲ス
肥料及化學場	5 人ノ業務ニ對シ惡戯妨害	17 吉凶禍福ヲ説キ、祈禱
家禽場	6 新聞雜誌其他誇大虛偽ノ廣告	
牛馬宿及家畜市場	7 強テ新聞雜誌等ノ購讀廣告申込	
計		
省令警察犯		
一條		

〔京都警〕

符呪守札類ヲ授與シ人ヲ惑ハス	18 病者ニ禁厭、祈禱、符呪、神符、神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ク	19 濫ニ催眠術ヲ施ス	20 官職位記等ヲ詐リ服飾徽章等ヲ僭用ス	21 官署ニ不實ノ申述ヲ爲シ義務者申述ヲ背セス	22 淨水汚穢、使用、妨害水路障礙	23 河川溝渠、下水ノ疏通妨害	24 自己又ハ他人ニ刺文ス	25 出入禁止ノ場所ニ出入ス	26 榜示ノ禁條ヲ犯シ榜標ヲ汚漬撤去ス	27 水火災其他ノ場所ニ立
入り又ハ援助ノ求ニ應セス	28 人ノ標燈又ハ公衆用ノ常燈ヲ消ス	29 他人ノ菜果、花卉ヲ採折ス	30 勞役者ノ自由妨害、取扱苛酷	31 他人ノ身邊ニ立塞リ、追隨ス	32 物件ヲ放射シテ人ノ身體物件ニ害ヲ及ホス	33 神祠、佛堂其他ヲ汚穢ス	34 死屍、死胎隱匿、又ハ他物ニ擬裝	35 飲食物ニ他物ヲ混ス	36 不熟、腐敗ノ飲食物ヲ營利ニ使用ス	
37 舟筏又ハ獸類ヲ解放ス	1 三條	2 祖榻裸裎臀股ヲ露シ其他醜態	3 街路ニ尿尿シ尿尿セシム	4 濫ニ銃砲、火藥其他劇發物ヲ玩フ	5 家屋其他ノ近傍、山野ニテ濫ニ焚火ス	6 石灰其他自然發火物ノ取扱忽ニス	7 醫師、產婆故ナク招ニ應セス	8 官公署ノ召喚ニ應セス	9 飲食物露陳	10 禽獸ノ死屍、汚穢物棄

〔京都警〕

第一類警務 第一章處務、權限

第一類警務 第一章處務、權限

11 精神病者ヲ徘徊セシム	1 名譽ニ關シ、出金ヲ促シ又ハ收受ス	5 興行場ニ濫リニ入ル
12 獸類ヲ嚇シ驚逸セシム	2 紛議、訴訟其他仲裁等ヲ爲シ利ヲ圖ル	6 道路堤防河縁等使用
13 狂犬猛獸等繫鎖ヲ怠ル	3 病死ノ禽獸生河豚販賣	7 濫ニ橋錢渡錢通行錢ヲ取ル
14 動物 虐 待	4 鬭争ノ目的ニテ兇器携帶	8 疏水、鴨川、高瀬川ニテ汚物ヲ洗フ
15 家屋工作物汚穢又ハ貼紙シ標札等撤去	5 條	9 家 禽 放 飼
16 橋梁堤防損壞ノ虞アル所ニ舟筏ヲ繫ク	1 榜、標、杭等埋没毀損又ハ獸類舟筏ヲ繫ク	計
17 田園通行、牛馬諸車牽入	2 發火、爆發力ノ強キ玩弄品製造販賣	其 他
計	3 古 墳 發 掘	合 計
京都府警察犯	4 住所氏名年齢詐稱投宿乗船	計

一本表諸取締規則及警察犯トモ執レモ文字省略セルヲ以テ取扱者ハ事故名ノ文字ニ拘泥セス道路取締規則ニ關スル件ハ總テ道路ノ項ニ古物商取締法、古物商取締法細則及古物商取締法施行規則ニ關スルモノハ悉ク古物商ノ項ニ記入シ警察犯モ亦各本條ニ據リ取扱ヒタル件數ヲ記入スヘシ

〔京都警〕

救護 盜難未遂件數ハ月報ニ於ケル盜難及其發見表ニ計上方規定アリト雖モ之ヲ救護シタルトキハ強盜、竊盜、拘摸、騙取拐帶其他詐欺取財ニ遇ハントセシ人ノ欄ニ其件數ヲ記入スヘシ

携帶品、乾物、戸締注意ノ各欄ニハ注意ヲ與ヘタル件數ヲ記入スヘク物品ノ點數等記入スヘカラス盜難品、拾置品逸走物發見ハ前項同様發見シタル度數ヲ記入スヘク發見シタル物品ノ員數等記入スヘカラス

安寧 爆發物及銃砲火藥類トアル項ニハ其取扱者又ハ運搬者ニ對シ注意若クハ説諭ヲ加ヘ又ハ保護ヲ與ヘタル件數ヲ記シ物件ノ點數等記入スヘキモノニアラス本表件數欄ニハ前項同様總テ行政上ニ係ル件數ヲ掲ケ執レノ項ニ於テモ物件ノ員數等記入スヘカラス最尾ニ於ケル其他ノ項ニ記入ノ件數ハ各署其取扱ヲ異ニシ統一期シ難キニ付之ヲ削除ス本表列記以外ノ事項發生ノトキハ其件名ヲ追加(事故ナキ項ヲ利用シテ可ナリ)スヘシ

〔京都警〕

總送期日一月二十日

年	種 別	自殺者ノ住所及縁事上ノ關係 (明治何年)				警察署名
		市	町	村	不詳	
未 婚 者	有 配 偶 者	男	女	男	女	合 計
		男	女	男	女	

第一類警務 第一章處務、權限

第一類警務 第一章 處務、權限

合 計	不詳	離 婚 者	報 喪 配 偶 者

一本表ハ自殺所爲別、自殺者ノ年齢及因由ノ員數ト符合スヘキモノトス

發送期日一月二十日

警察署名

種 別	假出獄及假出場 (明治何年)		新 刑 法 ニ 據 リ 處 斷
	男	女	
前年ヨリ越員	新ニ假出獄又ハ假 出場ヲ許サレタル 者		拘留又ハ勞役留置
	男	女	
本年間 他ノ廳府縣ヨリ入	何 計		何 計
	男	女	
	男	女	
	男	女	
	男	女	
	男	女	
	男	女	
	男	女	
	男	女	

報 年

年 末 現 員	合 計	何 計	住 セ シ 者 々	滿 期	他ノ廳府縣へ出住 セシ者	假出獄又ハ假出場 ノ處分取消	逃 亡 者	死 亡 者	何 々	計

第一類警務 第一章 處務、權限



第一類警務 第一章處務、權限

- 一 帝國外ニ旅行ヲ許可セラレタル者ハ年末現在員ノ内懲役幾人何々幾人ト男女ニ區別帝國外旅行ノ旨表尾ニ記入スヘシ
- 一 項目外ニ記載スヘキ事實ノ生シタルトキハ項目ヲ設ケ記入スヘシ
- 一 舊刑法ニ據リ處斷セラレタルモノハ拘留又ハ勞役留置ノ下ニ欄ヲ設ケ刑名ヲ區別シ男女別ニ記入スヘシ

發送期日一月二十日

警察署名

原由	自殺者ノ年齢及因由		(明治何年)		警察署名				
	男	女	男	女					
病苦ニ因リ 活計ノ困窮又ハ薄命ヲ歎テ互ニ情死ヲ謀リテ 痴情又ハ嫉妬ニ因リ 前非ヲ悔ヒ又ハ慚愧ニ因リ	十六年未滿	十六年未滿	十六年以上二十年未滿	二十年以上三十年未滿	三十年以上四十年未滿	四十年以上五十年未滿	五十年以上	不詳	合計

〔京都警〕

〔京都警〕

報	年
家庭又ハ親族ノ不和ニ因リ	罪ノ發覺ヲ懼レ難キ爲メ
將來ノ事ヲ苦慮シテ	商業等ノ爲メ損失シ又ハ負債償却ニ困ミテ
主又ハ父兄等ノ懲戒又ハ譴責ニ因リ	夫又ハ子等ノ不行狀ヲ歎テ
離縁ヲ悲ミテ	私通妊娠ヲ憂テ
結婚ヲ忌ミテ	

第一類警務 第一章處務、權限

第一類警務 第一章 處務、權限

失戀ニ因リ  
身體ノ不具ナルヲ歎テ  
鬱憂ニ因リ  
親又ハハ夫妻等ノ死去ヲ歎テ  
親又ハハ夫妻等ノ病氣ヲ苦ニシテ  
淫逸放蕩ノ末老衰身ノ不自由ヲ苦慮シテ  
厭世ニ因リ  
宗教ノ迷信ニ因リ  
兵役ニ服從セラレサルヲ歎テ

〔京都警〕

テ	兵役ヲ忌避シ	
テ	精神錯亂シテ	
	何々ニ因リ	
	何々ニ因リ	
	不詳	
合	計	

一本表ハ自殺者ノ月別及所爲表ノ自數ト符合スヘキモノトス  
一輕々シク精神錯亂又ハ厭世ニ因リノ欄ニ記入セス成ルヘク自殺ノ念慮ヲ起シタル因由ヲ推知シ之レヲ記載スヘシ

第十五表ノ一

報告期日 一月二十日

〔京者警〕

火災ノ一	年度	何年	署名
失	延燒 セシ 度數	放	不 署 名
火	延燒 セシ 度數	火	火
放	延燒 セシ 度數	雷	不 署 名
火	延燒 セシ 度數	火	火
署	延燒 セシ 度數	不	不 署 名
名	延燒 セシ 度數	署	署 名

第一類警務 第一章 處務、權限

四七三

第一類警務 第一章處務、權限

		報 年											
		九	八	七	六	五	四	三	二	一			
		月	月	月	月	月	月	月	月	月			
火災ノ二 戸數	失 家	數戸燒全											
		數戸燒半											
	戸止ニ直												
	數ノ消子												
	坪	建											
	數棟燒全												
	數棟燒半												
	棟止ニ直												
	數ノ消子												
	坪	建											
	數戸燒全												
	數戸燒半												
戸止ニ直													
數ノ消子													
坪	建												
數棟燒全													
數棟燒半													
棟止ニ直													
數ノ消子													
坪	建												
數戸燒全													
數戸燒半													
戸止ニ直													
數ノ消子													
坪	建												
數棟燒全													
數棟燒半													
棟止ニ直													
數ノ消子													
坪	建												
數戸燒全													
數戸燒半													
戸止ニ直													
數ノ消子													
坪	建												
數棟燒全													
數棟燒半													
棟止ニ直													
數ノ消子													
坪	建												
數戸燒全													
數戸燒半													
戸止ニ直													
數ノ消子													
坪	建												
數棟燒全													
數棟燒半													
棟止ニ直													
數ノ消子													
坪	建												
數戸燒全													
數戸燒半													
戸止ニ直													
數ノ消子													
坪	建												
數棟燒全													
數棟燒半													
棟止ニ直													
數ノ消子													
坪	建												
數戸燒全													
數戸燒半													
戸止ニ直													
數ノ消子													
坪	建												
數棟燒全													
數棟燒半													
棟止ニ直													
數ノ消子													
坪	建												

火災ノ二 戸數

何年

署

名

〔京和警〕

第十五表ノ二

報告期日 一月二十日  
〔京都警〕

		報 年													
		十	十	六	九	八	七	六	五	四	三	二	一		
		月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月		
合 計															

第一類警務 第一章處務、權限



第一數警務 第一章 處務、權限  
第十六表

月次	場所	原因	所有別	種別	度數	反別	被害概價
一月	區郡町村字	失火又ハ	官有又ハ	林山、柴山			
二月		放火	民有	林山、田、烟			
三月							
四月							
五月							
六月							
七月							
八月							
九月							
十月							
合計							

〔京都警〕

第十七表

月次	遭難ノ場所	遭難ノ事由	船種	船數	乗組人員	溺死	負傷	行方其他
一月	何郡何村字何々沖	暴風激浪	日本形何					
二月	何郡何港字何々	暴風ノ爲	石積					
三月		暴風ノ爲	船					
四月		暴風ノ爲	船					
五月		暴風ノ爲	船					
六月		暴風ノ爲	船					
合計								

〔京都警〕

第一類警務 第一章 處務、權限

第一類警務 第一章 處務、權限

合計	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月

第十八表

巡查受持管區		全部改正	
派出所及駐在所名	管區數	配置巡查	戸數
			前年
			本年
			増減
			前年
			本年
			増減

第十九表

増加ノ數ハ黒書減少ノ數ハ朱記スヘシ

合計																				

一國名ノ欄ニハ家主原住ノ國名ヲ掲クルモノトス  
第一類警務 第一章 處務權限

外國人現住戸口		明治何年	
國名	職業戸數	男	女
合計			

第一類警務 第一章 處務、權限

第二十二表

電話取扱件數		内		外		合計
受	發	警察電話	公衆電話	警察電話	公衆電話	
合計						

明治何年

記載例

本表ハ電話用紙又ハ電話簿等ニ記載シタルモノハ勿論口頭ニ止ルモノト雖モ電話取扱ニ係ルモノハ總テ之ヲ記載スヘシ  
管内所在ノ官衙ト雖モ當府所管ニアラサルモノハ管外ノ欄ニ記入スヘシ  
一事件ナリト雖モ數ヶ所ニ向テ發シタルモノハ數件ト計上スヘシ  
中繼ハ受信及發信トモ各一件ト計上スヘシ但管内官署ノ中繼ニ係ルモ發信者及受信者ノ管外ナルトキハ管外受一管外發一ト記入スルコト

第二十三表

警察醫事

明治何年

〔京都警〕

〔京都警〕

種別	件數
巡查檢病	
變死	
負傷	
解部	
留置	
傳置	
何々	
合計	

本表ハ警察醫ノ取扱ヒタル數件ヲ掲クヘキモノナルモ警察醫ノ設ケナキ表ニ於テハ臨時醫師ヲ雇入レ警察醫ノ事務ニ屬スル事件ヲ取扱ハシメタルトキハ其件數ヲ記入スヘシ  
巡查檢病ノ項ノ如キハ疾病又ハ負傷等ノ巡查ヲ檢診シタル件數ヲ記スヘク執行務ニ關スル檢病的戸口調査ノ數等ヲ記入スヘキモノニアラス

第二十六表

第一類警務 第一章 處務、權限

警護及臨檢		明治何年	
事故名	件數	事故名	件數
護衛		營業取締	
囚人護送		興行	
火藥護送		瘋癲	
傳染病者及其排洩物護送		監視	
傳染病家立番		死傷	
何々		盜難	
何々		船檢	
何々		汽船檢査	
合計		臨檢	
		家宅搜查	
		何々	
		何々	
		何々	
		檢査	
		何々	
		何々	
		何々	
		合計	

本表ハ一度ヲ以テ一件トシ戸口調査ノ如キハ一所帶ヲ以テ一件トスヘシ例セハ一戸ニ對シ一年間六回ノ調査ヲ爲シタルトキハ六ト記入スルカ如シ

〔京都警〕

第二十七表

〔京都警〕

盜難物		明治何年	
種別	別	月	計
強盜ニ遇ヒシ	貨類	一月	計
	穀類	二月	
衣類	三月		
其他	四月		
窃盜ニ遇ヒシ	貨類	五月	
	穀類	六月	
衣類	七月		
其他	八月		
強盜ニ遇ヒシ	貨類	九月	
	穀類	十月	
衣類	十一月		
其他	十二月		
窃盜ニ遇ヒシ	貨類	合計	
	穀類		
衣類			
其他			







第一類警務 第一章處務、權限

種別	逸走		取押		得失		種別	埋發		藏所有者下付	物得者下付
	走	逸	押	取	者	失		見	發		
馬	頭數	價格					古金銀	個數	價格		
牛	頭數	價格					何々	個數	價格		
犬	頭數	價格					何々	個數	價格		
鳥	頭數	價格					何々	個數	價格		
何	頭數	價格					何々	個數	價格		
合計	格	價					格	價	合	計	

四九〇

〔京都警〕

第三十表

〔京都警〕

告訴告發		明治何年	
種別	現行犯	準現行犯	非現行犯
刑法ノ罪	告發	告發	告發
告發	警察官吏	告發	警察官吏
刑法以外ノ罪	告發	告發	告發
告發	警察官吏	告發	警察官吏
警察犯	告發	告發	告發
告發	警察官吏	告發	警察官吏
合計			

一警察官吏ノ報告ニヨリ受理シタルモノハ告發ノ稱ニ合記スヘシ  
 一法令違犯若クハ府令違犯ニシテ違警罪即決例ニ依リ處分スヘキモノハ警察犯ノ項ニ合記スヘシ

第三十一表

令狀執行 明治何年

第一類警務 第一章處務、權限

四九一

第一類警務 第一章處務、權限

人員	拘引狀	拘留狀	逮捕狀	勞役場留置	合計

第三十二表

檢事へ送致セシ犯罪人員		明治何年	
種別	刑法ノ罪	刑法以外ノ罪	合計
前年末未決人員			
本年間送致人員			
合計	處罰	無罪其他解放	計
本年間			
本年未決人員			

一本表ハ犯罪ヲ捜査シ又ハ檢舉シタル人員ヲ記入シ犯人ヲ檢舉セス檢事豫審判事又ハ他官衙ノ

〔京都警〕

第三十三表

留置人員數		明治何年	
種別	刑法及其他ノ罪(警察犯ヲ除ク)	警察犯	合計
取調中ノ者	一日以上	一日以上	
傳遞中ノ者	三日以上	三日以上	
裁判所ノ囑託拘留ノ刑ヲ受ケシ者	六日以上	六日以上	
	十日以上	十日以上	
	十一日以上	十一日以上	
	二十日以上	二十日以上	
	三十日以上	三十日以上	
	六十日以上	六十日以上	
	九十日以上	九十日以上	
	一年以上	一年以上	

囑託ニヨリ合狀ヲ執行シ又ハ訊問シタルモノハ記入スヘカラス  
 一逃走ノ恐レナキヲ以テ身體ヲ拘束セサルモノト雖犯罪ヲ檢舉シタルモノハ送致人員ノ項ニ記入スヘシ  
 一搜查ニ著手セス告訴、告發、盜難屑等ノ書類ノミヲ送致シタルモノハ其人員ヲ朱記スヘシ  
 一警察署限リ放還シタルモノハ本表ニ記入セス、有罪ノ意見ヲ附シ送致シタル後檢事ニ於テ不起訴ノ處分ヲナシタルモノハ無罪其他解放ノ項ニ記入スヘシ  
 一未決人員ノ項ニハ檢事へ送致ノ後裁判確定ニ至ラサルモノヲ記入スヘシ

〔京都警〕

第一類警務 第一章處務、權限

第一類警務 第一章處務、權限

同上ノ保證金出サ、ル者	
勞役場留置	
何々	
合計	

一留置人名簿ニ記入シタルモノハ總テ本表ニ記入シ其以外ノモノハ記入スヘカラス  
一留置一日未滿ノ者アルトキハ其一欄ヲ設ケ記入スヘシ

第三十四表

興行種類及其度数 明治何年

種別	度数	種別	度数	種別	度数
演劇 (營業)					
演劇 (非營業)					
淨瑠璃 (營業)					
淨瑠璃 (非營業)					
新内 (營業)					
新内 (非營業)					

〔京都警〕

俄 (營業)		合計 (營業)	
俄 (非營業)			
相撲 (營業)		合計 (非營業)	
相撲 (非營業)			
何々 (營業)			
何々 (非營業)			
何々 (營業)			
何々 (非營業)			

〔京都警〕

一本表ハ舞又ハ狂言等單ニ演藝ノ總稱ヲ掲ケス何踊リ何狂言等委シク各種ノ藝名ヲ掲ケ成ヘク  
雜藝ノ部ニ記入セサルヲ要ス

第三十五表

警察取締營業者 明治何年十二月末現在

業名	越開業員現	業名	越開業員現
古道具 (營業)		汽船航海業	
古道具 (非營業)		汽船航海業 (非營業)	
古本 (營業)		汽船航海業 (營業)	
古本 (非營業)		汽船航海業 (非營業)	
飲料屋 (營業)		汽船航海業 (營業)	
飲料屋 (非營業)		汽船航海業 (非營業)	
食理受宿 (營業)		汽船航海業 (營業)	
食理受宿 (非營業)		汽船航海業 (非營業)	
船運業 (營業)		汽船航海業 (營業)	
船運業 (非營業)		汽船航海業 (非營業)	

第一類警務 第一章處務、權限

第一類營業 第一章 處務、權限	汽蒸	製造場 明治何年十二月末現在	種	種
	織紡製		別	種
	物績絲		員越開廢 業業員現	種
	鑄硝鍛		種	種
	物子治		別	種
	何何		員越開廢 業業員現	種
	々々		別	種
			員越開廢 業業員現	種
			種	種
			種	種

第三十六表

一古物商ハ本業兼業ヲ區別スルモノトス且一人ニシテ數業ヲ營ムモノアルトキハ其重ナルモノ、一ヲ本業トシ其他ヲ兼業トスヘシ

木下旅彫質	行	合
賃宿人刻	商	計
宿屋宿業屋		兼本業
自同同馬同人		何
轉車馬馭車輓力		何
業丁者業子業々		何
合		何
計		局

〔京都警〕

商	物										
刀	箔	烟	鋸	時	籠	小	袋	潰	古	古	古
劍	打	管		計	甲	物	物	銀	鐵	著	畫
兼本業	兼本業	兼本業	兼本業	兼本業	兼本業	兼本業	兼本業	兼本業	兼本業	兼本業	兼本業
場	技										
何	鞠	人	吹	玉	室	機	揚	大	觀	興	寄
		形			內	關			物	行	
		倒			射						
々	投	シ	矢	突	的	的	弓	弓	場	席	席
製藥	藥	烟	火	銃	屋	湯	氷	貯	製	同	牛
藥	劑	種	火	砲	其	蒸	雪	雪	氷	販	乳
者	師	商	賣	賣	他	汽	販	販	販	販	肉
			買	買		機	業	業	業	業	歌
			買	買		罐	業	業	業	業	歌
			買	買		ヲ	業	業	業	業	歌
			買	買		用	業	業	業	業	歌
			買	買			業	業	業	業	歌
			買	買			業	業	業	業	歌
			買	買			業	業	業	業	歌
			買	買			業	業	業	業	歌

〔京都警〕

第一類營業第一章處務、權限

機	織	襪	用	ユ	ル	製	造	場
ギ	ン	テ	張	刷	物	米	燈	酪
乾	電	精	氣	何	何	何	何	何
金	陶	銅	板	針	石	燐	銃	烟
吹	器	金	金	製	製	製	製	製
造	造	造	造	造	造	造	造	造
合	計							

第三十七表

營業人力車、馬車及通船(汽船ヲ除ク)數 明治何年十二月末現在

種	別	馬	人
		車	車
合	計		

〔京都警〕

通	船	合	計

〔京都警〕

一自轉車其他營業ノ車船アルトキハ臨時掲載スヘシ

第三十八表

停	止	業	名	人
		古	古	員
		物	物	
		質	質	
		屋	屋	
		何	何	
		商	商	
		業	業	
		合	合	
		計	計	

營業停止、禁止及特別取締 明治何年

禁	止	業	名	合
		古	古	
		物	物	
		質	質	
		屋	屋	
		何	何	
		商	商	
		業	業	
		合	合	
		計	計	

第一類營業第一章處務、權限





第一類警務 第一章處務、權限

年 末 現 員	本年間						合 計	本年間		
	計	其 他	死 亡 者	逃 亡 者	執行猶豫ヲ取消 サレタル者	他府縣へ出住セ シ者		満 期	計	其 他

〔京都警〕

第四十一表

〔京都警〕

行政執行處分調					
泥酔者瘋癲者其ノ 他救護ヲ要スル者 ニ對スル處分數	檢束シタル	度	人員	度	件數
	假領置シタル		男		
暴行鬭争其他公安 ヲ害スル虞アル者 ニ對スル處分數	檢束シタル	度	人員	度	人
	假領置シタル		男		
密賣淫者ニ對シ健康 診斷數	本人若ハ媒合者ノ費 用ニテ支辨シタル人	人			強制處分數
	府警察費ニテ支辨シ タル人員				
院ヲ命シタル數	府警察費ニテ支辨シ タル金額	圓			官廳ノ執行シタルモ ノ 第三者ヲシテ爲サシ メタルモノ 過料ニ處シタルモノ 直接強制シタルモノ

第四十二表 第一類警務 第一章處務、權限



第一類警務 第一章處務、權限

區分	器具沒收人員	處分人員	説諭ニ止メタル人員	合計
署内ニ於テ取扱タルモノ				
署外ニ於テ取扱ヒタルモノ				

第四十六表

項目	密賣淫人員		健康診断結果	
	娼妓廢業者	其他	有	無
一月				
二月				
三月				
四月				
五月				
計				

計	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月

○舊警察報告例目(抄録)

(明治二十三年十二月) (警本第四六四號)

第 一 類 警 務

一 人ニ殺害セラレタル者及殺害セラレントセシモノ、原因景況

第一類警務 第一章處務、權限

第 二 類 警 務 (第二表) 故意ヲ以テ傷セラレシ者ノ原因

第三ヨリハニ 洪水、海嘯、火災、獸害、凍ヘテ、落雷等ニテ死セシモノ及死セントセシモノ、狀況(同)

